

注意 凡テノ貨物ヲバルチック海沿岸ヨリ輸出スルヲ禁ス

第二條 前條ノ各類ニ列記スル貨物ハ芬蘭ニ輸出スルコトヲ得芬蘭ヨリ貨物ヲ外國へ輸出スル場合ハ芬蘭ノ現行特別法規ニ據ル

第三條 第一條ノ輸出禁止品ハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ同盟國及友好國ニ輸出スルコトヲ得

第四條 輸出禁止品ノ輸出許可ヲ得ントスル者ハ關稅局ニ請願スヘシ請願ニハ(一)請願人ノ職業、氏名、國籍、住所、關稅局ノ回答ヲ受領スヘキ現住所(二)輸出セントスル貨物ノ種類、數量、輸出先國名、到着地點、荷受人(三)貨物ヲ買入レル場所若クハ既ニ買入レル貨物ノ所在地(四)輸出ニ際シ貨物ノ通過スル稅關、海港名、出來得ヘクシハ輸送船名、船籍(五)直接輸出先國へ輸送スルモノナリヤ若クハ他國ヲ經由スルモノナリヤ他國經由ノ場合ニハ經由國名、貨物ノ通過スル國境地點ヲ記載スルヲ要ス

注意 本條請願ハ第一條ノ各類及將來追加セラルヘキ類中ニ列記スル貨物ニ關シテノミ之ヲ爲スコトヲ得若シ貨物輸出地點ニ於ケル軍事實憲カ前記各類ニ列記セラレサル貨物ノ輸出ヲ禁止スル場合ニハ其輸出ノ請願ハ該軍事實憲ニ之ヲ爲スヲ要ス

第五條 他人ノ委任ニ依リ請願其他ノ行爲ヲ爲スモノハ請願ニ公證ヲ經タル委任狀又ハ公證アル委任狀寫ヲ添附スルヲ要ス

第六條 輸出ヲ願出ツル貨物ノ數量ハ貨物ノ種類ニ從ヒ重量、價格其他ノ方法ニ依リ請

願中ニ之ヲ示スヘシ其不明ナルモノハ之ヲ受理セス

第七條 大藏省ニ於テ請願ニ係ル貨物ノ輸出ヲ許可シ得ヘシト認ムル場合ニ於テハ請願人ハ該貨物ノ輸送中其宛先ヲ變更セサルヘキ旨及宛先國ヨリ又ハ貨物カ中立國ヲ經由シテ輸送セラルル場合ニ於テハ該中立國ヨリ敵國市場へ仕向ケラレサルヘキ旨ノ當該外交機關ノ保證ヲ求メサルヘカラス右保證ハ外務省ヲ經テ大藏省ニ送達セラルヘシ

第八條 前條ノ保證ヲ得ルト共ニ大藏省ハ請願ニ許可ヲ與ヘ關稅局ヨリ請願人ニ證明書ヲ下付ス該證明書ハ他人ニ讓渡スルヲ得ス又該證明書ハ下付ノ日ヨリ二箇月間有効トス

注意 本令施行前大藏省ヨリ輸出ヲ許可セラレタル貨物ニ對シテハ利害關係人ノ請願ニ依リ關稅局ハ該貨物殘存數量ヲ取調ヘタル後第七條ノ證明書ヲ下付ス右證明書ナキ場合ニハ本令カ稅關ニ到達シタル日ヨリ二週間ヲ經過スルトキハ貨物ノ輸出ヲ許可セス關稅局ハ本令裁定ノ日ヨリ二箇月以内ニ證明書下付ノ請願アリタル場合ニノミ之ヲ下付スルモノトス右期限經過後ハ本令ノ定ムル手續ニ依ル新規ノ許可ヲ得ルニアラサレハ證明書ヲ下付セサルモノトス

第九條 本令ニ依リ輸出ヲ許可セラレタル貨物ニハ規定ノ荷送狀(千九百十四年法令集第五百五十七號第七百八十八條參照)及第八條ノ證明書ヲ添附スルヲ要ス

第十條 證明書ニ示サレタル貨物全部ヲ輸出シタル場合ニハ荷送狀ヨリ證明書ヲ引離シ稅關ニ於テ之ニ輸出ノ日附ヲ書入レ尙ホ海ニ依ル輸出ノ場合ニハ船名、船籍ヲ記入シ

露西亞國法令

テ之ヲ關稅局ニ送付スヘシ

第十一條 證明書ニ記載ノ貨物ノ一部ヲ輸出シタル場合ニハ稅關ハ輸出貨物ノ數量、輸出ノ時日ヲ記錄シ之ヲ關稅局ニ報告スヘシ殘ノ貨物全部ヲ輸出シタル場合ニハ第十條ノ規定ニ依リ證明書ヲ關稅局ニ送付スヘシ

第十二條 芬蘭ヲ經テ外國ヘ輸出スルコトヲ許可セラレタル貨物ニ對シテハ荷主ハ芬蘭ヘ輸出前輸出稅關ニ輸出證明書及荷送狀ノ外鐵道送狀若クハ其副本ヲ提示スヘシ該送狀ニハ芬蘭ヲ經テ輸出先國ヘ輸出スヘキ旨ヲ示スヲ要ス若シ送狀カ凡テノ點ニ於テ輸出許可ニ符合スルトキハ稅關ハ之ニ貨物ノ輸出ヲ許可スル旨記入ス送狀ニ芬蘭經由外國輸出ノ旨記載ナキトキハ貨物ハ芬蘭ヘ輸出スルモノト認メ稅關ハ何等ノ記入ヲ爲サス

注意 露都海港ヨリ送り出サルル貨物ニ對スル書類ハ露都海關ニ、露都芬蘭停車場

ヨリ送り出ス貨物ニ對スル書類ハ同停車場内稅關ニ、露國內地ノ停車場ヨリ送り出ス貨物ニ對スル書類ハ ベロオストロフ 白島稅關ニ提示スヘシ

第十三條 野禽、家禽、ハムヲ英國ヘ輸出スル場合ニ若シ貨物カスカンヂナイアヲ經テ海路直接英國ヘ輸送セララルトキハ箇々ノ場合ニ特別許可ヲ求ムルヲ要セス又第八條ノ證明ヲ要セス

第十四條 送狀ニ貨物ハ英國ニ在ル受取人ニ宛テ英國ノ港ヘ仕向ケラル旨明示セラレ且ツ其他ノ點ニ關シテハ送狀ハ之ニ關スル一般要求ヲ充シ居ルトキハ芬蘭停車場内稅

關ハ前條ノ貨物ニ對スル送狀ニ第十二條所載ノ記入ヲ爲スヘシ

第十五條 千九百十五年航海期中アルハンゲリスク縣海岸ノ露國民ニ屬スル船舶ニ依リ北部諾威ヘ本令附屬ノ表ニ列記スル材木食料品牧鹿産品ヲ輸出スルコトハ自由トス但シ船長ハ歸航ニ際シ貨物ノ諾威ヘ輸出セラレタルコトニ關スル露國領事館若クハ領事館ナキトキハ諸國官憲ノ證明書ヲ提示スルヲ要ス

第十六條 第十三條乃至第十五條ノ規定ニ依リ輸出セラレタル貨物ニ關シ輸出稅關ハ貨物ノ數量、輸出先國ヲ示シテ稅關稅局ニ報告スルヲ要ス

第十七條 本令附屬ノ表ニ列記スル貨物ハ箇々ノ場合ニ特別許可ヲ得ルコトナク又第八條ノ證明書ナクシテ露國又ハ聯合國ノ船舶ニ依リ直接聯合國ニ輸出スルヲ得本條ニ依ル船舶ノ出航ニ際シ稅關ハ船名、船籍、貨物ノ種類、數量、仕向港ヲ關稅局ニ報告スヘシ

第十八條 船舶ノ石炭庫内ニ船舶ノ航行ニ必要ナル石炭ノ存在スルノ事實ハ船舶ノ自由出航ヲ妨ケス船舶航行ニ必要ナル石炭ノ數量ハ海港長官、港務官憲ナキ場合ニハ稅關廳之ヲ定ム船舶カ露國港灣ヘ入航ノ際所持シタル石炭ハ其儘所持スルコトヲ得ヘク航行ニ必要以上ノ石炭モ之ヲ卸スニ及ハス

第十九條 一般規則ニ依リ輸出ヲ禁止シタル貨物ヲ前掲規定ニ依リ輸出許可ヲ得テ海路外國ヘ輸出スル場合ニハ海港稅關廳ハ船長ニ荷積ノ時期、荷積港、荷物ノ數量、名稱、仕向港ヲ示シタル證明書ヲ下付スルヲ要ス

第一條附屬表

本年五月十七日附報告ノ禁止品目表(六月九日本欄内參看)

但シ第一類中(豚「ペーコン」)ハ(豚「ペーコン」ヲ除ク)ノ誤、第二類水牛ノ次ニ馬ヲ加フ

第六類 波斯、阿富汗國境ヲ經テ外國ヘ駱駝ヲ輸出スルコトヲ禁ス

第十五條附屬表

千九百十五年度航海期中北部諾威ヘ向ケ輸出許可品目表

各種木材、茶、精良牛酪、鮭、鹿肉、獸舌、鹿毛、鹿皮

(備考) 北部諾威ヘ向ケ輸出ヲ許可セラレタル精良牛酪ノ數量ハ其輸出ノ都度アル

ハンゲリスク縣知事ノ指定スル所ニ據ル

第十七條附屬表

露國船舶又ハ聯合國船舶ヲ以テ各聯合國ヘ向ケ直接輸出ヲ許可セル品目表

玉蜀黍、「マクラーハ、スレープナヤ」(「ホップ」ノ一種)、穀、各種榨糟、「ペーコン」、牛脂、家禽及野鳥、鷄卵、腸、魚類、上等煙草(品種ハ消費稅局ノ決定スル所ニ據ル)、木材、製油用種子、牧草種子、各種獸皮(羊皮、山羊皮ヲ除ク)

○沿黑龍江ニ於ケル貨幣貴金屬輸出手續

(大正四年八月二日附在ニコラエウスケ) 帝國領事館事務代理山口爲太郎報告

露國ヨリ價額五百留以上ノ貨幣、有價證券、貴金屬、寶石類ヲ外國ニ輸出スルニハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルヲ要スルコトニ定メラレシカ爾來右ニ關スル事務ハ大藏省内信用ニ關スル特別官房之レヲ主管シ必要ノ場合ハ商工務省ニ協議ノ上執行シタルニ斯クテハ沿黑龍江總督府管内ニ對シ事宜ニ適セサルノ嫌アリト認メ今般大藏大臣ハ商工務大臣ト協議ノ結果同管内ヨリ外國ニ旅行スル者カ前記物件ヲ輸出スルニハ其都度總督ノ許可ヲ受クルヲ以テ足ルコトニ定メタリ尙露曆七月十四日發刊沿黑龍江總督府報ニヨレハ今般大藏大臣ハ砂金、金塊、金貨、金製品並金ヲ含ム金屬箔及屑ノ外國輸出ヲ禁止シタル由多分金及其製品等ハ其價格ニ拘ハラズ輸出ヲ禁止シタルナルヘク隨テ前記總督ノ許可ノ權限ハ當然制限ヲ受クルコト、ナルヘシ

○露國輸出禁止品中滿洲行貨物ニ對スル除外例(九月二十九日官報) 本件ニ關シ浦潮斯德駐在總領事代理領事野村基信ヨリ本月二十一日附チ以テ左ノ如ク報告アリ(外務省)

露國輸出禁止品中滿洲行貨物ニ對シ除外例設定ニ關シ浦潮斯德稅關監督管區長ハ關稅局ヨリ左記譯文ノ通電報ニ接シタル旨本月二十日附チ以テ通知アリタリ

浦潮斯德稅關監督管區長宛關稅局發電千九百十五年九月五日附第二八一八號

露西亞國法令

七月十五日輸出禁止品目表中除外例

左記貨物ハ特ニ許可ヲ得ルコトナクシテ滿洲へ輸出スルコトヲ許容ス

「マカロン」、綠茶及白毫茶以外ノ茶、消費稅務官ノ證明ヲ有スル砂糖、食鹽、煙草、牛酪及植物油、牛乳製品、魚類、魚卵、家禽野鳥、皮革製品、婦人及小兒用靴、羊皮以外ノ毛皮、木材、「セメント」、石灰、石油類、綿織物、毛氈、木綿製品、出來合服、包装用布、婦人用毛織物、小間物類、金及銅以外ノ金屬製品、貨客運送馬匹

第四 對敵通商禁止ニ關スル件

(一) 外國品原產地證明特別取扱

○外國品原產地證明特別取扱ニ關スル露國大藏省訓令(七月一日官報) 本件ニ關シ浦潮斯德駐在總領事代理領事野村基信ヨリ去月二十二日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ(去月二十六日本欄内參看)(外務省)

外國品原產地證明規則實施ノ場合特別取扱方ニ關シ大藏省ヨリ命令アリタル趣ヲ以テ本日當地稅關長ヨリ通知アリタル次第ハ大要電報セシカ右命令譯文左ノ如シ

大藏大臣ハ外國品原產地證明規則實施當日以降稅關ニ於テ左ノ通取扱ヲ爲スヘキ旨命令セリ

一、獨逸、埃國及土耳其ニ對シ我國ト協同シテ交戰スル國ヨリ直接輸入セラル、貨物

ノ原產地證明書ハ之ヲ提出スルニ及ハス

二、聯合國ヨリ通過貨物トシテ他ノ國ヲ經由シ若クハ途中ノ港ニ於テ積換ヲ爲シ輸入セラル、貨物ニ付キテハ發送地ニ於テ發給シタル原產地證明書ノミニテ足ル但シ右證明書ニハ外務省所管在外露國公館ノ右證明書ノ署名ヲ證明スルコトヲ要ス右證明書ニ記載スル貨物ノ原產地ノ正確ナルコトノ證明ハ之ヲ要セス

三、聯合國ヨリ郵便ヲ以テ輸入セラル、貨物ノ原產地證明書ハ之ヲ提出スルニ及ハス

四、左記貨物ノ原產地證明書ハ之ヲ提出スルニ及ハス
銅、アルミニウム、亞鉛、錫、鉛、安質母尼、鐵礦、螢石、黃鐵礦、硝酸、硫酸、染料用材、鍊、粃米、「コプラ」、「アスファルト」、原油製品、粗製護謨、粗製護謨、粗製樟腦、粗製硫黃、智利硝石、沃度、鞣皮用材及其越幾斯、棉花、粗製黃麻(染料用材ハ前電ニハ脱落シ居リタリ)

右ノ外大藏大臣ハ五月二十九日(露曆)以後露國へ輸入スル場合敵國ヲ通過スル聯合國及中立國貨物ニ特別關稅賦課ニ關スル千九百十五年三月十八日ノ命令第一項及同項附屬品目表ノ特別關稅ノ賦課ヲ適用セサルコトヲ命令セリ

(備考)

千九百十五年三月十八日ノ敵國產物及敵國ヲ通過スル貨物ニ對スル特別關稅賦課ニ關スル命令摘錄

千九百十四年八月二十日裁可ヲ經タル閣令ニ基キ千九百十四年十二月十六日閣議ニ據リ

大藏大臣ハ露國下戦争状態ニ在ル獨逸、埃洪國及土耳其ニ對シ左ノ取扱ヲ爲スヲ必要ト認メ右ニ關シ公布ノタメ元老院ニ報告セリ

- 一、上記諸國ノ土地及工業産物タル貨物並ニ是等諸國ヲ通過スル貨物ニハ其各國境ヨリ露國へ輸入ノ場合歐洲貿易國定關稅率ニ其十割ヲ附加シタル關稅ヲ賦課ス無稅品ニ對シテハ本令附屬品目表ノ額ヲ賦課ス

附屬

無稅品課稅品目表

歐洲貿易國定稅率條項	重量單位	關稅額
第一號ノ中馬鈴薯	包裝共「ブード」	〇・三〇
第三十三號附則一	「ブード」	〇・三〇
第三十七號附則二	包裝共「ブード」	〇・五〇
第三十九號附則	同	〇・四〇
第四十號	同	〇・四〇
牛	一頭	五・一〇
犢	同	五・三〇
馬	同	八二・六五
禽類	同	〇・六〇

豚仔豚	同	一六・六〇
犬	同	三六・九五
騾馬	同	一一・七〇
駱駝	同	四七・三五
驢馬	同	七四・七五
其他ノ家畜	同	八四・一〇
生魚	包裝共「ブード」	五・〇〇
粗製蜂蜜	「フロント」	一一・〇〇
第四十一號第一項	同	〇・三三
第四十四號	同	六・一〇
第五十八號第一項 a	「ブード」	〇・一一
第五十九號附則三	同	一・四〇
第六十二號第一項	包裝共「ブード」	〇・三〇
同上	同	一・七〇
第六十四號第四項	「ブード」	〇・七〇
第六十五號第二項	同	〇・一五
第六十六號第一項	同	〇・〇七
第七十一號附則	同	一・〇五

露西亞國法令

第七十七號附則一(硝子破片)	同	〇・一五
第七十八號附則(二十五平方「ウエルシヨ」 「ク」以下ノ硝子破片)	同	五・〇〇
第七十九號附則	同	〇・一五
第八十九號	同	〇・二〇
第三百三號第一項	同	一・六五
第三百三號第三項	同	〇・七〇
第三百十二號附則一	包裝共一「ブード」	七・三〇
同	同	二・三〇
第三百二十四號第一項附則	同	〇・七五
第三百六十七號第六項	一「ブード」	五・二〇
同	同	五・二〇
同	同	五・六〇
同	同	四・八〇
同	同	五・一〇
第三百七十五號附則三	積載量一噸ニ付キ	六・〇〇
第三百七十五號第一項ニ屬スル船舶	同	六・〇〇
同	同	六・〇〇
同	同	二四・〇〇

此外第三百七十五號第二項及第三項ニ屬スル船舶ヨリ積載量ニ對スル關稅外ニ左
八日ノ通賦課ス

汽罐熱面積一平方呎ニ付キ	九・〇〇
第三百七十五號附則三(錨、鎖、繩)	三・六〇
第三百七十六號第一項aノ附則	一・〇〇
第三百七十八號第一項ノa	一五・〇〇
第三百七十八號第一項附則	二・四五
同	一・九〇
第三百七十九號第三項	包裝共一「ブード」
同	三・四〇
第三百九十號附則四	一「ブード」
同	二・一〇
第二百十七號	同
同	四〇・一〇

第五 糧食等ノ取締ニ關スル件

(一) ニコラエウスクニ於ケル日用品値上禁止令一
時撤廢

(大正四年六月二十一日附在ニコラエウスク
帝國領事館事務代理山口爲太郎報告)

時局發生後ニコラエウスク市ハ日用品ノ値上防遏ノ爲メ價格ヲ制限シタルカ其他當市ノ商品漸ク缺乏シ一般ニ物資ハ需給ノ均衡ヲ失シ運賃騰貴シタル等ノ理由ニヨリ多數商品ノ價格者ルシク高騰シタル爲メ當市商賈ハ前記制限價格ニテ販賣ヲ繼續スルコト困難トナリタルヲ以テ制限價格ノ改正ヲ市會ニ請願シタル處今般市會ハ新價格表制定マテ牛肉ヲ除ク外從前ノ價格ノ制限ヲ撤廢スルコトヲ決議シ州知事ノ認可ヲ受タリ

(二) 露國ノ製革保護

(大正四年七月三日附在莫斯科帝國總領事代理領事平田知夫報告)

皮革ハ今次戰爭ニ於ケル露國軍需品中重要ナルモノ、一ナルニ製革原料ハ從來外國ヨリ供給ヲ仰キ來レルヲ以テ當國政府ハ一般貨物ノ鐵道運賃ニ戰時稅ヲ賦課セルニモ拘ハラズ製革原料ノ乾燥シタルモノニ對シ浦潮ヨリ西伯利線ガムスク驛以西ニ向フ直輸運賃ハ露曆本年二月五日以降特別輕減ヲ加ヘ來リタルニ今回更ニ之レヲ低減シ該原料品ノ同區域鐵道運賃ハ布度積小口輸送ニ對シ運賃率表第十三條ニヨリ每布度一露里ニ付 $\frac{1}{18}$ 哥、 $\frac{1}{36}$ 哥トシ大口貨車積ニ對シテハ同表第三十條ニヨリ每布度一露里ニ付 $\frac{1}{24}$ 哥、 $\frac{1}{65}$ 哥トナシ露曆六月十八日以降實施スルコト、ナレリ

又皮革製造組合ヨリノ請願ニ係ル同業者補助金二百萬留貸下ノ件ハ曩ニ大藏大臣ヨリ左記

條件ヲ具シテ內閣會議ニ附シタルニ此程同閣議ニ於テ允可セリ

製革業補助金貸下條件

- 一、貸下金ハ資本金ニ繰入レ外國ニ注文スル製革原料購入費ニ限り使用スルコトヲ得ヘシ
- 二、貸下期限ハ一箇年トシ借入中五分ノ利子ヲ附スル事
- 三、擔保トシテ製革業組合ハ露國外國貿易銀行又ハ大藏大臣ノ指定スル私立銀行ヨリ保證書ヲ差入レ若シ期限内ニ拂込チナサル場合ニハ該銀行ハ大藏大臣ヨリノ通告ヲ受ケタル時ヨリ一週間内ニ貸下金元利共仕拂ノ義務ヲ負擔ス
- 四、組合ニシテ製革原料ノ分配ニ關スル陸軍大臣ノ指令ニ服セサル時又ハ該指令ヲ遂行セサルトキ若クハ貸下金カ前顯ノ指定費途ニ使用セラレサルコトヲ發見シタルトキハ貸下金ハ利子ヲ附シ全部返納スヘキモノトス

(三) 露國戰時工業委員會

(大正四年六月二十五日附在莫斯科帝國總領事代理領事平田知夫報告)

今次戰爭ノ持久ニ伴ヒ軍器其他軍需品ノ缺乏ヲ補給スルタメ露國ニ於テモ佛英兩國ノ例ニ倣ヒ國內各種ノ商工業者ヲシテ舉テ右補給後援ノ任ニ當ラシメントシ近來所謂全露國工業

ノ動員問題ニ關シ朝野ノ論議盛ナリシカ六月八日ヨリ同十日ニ互リ露都ニ開催セシ第九回全露國商工業者大會ハ各地實業界ノ有力ナル代表者、上、下兩院議員、學者及政府側代表者等無慮六百餘名ニ達シ參列ノ上下兩院議長其他ノ熱烈ナル事局ニ關スル演說アリ普通議事ハ之レヲ他日ニ繰下クルコトトシ舉國一致商工業ノ全力ヲ舉ケ國防事務ニ充ツル目的ヲ以テ戰時工業委員會ナルモノヲ設置スルコトトシ大要左ノ通り決議セリ

決議事項

- 一、國防上ノ要求ヲ滿足セシムル爲メ未タ利用セサル露國工業力全部ノ組織ヲ圖リ
- (イ)商工業者ノ一致ヲ圖ル爲メ業務委員會編成方ヲ各地商工業團體ニ委任シ以テ現在商社力陸、海軍軍需品ノ製造ニ應シ得ル程度ヲ明カニシ且ツ各工場間ノ一致協力ヲ圖リ至急製造方法、作業ノ順序及原料、燃料ノ運搬方法及勞働者需要ノ程度決定等ノ商議ヲナシ
- (ロ)各地方團體ノ事務統一及是等團體ト政府トノ一致ヲ圖ル爲メベトログラードニ中央戰時工業委員會ヲ設置シ同會ニハ學術技工界、各工業團體、鐵道及汽船其他全露國地方自治團及同都市團等各代表者ヲ委員トシテ招致スルコト
- 二、中央委員會ニ對シ特ニ交通運輸機關並ニ工業ニ必要ナル材料供給等ノ問題ニ注意ヲ拂ハンコトヲ依囑スルコト之レカ爲メ委員會ヲ各部ニ區分シ且ツ業務總體ノ計畫ヲ立案シ之レヲ地方團體ニ通知スルコト
- 三、戰時工業委員會創立費トシテ商工業者大會評議會資金中ヨリ二萬五千留ヲ支出シ同

評議員ヲシテ經費支辨及之レカ填補方法講究ノ任ニ當ラシムルコト

四、戰時工業委員會ハ軍隊ノ要求ヲ滿足セシムルコトニ努力セサルヘカラス本大會ハ露國ノ工業カ本事業ニ全力ヲ傾倒シ歴史の偉業ノ遂行上有力ナル適材ヲ召集シ得ルモノタルコトヲ確信ス

五、萬難ヲ排シ今次ノ戰役ヲ最後ノ勝利ヲ得ル迄繼續スルノ要アルヲ認メ且ツ總司令官殿下ノ揮下ニアル我陸海軍カ國民ト一致協力シテ歴史の偉業ヲ遂行スルヲ確信シ本大會ハ全國民(就業者及勞働者ヲ含ム)ニ對シ沈著ニ各自業務ニ從事センコトヲ檄シ且ツ戰時工業委員會ハ其工業ニ關スル計畫ヲ案シ自己ノ負フ責任ヲ重シ既往ノ經驗ヲ利用シ臨機補給ニ努力セサルヘカラス

六、本會ハ露國ノ工業カ國家ニ對シ義務ヲ果シ陛下ノ御嘉賞ヲ受クルヲ確信ス、本會ハ委員會ニ對シ適當ノ時機ニ於テ露國商工業者忠良ノ微志ヲ 陛下ニ伏奏スル爲メ特派員派遣ノ件ヲ委任ス

而シテ莫斯科其他重要都市ニ於テハ爾來取引所ヲ中心トスル各地方戰時工業委員會ノ編成ニ著手シ事務ノ分擔、役員ノ選舉等ヲナシ夫々活動ノ歩ヲ進メツ、アリ

○露國戰時工業委員會大會

(大正四年八月十八日附在莫斯科帝國總領事代理領事平田知夫報告)

露國戰時工業委員會設置ニ關シテハ先ニ決議スル所アリシカ爾來國內各地ニ於テ續々同地方委員會設置セラレ七月二十六日現在數六十七箇ニ達シ殊ニ莫斯科ノ如キハ之レ等ニ率先シテ當市取引所其他商工業界ノ有力家ヲ網羅セル一大委員會ヲ設ケ幹部及各部ノ職員及事務擔掌ヲ定メ著々軍需品給與事業ノ發展ニ力ムル所アリ又在露都中央委員會ハ曩ニ大要次ノ如キ會則チ規定シ各地方委員會ト相應シテ事務ノ進捗ヲ計リツ、アリシカ兩者ノ間ニ續發セル幾多ノ問題評議ノ爲メ八月八日ヨリ十日ニ互リ全露國戰時工業委員會大會露都ニ於テ開催セラレ當國下院議長ヲ初メ上下兩院議員、全露國都市聯合會會頭、同地方自治團聯合會會頭及各地方委員會代表者等無慮八百餘名參列シテ第一日ニハ議長選舉(ア、イ、ク、ヲコフ氏當選)ノ後下院議長其他有力家ハ時局下露國工業力ニ關スル演說ヲナシ第二第三ノ兩日ニ於テ決議スル所アリ

中央戰時工業委員會規定

商工業代表者大會評議員會カ協賛ヲ與ヘテ實施セラレニ至リタル中央戰時工業委員會規定左ノ如シ

第一條 中央戰時工業委員會ハ陸海軍ニ必要ナル武器、糧秣等ノ供給ヲ援助シ且ツ地方戰時工業委員會トノ一致ヲ謀ルヲ以テ目的トス

第二條 中央戰時工業委員會ハ之レヲペトログラードニ設置ス

第三條 本會常置員ハ左ノ如シ

(イ)商工業代表者大會評議員 (ロ)地方戰時工業委員會代表者 (ハ)全露國都市聯合會

及同地方自治團聯合會ヨリ各二名宛ノ代表者及ヒペトログラード及莫斯科兩市ヨリ各一名宛ノ代表者 (ニ)各省代表者 (ホ)委員會ノ決議ニヨリ招致セラレモノ前掲ノ外會議ニ列席スルモノ左ノ如シ

(イ)商工業團體代表者 (ロ)委員會ノ指定スヘキ學藝ニ關スル官廳及協會代表者

第四條 委員會會議ニハ學識及技能ヲ以テ本會ニ貢獻シ得ルモノヲ招致スルコトヲ得

第五條 商工業代表者大會評議員會議長及副議長ハ本中央委員會議長及副議長ノ職務ヲ行フ

第六條 委員會ハ各專門ニヨリ之レヲ各部ニ分ツ其部ノ組織左ノ如シ

(一)委員會議員中同部ニ就職スルヲ欲スルモノ (二)全部ノ決議ニヨリ招致セラレ、モノ但シ各部員ハ同等ノ決議權ヲ有スルモノトス

第七條 各部ハ部長ヲ互選シ其執ルヘキ事務ヲ規定ス又各部ハ支部ヲ置キ之レカ事務ハ各部ニ於テ規定ス

第八條 各部ハ獨立シテ其專門ニ係ル問題ヲ決定シ之レヲ委員會ニ報告スルモノトス

第九條 各部ニ於テ起リ且ツ其專門外ニ亘ル問題ニ對シテハ委員會ノ裁決ヲ仰ク部内ニ一致ヲ見サル問題亦之レニ準ス

第十條 地方委員會ノ事務規定ハ當該地方委員會ニ於テ決定シ參考ノ爲メ之レヲ中央委員會ニ報告スルモノトス地方委員會ニシテ直接政府官廳ト交渉ノ場合ハ其都度參考ノ爲メ中央委員會ニ報告スルモノトス

第十一條 本規定ハ委員會出席議員ノ三分二以上ニヨリ採決セラレタル場合ニ限り變更乃至増補スルコトヲ得

中央委員會ニハ左ノ通り各部ヲ置ク

- (一)機關及機械製造部
- (二)金屬部
- (三)爆發物部
- (四)醫務衛生部
- (五)物品部
- (六)糧秣部
- (七)財政部
- (八)運輸部
- (九)燃料部
- (十)勞働部
- (十一)法律部
- (十二)發明部

露國戰時工業委員會大會決議概要

- 一、軍需品補給ニ關スル特別會議ノ件 (イ)現行陸軍省内部制度ニテハ到底満足ニ軍需品ヲ補給スルコト不可能ナルニ付之レカ改革ヲ要スルモノト認ム (ロ)右改革ノ基礎トシテ(一)陸軍砲兵、技術、經理及衛生ノ各本部ハ衆望ヲ有シ且ツ廣大ナル特權ヲ附與セラレヘキ陸軍次官ノ管下ニ統一ヲ計ルコト(二)該次官ノ下ニハ立法部及政府側ノ代表者以外ニ戰時工業委員會、全露國都市及地方自治團聯合會並ニ勞働者等ノ各代表者ヨリ成立スル特別會議ヲ設置スルコト且ツ特別ノ場合ニハ重要ノ地點ニ強制的權能ヲ有スル前記各代表者ヨリ成立スル特別機關ヲ設置スルコト
- 二、中央戰時工業委員會會則ノ件 別紙甲號ノ會則ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモ大體ハ該則ヲ採用セリ
- 三、友好國ヨリノ幫助ニ關スル件 露國ニ於テ到底製造ノ見込ナキモノハ之レヲ外國ニ仰カサルヘカラス依テ之レ等物資ノ供給交渉ノ爲メ盟邦タル英佛並ニ日本等ニ委員ヲ特派スルコト

四、勞働者問題

軍需品製造ニ必要ナル技師、職工等ヲ戰地ヨリ召喚方切ニ其筋ニ稟請ノ事、捕虜使用法改正、「スラヴ」族ノ敵國民使用法制定方、臨戰危險地帯ヨリ工場及勞働者ヲ適時撤退ノ件及之等勞働者及避難民ノ居住及旅行ノ自由ニ關スル制度改訂、戰時中朝鮮人支那人及日本人ノ勞働者ヲ使用スルコト、囚徒使用及工場法ノ規定セル婦女從働及一般勞働者職工等ノ從働時間制限變更ノ件及猶太人ニ對スル特別制限法改正ノ件等ニ關シ其筋ニ稟議スルコト

五、徵發及撤退ノ件

(一)徵發ハ事情已ムヲ得サル場合ニ限り特別注意ヲ以テ之レヲ行フコト(二)徵發ハ地方都市及商工業上重要ノ地點ニ於テ關係官廳側代表者ト同數ニ達スヘキ地方戰時工業委員會、都市及地方自治團各聯合會及町村經濟團等代表者ヨリ成立スル徵發委員會ニヨリ行ハルヘキモノトス(三)撤退問題ニ關シテハ其既ニ撤退セラレタルモノ又ハ今後撤退セラレルヘキ工場ニ對スル補助金下附條件及手續等細則制定方中央委員會ニ委任スルコト

六、燃料供給ノ件

各工場ニ供給スヘキ燃料トシテ伐木ニ全力ヲ盡スヘキコト之カ爲メ個人經營ノ伐木業ヲ獎勵シ且ツ新ニ機關ヲ設クルカ又ハ現ニ存在スル地方薪木供給委員會ヲ改造シテ之レニ公共團體及商工業者ヲ參加セシメ國庫ヨリノ補助金ヲ貸下クルコト石油ニ關シテハ製出期間ヲ延長シ且ツ新ニ産出地域ヲ個人ニ貸下方政府ノ注意ヲ喚起スルコト石炭採掘ニ關シテハ捕虜及避難民使傭ノコト

七、原料供給ノ件

原料其他輸送ニ際シ戰時工業委員會ハ鐵道運輸ノ監視權ヲ得ルコト内

國金屬製出力ヲ増加セシムルコト及露國內ニ得ルコト不可能ノ金屬類ハ政府又ハ委員會ノ一手ニヨリ之レヲ輸入シ英國ヨリノ輸出及瑞典經由輸送ヲ輕易ナラシムルコト及在外

國資金ヲ得ル爲メ外債十億留ヲ起スコト

八、軍需品供給ニ從事スヘキ地方共濟組合法案提議方下院ニ要請スル件

九、委員會經費ノ件 中央及地方戰時工業委員會ノ維持費ハ個人及團體ヨリノ寄附金及委

員會ヲ經由スル註文品ニ對スル歩合(註文價額ノ百分ノ一トシテ約千萬留ニ達スル見込

ノ由)ヲ以テ之レニ充ツルコト

十、特赦ノ件 軍需品製造ニ囚徒ヲ使傭スルニ就キ特赦ノ詔敕ヲ仰クヘク其筋ニ請願スル

コト

十一、上下兩院ニ於ケル波蘭選出議員ニ對シ本委員會ヨリノ挨拶ヲ送致スルコト

伊太利國法令

伊太利國法令

第一 開戰當時伊國港灣ニ現在セシ敵國商船ノ取扱ニ

關スル件

(一) 五月三十日附勅令

○開戰當時伊國港灣ニ現在セシ敵國商船ニ對スル處置(八月二十六日官報) 本件ニ關シ伊國駐劄林特命全權大使ヨリ本年六月十七日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ(外務省)

伊國ハ開戰當時其港灣ニ現在セシ敵國商船ノ法律上ノ地位ニ關シ從來ノ法規ニ變更ヲ加ヘタルカ本月十二日公布セラレタル本年五月三十日附勅令第八百十四號ハ該商船ニ對シ明確ナル法律上ノ取扱ヲ決定シタリ

開戰當時伊國領水内ニ現在セシ敵國商船ニ對シテ出港ノ自由ヲ與ヘサルノ點ヲ除キ伊國ノ法制ハ大體ニ於テ千九百七年海牙第六協約ノ規定ヲ採用シタルモノト謂フヘシ

左ニ右勅令ノ邦譯ヲ示サン

千九百十五年五月三十日附勅令第八百十四號(六月十二日公布)

第一條 開戰當時伊王國及其殖民地諸港灣並ニ領海内ニ現在スル敵國商船ハ地方海事官憲ノ抑留ニ付セラル

第二條 海軍官憲ハ特別技術委員ヲ組織シ抑留商船ニ就キ其船舶構造及内部構成等ヲ檢

伊太利國法令

- シ該商船ハ場合ニ應シ軍艦ニ假裝セラレ得ルモノナルヤチ判定ス
- 第三條 軍艦ニ假裝セラルヘキモノト認定セラレシ商船ハ之ヲ拿捕シ捕獲審檢所ニ於テ其最終審判ヲ爲ス
- 第四條 軍艦ニ假裝セラレサルモノナルコトノ認定ヲ受ケシ商船ハ抑留ヲ繼續セラル
- 現戰爭中別ニ勅令ヲ以テ定メラルヘキ規則ニ準シ海軍省ハ右商船ヲ徵發シ得
- 第五條 第一條ノ適用ヲ受ケシ商船ノ積載セル敵貨ハ差押ヘラレ戰後無償ニテ還付セラレ或ハ賠償ヲ以テ徵發セラル
- 保存ニ堪ヘサル貨物ハ海軍省令ヲ以テ定メラルヘキ特別規則ニ準シ賣却セラルヘシ
- 第六條 第一條ニ規定セル商船ノ積載セル中立貨ハ解放セラル但シ政府ハ必要ノ場合ニ於テ賠償ヲ與ヘ之ヲ徵發シ得
- 第七條 第五條及第六條所記貨物ノ國籍決定及其差押又ハ解放等ニ關シテハ捕獲審檢所ノ宣告ニ依ル
- 第八條 第一條規定ノ敵國商船ノ船員ニ對シテハ千九百七年十月十八日海牙第十一協約第五條及第六條ノ規定ヲ適用ス
- 第九條 直接又ハ間接ニ敵對行爲ヲ企テ或ハ遂行シタル敵國商船ニ關シテハ本令ノ規定ヲ適用セス
- 第十條 本令ノ規定ハ開戰以前最終港ヲ出發シ開戰ヲ知ラスシテ伊國領海内ニ入り來リシ敵國ノ商船ニ對シテモ亦之ヲ適用ス

(二) 六月十七日附勅令

○伊國ニ於ケル抑留敵國商船ノ地位(九月十日官報) 本件ニ關シ伊國駐劄林特命全權大使ヨリ本年七月五日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ(八月二十六日本欄内參看)(外務省)

伊國政府ハ開戰當時伊國港灣ニ現在セシ敵國商船ハ原則トシテ之ヲ抑留ニ付シタルカ該抑留船舶ノ地位ニ關シ本年六月十七日附勅令第九百五十七號(七月一日發布)ヲ以テ更ニ規定スル所アリタリ右勅令譯文左ノ如シ

千九百十五年六月十七日附勅令第九百五十七號

第一條 敵國商船ニシテ戰爭開始ノ當時王國並ニ殖民地ノ港灣又ハ領水ニ現存シ千九百十五年五月三十日附勅令第八百十四號第一條ニ依リ抑留ニ處セラレタルモノハシヨノハ海軍局ニ於テ臨時登錄簿ニ登錄セラレ國旗ヲ掲揚シ左ノ條項ノ規定ニ從ヒ航海スルコトヲ得

第三條 千九百十五年五月三十日附勅令第八百十四號第三條ノ規定ニ依リ捕獲セラレタル船舶ハ海軍省ノ使用ニ委セラル海軍省ハ該船舶ニ對シ捕獲審檢委員ノ決定ヲ宣告スルマテ該船舶ヲ艤裝シ船員ヲ乘組マシメ以テ王國政府ノ役務ノタメニ航海セシムルコトヲ得

第三條 千九百十五年五月三十日附勅令第八百十四號第四條ノ規定ニ基キ抑留セラレタ

ル船舶ハ戰爭繼續期間海軍省ニ於テ之ヲ徵發スルコトヲ得而シテ之ヲ王國海軍ニ於テ
艦裝シ或ハ王國行政官廳其他ノ公共團體ノ運用ニ貸付ケ或ハ海軍大臣ノ許可ヲ以テ海
運會社ノ營業ニ貸與スルコトヲ得

右本條記載船舶運輸ニ關シテハ伊國海運業ニ對スル規定ヲ適用スヘシ但シ船舶ハ軍艦
ニ假裝セラレサルモノトス

第四條 海軍省ニ於テ特別委員構成セラレ商船局長委員長ト爲リ委員ハ上級艦長
(Ufficiale Superiore di Vascello)一名、商務船局高級官吏一名、港務長 (Capitano di
Porto) 一名ヨリ成リ第三條規定ノ船舶ノ運用許可ノ條件ヲ規定ス

第五條 右運用許可條件ニハ毎月運賃ノ支拂ヲ含ム其額ハ徵發當時ノ船舶實價ニ對スル
商業的利子ニ該當スルモノトス

前項毎月運賃中ヨリ船舶運用ノタメ必要トスル大小修繕費用ハ之ヲ控除ス

船繰(?)其他運用ニ要スル費用ハ行政官廳又ハ會社等ニ於テ負擔スヘキモノトス

第六條 前條規定ノ毎月運賃額ヨリ控除額ヲ差引キタル殘額ハジエノバ海軍局海員貯金
金庫ニ設ケラレタル特別基金ニ拂入レラルヘシ

戰爭終局後該基金ノ處分ニ關シテハ特別規定ニ基キ爲サルヘシ

第二 アドリヤチック沿海塊洪國海岸封鎖ノ件

(一) 五月二十六日ノ封鎖宣言

Ambassade du Japon,

Rome.

Le Ministère des Affaires Étrangères a l'honneur de signifier à l'Ambassade du
Japon la déclaration suivante :

Le Gouvernement Royal italien, vu l'état de guerre existant entre l'Italie et
l'Autriche-Hongrie, considérant que les autorités navales austro-hongroises font usage
de quelques ports de la côte albanaise pour le ravitaillement clandestin de leur flot-
tille de guerre, déclare qu'à partir du 26 mai courant.

1° le littoral austro-hongrois s'étendant de la frontière italienne, au nord,
jusqu'à la frontière monténégrine au sud, avec tous ses ports, îles, havres, crique;

2° le littoral de l'Albanie s'étendant de la frontière monténégrine au nord,
jusqu'au Cap Kiephali, y compris, au sud;

seront tenus en état de blocus effectif par les forces navales italiennes.

Les limites géographiques des territoires bloqués sont les suivantes :

Pour le littoral austro-hongrois : limite nord 45° 42' 50" de latitude N. et 13°
15' 10" de longitude E. Greenwich; limite sud 42° 06' 25" de latitude N. et 19°
05' 30" de longitude E. Greenwich.

Pour le littoral albanais : limite nord 41° 52' de latitude N. et 19° 22' 40" de
longitude E. Greenwich; limite sud 39° 54' 15" de latitude N. et 19° 55' 30" de

longitude E. Greenwich.

Les bâtiments des Puissances amies ou neutres auront un délai qui sera fixé par le Commandant en chef des forces navales italiennes à partir de la date de la déclaration du blocus, pour sortir librement de la zone bloquée.

Il sera procédé contre tout bâtiment qui, en violation du blocus, tentera de traverser ou aura traversé la ligne de barrement constituée entre Cap d'Otranto et le Cap Kiephali, conformément aux règles du droit international et aux traités en vigueur.

Le Ministère des Affaires Etrangères d'Italie saura gré à l'Ambassade du Japon de vouloir bien porter, aussitôt que possible, la déclaration susdite à la connaissance de son Gouvernement.

Rome, le 26 mai 1915.

Ambassade du Japon

Rome.

右要領英譯文

(六月四日ロンドン・ガゼット)

Foreign Office,

May 31, 1915.

The Secretary of State for Foreign Affairs has received a telegram from His Majesty's Ambassador at Rome stating that the Italian Government have declared a blockade, commencing on May 26th, of the coast comprised within the limits described below:—

1. Austro-Hungarian coast from Italian frontier on north to Montenegrin frontier on south, including all islands, ports, bays, etc.

2. Albanian coast from Montenegrin frontier on north to Aspri Ruga (Lat. $40^{\circ} 9' 36''$ N., Long. $19^{\circ} 35' 45''$ E.) inclusive on south.

Friendly and neutral ships will be allowed a time limit to be fixed by Commander-in-Chief of Italian Naval Force for free exit from blockaded zone.

(二) 五月二十日ノ封鎖區域擴張ノ宣言

Ambassade du Japon,

Rome.

Faisant suite à la communication en date du 26 de ce mois le Ministère Royal des Affaires Etrangères a l'honneur de porter à la connaissance de l'Ambassade Impériale du Japon que la limite Sud du blocus du littoral de l'Albanie a été fixée en date du 30 de ce mois à la pointe de Aspri Ruga (Strade Bianche).

伊太利國法令

三八九

A la suite de cette disposition les limites géographiques du territoire albanais bloqué sont les suivantes :

Limite Nord : 41° 52' de latitude Nord et 19° 22' 40'' de longitude Est Greenwich ; limites Sud 40° 9' 36'' de latitude Nord et 19° 35' 45'' de longitude Est Greenwich.

La nouvelle ligne de barrement constituée entre le Cap d'Otranto et Aspri Ruga formera la ligne du blocus à tous les effets de la Déclaration du 26 mai 1915.

Le terme concédé aux navires des puissances amies ou neutres pour sortir de la zone bloquée a été fixé par le Commandant en chef des forces navales italiennes à dix jours à partir de la date de la Déclaration du blocus.

En priant l'Ambassade du Japon de vouloir bien informer de ce qui précède le Gouvernement Japonais le Ministère Royal des Affaires Etrangères a recours à son obligeance habituelle pour connaître la date à laquelle le terme pour la sortie de la zone du blocus a été communiqué aux Agents du Gouvernement susdit dans les ports bloqués par la flotte Italienne.

Rome, le 30 mai 1915.

Ambassade du Japon

Rome.

(三) 七月六日ノ封鎖區域擴張ノ宣言

Ambassade du Japon

Rome.

Le Ministère Royal des Affaires Etrangères a l'honneur de porter à la connaissance de l'Ambassade du Japon à Rome qu'à partir du 6 Juillet courant le blocus déclaré par le Gouvernement Italien en date du 26 et du 28 Mai dernier est entendu à toutes les zones de la Mer Adriatique, au Nord de la ligne Otranto-Aspri Ruga (Strade Bianche). La navigation dans la mer susdite, au Nord de cette ligne, est par conséquent défendue aux navires marchands de tous les Etats.

Des sauf-conduits pourront être délivrés par le Ministre de la Marine, ou par ses délégués, aux navires qui désirent se rendre dans les ports de la Mer Adriatique appartenant à ou occupés par l'Italie et le Monténégro. Ces navires devront se diriger vers le port de Gallipoli, où ils pourront recevoir, après vérification de la part de l'autorité maritime locale, un sauf-conduit pour entrer dans l'Adriatique.

Les navires qui veulent sortir de la zone bloquée devront, après s'être munis du permis des autorités du port de départ, se diriger à Bari, où un sauf-conduit de

sortie pourra leur être délivré.

Les navires munis du sauf-conduit ne pourront se présenter devant la ligne de blocus Otranto-Aspri-Ruga que pendant le jour ; ils devront mouiller sur cette ligne à une distance ne dépassant pas celle de 5 milles de la côte italienne, afin de recevoir la visite des navires de guerre destinés à cet effet.

La navigation dans la Mer Adriatique des navires de commerce de toute nationalité ayant obtenu le sauf-conduit d'entrée ou de sortie est réglée par les dispositions du Decret Royal du 13 Juin 1915, No. 899, et par toute autre disposition que l'autorité maritime italienne croira établir cas par cas pour les navires admis à entrer ou à sortir de l'Adriatique.

Tout navire contrevenant aux dispositions susdites sera considéré comme coupable de violation du blocus et pourra être capturé et confisqué, ainsi que les marchandises existant à son bord, conformément aux règles en vigueur.

Rome, le 5 Juillet 1915.

右封鎖宣言ノ英譯文

(七月二十三日ロムニハカキル)

Foreign Office,

July 20, 1915.

The Secretary of State for Foreign Affairs has received from His Majesty's Ambassador at Rome the following translation of a Royal Decree, dated July 4th, and published in the Italian Official Gazette of the 8th:—

Article 1.—The Blockade declared by the Royal Government on the 26th and 30th May, 1915, is extended to the whole zone of the Adriatic Sea to the North of the Otranto-Aspri-Ruga (Strade Bianche) line.

Consequently the navigation of the Adriatic Sea to the North of this line by merchant ships of any nationality is forbidden.

Article 2.—The Minister of Marine, or the Authorities delegated by him, may nevertheless grant, after necessary enquiries, special safe-conducts to merchant ships desirous of proceeding to ports belonging to or occupied by Italy or Montenegro.

Vessels desirous of entering the Adriatic must proceed to Gallipoli (Apulia), where the safe-conducts of entry must be obtained.

For leaving the Adriatic, vessels after having received permission at the port of departure must proceed to Bari, where they will be furnished with the safe-conducts of departure.

Vessels provided with safe-conducts must cross the blockade line Oranto-Aspri-Ruga (Strade Bianche) during daytime only. They must stop on that line at a distance not greater than 5 miles from the Italian shore to be visited by the men-of-war destined for that purpose.

Article 3.—The rules laid down in our Decree of June 13th, 1915, No. 899, as well as any special regulations which the naval authorities may think fit to enforce on vessels entering or leaving the Adriatic, must be observed by all merchant vessels of whatever nationality navigating in the Adriatic in the circumstances provided for in Article 2.

Article 4.—Vessels contravening the rules laid down in the preceding articles will be considered guilty of violation of the blockade, and are liable to capture and confiscation, together with their cargoes, according to the regulations in force.

Article 5.—The present Decree will come into force on July 6th, 1915.

右ニ關スル外務省告示

○伊國政府ノ封鎖區域擴張(七月十四日官報) 本件ニ關シ同國駐劄林特命全權大使ヨリ本年八月發テ以テ左ノ如ク電報アリ(本年五月二十九日本欄内參看)(外務省)

伊國政府ハ七月六日以後其封鎖區域ヲオトラントー(Otranto)アスプリー、ルガー(Aspri Ruga)線以北ノアドリアチック海全部ニ及ホスヘキ旨竝ニ伊國及モンテネグロ國所屬若クハ占領ノ港ニ航行セントスル船舶ニハ伊國海軍省若クハ其代理者ヨリ航行免狀ヲ發給スルコトヲ得ヘキ旨同國外務省ヨリ通知越セリ

第三 戰時禁制品目制定ノ件

外務省告示第三十四號(十月九日官報)

伊國政府ハ本年六月十五日勅令ヲ以テ這回ノ戰爭繼續中左記ノ品目ヲ戰時禁制品トシテ公布シタル旨在伊帝國大使ヨリ通報アリタリ

大正四年十月九日

外務大臣 伯爵大隈重信

絶對的戰時禁制品

- 一、一切ノ武器(狩獵用武器ヲ含ム)及其ノ組成品タルコト明カナルモノ
- 二、一切ノ彈丸、裝藥、彈藥包及其ノ組成品タルコト明カナルモノ
- 三、特ニ戰爭用トシテ製造セラレタル火藥及爆發物
- 四、爆發物ヲ組成スヘキ諸成分即チ硝酸、硫酸、「グリセリン」、「アセトーン」、醋酸石灰及其ノ他一切ノ金屬醋酸鹽、硫黃、硝酸加里、「コールタール」ノ溫劑蒸溜ニヨリ生スル「ベンゾール」、「クレゾール」竝「ベンゾール」及「クレゾール」間ニ產出スル諸生産物、「アニリ

ン、「メチルアニリン」、過「クロール」酸「アムモニウム」、過「クロール」酸曹達、「クロール」酸曹達、「クロール」酸「パリウム」、硝酸「アムモニウム」、青化礬基、「クロール」酸加里、硝酸石灰、水銀

五、樹脂質生産物、樟腦及「テレピン」(油及精)

六、砲架、彈藥車、前車、軍用運搬車、野戰鍛冶器及其ノ組成品タルコト明カナルモノ

七、距離測定器及其ノ組成品タルコト明カナルモノ

八、軍用タルコト明カナル被服及武裝具

九、戦争ノ用ニ供スルヲ得ヘキ乗用、輓用、駄用ノ獸類

十、軍用タルコト明カナル一切ノ馬具

十一、陣營具及其ノ組成品タルコト明カナルモノ

十二、甲鐵板

十三、鐵合金「タングステン」鐵、「モリブデン」鐵、「マンガン」鐵、「ヴァナヂウム」鐵、「クロ

ーム」鐵ヲ含ム)

十四、左ノ諸金屬

「タングステン」、「モリブデン」、「ヴァナヂウム」、「ニッケル」、「セレンニウム」、「コバルト」、

赤鐵鑛製銑鐵「マンガン」

十五、左ノ諸鑛石

「ウルフラム」鐵鑛、重石、硫水鉛鑛、「マンガン」鑛、「ニッケル」鑛、「クロール」鑛、赤鐵

鑛、亞鉛鑛、鉛鑛、鐵礬土

十六、「アルミニウム」、「アルミナ」及「アルミニウム」鹽類

十七、「アンチモニー」及「アンチモニー」ノ硫化物並其酸化物

十八、工作セル及一部工作セル銅並銅線

十九、鉛塊、鉛板、鉛管

二十、刺アル鐵線及其ノ架設又ハ切斷用ニ供スヘキ機械器具

二十一、軍艦及戰 用艇舟並特ニ上記艦艇ニ限り使用シ得ヘキコト明カナル組成品

二十二、音響水中信號器

二十三、飛行機、飛行船、氣球其ノ他一切ノ航空機及其ノ組成品並氣球及航空機用ニ供セ

ラルルモノト認ムヘキ屬具及物件

二十四、發動機ヲ有スル一切ノ車輛及其ノ組成品

二十五、發動機ヲ有スル車輛用及自轉車用車輪並其ノ製造修理ノ爲特ニ使用セララルル物件

又ハ材料

二十六、「ラッパ」(生粗、屑及再精シタル「ラッパ」ヲ含ム)及全部「ラッパ」ヲ以テ製造

シタル物件

二十七、硫化鐵鑛

二十八、鑛油及發動機用輕油(鑛油、石油、「ベンゼン」、「ナフタ」油及發動機用輕油一切ヲ

含ム)

二十九、兵器、彈藥製造ノ爲又ハ陸海軍用ノ武器及材料ノ製造修理ノ爲專ラ作製セラレタル機械器具

三十、粗羊毛、「トップ」及「ノイル」並紡毛絲及梳毛絲

三十一、錫、鹽化錫、錫礦

三十二、蓖麻子油

三十三、「パラフィン、ワックス」

三十四、沃化銅

三十五、機械潤滑用材料

三十六、生皮及精製皮ヲ含ム各種皮革、牝牛皮、水牛皮、犢皮、馬皮、豚皮、羊皮、山羊皮、鹿皮、鞍用鞆用ノ物件、軍用靴又ハ軍用被服ニ用フルヲ得ヘキ革

三十七、「アムモニア」及其ノ鹽類、「アムモニア」液、尿素、「アニリン」及其ノ化合物

條件附戰時禁制品

一、糧食

二、獸類ノ糞其ノ他飼料

三、軍用ニ適スル被服、被服用織物及靴類

四、金銀貨幣、地金銀及紙幣

五、發動機ヲ有スル車輛ヲ除キ戰爭ノ用ニ供スルヲ得ヘキ一切ノ車輛及其ノ組成品

六、一切ノ船舶及艇舟、浮船渠、船渠ノ部分並其ノ組成品

七、鐵道ノ固定及運轉用材料並電信、無線電信及電話ノ材料

八、礦油以外ノ燃料機械潤滑用材料

九、特ニ戰爭用トシテ製造セラレタルモノニ非サル火藥及爆發物

十、蹄鐵及蹄鐵用材料

十一、鞆用及鞍用ノ物件

十二、雙眼鏡、望遠鏡、「クロノメートル」及各種ノ航海用具

十三、一切ノ製革用材料（製革用越幾斯ヲ含ム）

右ノ原文

Il numero 839 della raccolta ufficiale delle leggi e dei decreti del Regno contiene il seguente decreto:

TOMASO DI SAVOIA DUCA DI GENOVA

Luogotenente Generale di Sua Maestà

VITTORIO EMANUELE III

per grazia di Dio e per volontà della Nazione

RE D'ITALIA

In virtù dell'autorità a Noi delegata;

伊太利國法令

Vista la facoltà concessa dall'art. 216 del Codice per la marina mercantile, circa le dichiarazioni relative agli oggetti considerati contrabbando di guerra;

Viste le disposizioni della dichiarazione relativa al diritto della guerra marittima, firmata a Londra il 26 febbraio 1909, che l'Italia dichiara di osservare salvo le modificazioni approvate con altro Nostro decreto;

Sulla proposta del Ministro della marina, di concerto con quello degli affari esteri e con quello delle colonie;

Abbiamo decretato e decretiamo:

ART. 1.

Sono considerati articoli di contrabbando assoluto i seguenti oggetti e materiali:

1. Armi di ogni genere, comprese le armi per usi sportivi, e loro singole parti caratteristiche.
2. Proiettili, cariche, cartucce di ogni genere, e loro singole parti caratteristiche.
3. Polveri ed esplosivi specialmente preparati per uso guerresco.
4. Le materie prime degli esplosivi, cioè: l'acido nitrico, l'acido solforico, la glicerina, l'acetone, l'acetato di calcio e tutti gli altri acetati di metalli, lo zolfo, il nitrato di potassio, i prodotti della distillazione frazionata del catrame

minerale fra il benzolo e il crosolo inclusivamente, l'anilina, la metilanilina, il perclorato d'ammonio, il perclorato di sodio, il clorato di sodio, il clorato di bario, il nitrato d'ammonio, la cianamide, il clorato di potassio, il nitrato di calcio, il mercurio.

5. I prodotti resinosi, la canfora e la trementina (olio ed essenza).
6. Affusti da cannoni, cassoni, avantreni, furgoni, fucine da campo e loro singole parti caratteristiche.
7. Telemetri e loro singole parti caratteristiche.
8. Ogni specie di oggetti di vestiario e di equipaggiamento, di carattere prettamente militare.
9. Animali da sella, da tiro, da soma, utilizzabili per la guerra.
10. Ogni specie di finimenti di carattere prettamente militare.
11. Gli articoli di equipaggiamento da campo e loro singole parti caratteristiche.
12. Piastre per corazzatura.
13. Leghe di ferro, compreso il ferro-tungsteno, il ferro-molibdeno, il ferro-manganese, il ferro vanadio, e il ferro-cromo.
14. I seguenti metalli: il tungsteno, il molibdeno, il vanadio, il nickel, il

selenio, il cobalto, i pani di ferro ematite, il manganese.

15. I seguenti minerali: la wolframite, la scheelite, la molibdenite, il minerale del manganese, del nickel, del cromo, del ferro ematite, dello zinco, del piombo, la bauxite.

16. Alluminio, allumina e sali d'alluminio.

17. Antimonio, insieme con i solfuri e ossidi di antimonio.

18. Rame greggio, o parzialmente lavorato, e i fili di rame.

19. Piombo pani, in fogli e in tubi.

20. Filo di ferro dentato e strumenti per metterlo in opera e tagliarlo.

21. Navi da guerra, comprese le imbarcazioni e loro singole parti componenti, di natura tale da poter essere usate soltanto su navi da guerra.

22. Apparecchi acustici di segnalazione sottomarina.

23. Aeroplani, dirigibili, palloni, aerostati di ogni genere, e loro parti componenti, nonchè gli accessori e articoli che si riconoscono come destinati ad essere usati per la navigazione aerea e l'aviazione.

24. Automobili e motocarri d'ogni genere, e loro parti componenti.

25. Pneumatici e copertoni per automobili e velocipedi, insieme con gli articoli o materiali specialmente adatti per essere usati nella loro fabbricazione

o riparazione.

26. Gomma (inclusa la gomma greggia, usata e recuperata), e gli oggetti interamente composti di gomma.

27. Piriti di ferro.

28. Olii minerali ed essenze per motori (oli minerali greggi e distillati, petroli, benzina, nafta, essenze in generale utilizzabili per motori).

29. Strumenti e apparecchi esclusivamente destinati alla fabbricazione di munizioni da guerra, per la fabbricazione, riparazione di armi o materiale da guerra, terrestre o navale.

30. Lana greggia, lane pettinate o cardate, fibre di lana pettinate o cardate, cascami di lana.

31. Stagno, cloruro di stagno, e minerali di stagno.

32. Olio di ricino.

33. Cera di paraffina.

34. Rame iodico.

35. Lubrificanti.

36. Pelli d'ogni genere, greggio o conciate, pelli di vacca, pelli di bue, di bufali, di vitelli, di cavalli, di porci, di montoni, di capre, di daini; cuoio adatto

伊太利國法令

四〇四

per selleria, per finimenti, per calzature e per vestiario militare.

37. Ammoniaca e suoi sali, semplici e composti; ammoniaca liquida; urea; anilina e suoi composti.

ART. 2.

Sono considerati articoli di contrabbando condizionale i seguenti oggetti e materiali:

1. Viveri.
2. Foraggi e materie proprie all'alimentazione degli animali.
3. Vestiario, tessuti per vestiario, stivali e scarpe adatte per usi militari.
4. Oro e argento conati o in verghe; carta monetata.
5. Veicoli d'ogni genere, tranne gli automobili e motocarri, che possono servire per usi di guerra, come anche loro parti componenti.
6. Navi, battelli ed imbarcazioni di ogni genere, baccini galleggianti, parti di baccini e singole parti componenti.
7. Materiale ferroviario, fisso o rotabile; materiale telegrafico, radiotelegrafico, e telefonico.
8. Combustibili, tranne gli oli minerali.
9. Polveri ed esplosivi non preparati specialmente per usi di guerra.

10. Ferri da cavallo e materiali di masealeia.

11. Finimenti e eggetti di selleria.

12. Binocoli da campo, telescopi, cronometri, ed ogni sorta di strumenti nautici.

13. Le materie d'ogni specie utili per la concia, compresi i tannini e gli altri estratti adatti alla concia.

ART. 3.

Il presente decreto avrà effetto da oggi.

Ordiniamo che il presente decreto, munito del sigillo dello Stato, sia inserito nella raccolta ufficiale delle leggi e dei decreti del Regno d'Italia, mandando a chiunque spetti di osservarlo e di farlo osservare.

Dato a Roma, addì 3 giugno 1915.

TOMASO DI SAVOIA.

Viale-Sonnino-Martini.

Visto, Il guardasigilli: Orlando.

右ノ英譯文

(七月六日ロムニルノ法律ニル)

Foreign Office,

July 5, 1915.

His Majesty's Secretary of State for Foreign Affairs has received from His Majesty's Ambassador in Rome the following translation of a Royal Decree, dated June 3rd last, and published in the Italian Official Gazette of June 17th:—

ARTICLE I.

The following objects and materials are considered as absolute contraband:—

1. Arms of all kinds, including arms for sporting purposes, and their distinctive component parts.
2. Projectiles, charges and cartridges of all kinds, and their distinctive component parts.
3. Powder and explosives specially prepared for use in war.
4. Ingredients of explosives, viz., nitric acid, sulphuric acid, glycerine, acetone, calcium acetate, and all other metallic acetates, sulphur, potassium nitrate, the fractions of the distillation products of coal-tar between benzol and

eresol inclusive, aniline, methylaniline, ammonium perchlorate, sodium perchlorate, sodium chlorate, barium chlorate, ammonium nitrate, cyanamide, potassium chlorate, calcium nitrate and mercury.

5. Resinous products, camphor and turpentine (oil and spirit).
6. Gun-mountings, limber boxes, limbers, baggage waggons, field forges, and their distinctive component parts.
7. Range-finders and their distinctive component parts.
8. All kinds of clothing and equipment of a distinctively military character.
9. Saddle, draught and pack animals suitable for use in war.
10. All kinds of harness of a distinctively military character.
11. Articles of camp equipment and their distinctive component parts.
12. Armour plates.
13. Ferro alloys, including ferro-tungsten, ferro-molybdenum, ferro-manganese, ferro-vanadium, ferro-chrome.
14. The following metals: Tungsten, molybdenum, vanadium, nickel, selenium, cobalt, haematite pig-iron, manganese.
15. The following ores: Wolframite, scheelite, molybdenite, manganese

- ore, nickel ore, chrome ore, haematite iron ore, zinc ore, lead ore, bauxite.
16. Aluminium, alumina and salts of aluminium.
 17. Antimony, together with the sulphides and oxides of antimony.
 18. Copper, unwrought and part wrought, and copper wire.
 19. Lead, pig, sheet, or pipe.
 20. Barbed wire, and implements for fixing and cutting the same.
 21. Warships, including boats and their distinctive component parts of such a nature that they can only be used on a vessel of war.
 22. Submarine sound signalling apparatus.
 23. Aeroplanes, airships, balloons and aircraft of all kinds, and their component parts, together with accessories and articles recognisable as intended for use in connection with balloons and aircraft.
 24. Motor vehicles of all kinds and their component parts.
 25. Pneumatic tyres and covers, for motor vehicles and for cycles, together with articles and materials specially adapted for use in the manufacture or repair of tyres.
 26. Rubber (including raw, waste, and reclaimed rubber) and goods made wholly of rubber.

27. Iron pyrites.
28. Mineral oils and motor spirit (mineral oils, raw and distilled, petrol, benzine, naphtha and spirits in general which may be used for motors).
29. Apparatus designed exclusively for the manufacture of munitions of war, or for the manufacture or repair of arms or war material for use on land or sea.
30. Wool, raw, combed or carded; wool fibre, combed or carded; wool waste.
31. Tin, chloride of tin and tin ore.
32. Castor oil.
33. Paraffin wax.
34. Copper iodide.
35. Lubricants.
36. Skins of every sort, raw or tanned, cow, ox, buffalo, calf, horse, pig, sheep, goat or deer; leather adapted for saddlery, harness, boots or military accoutrements.
37. Ammonia and its salts, whether simple or compound; ammonia liquor, urea, aniline, and their compounds.

ARTICLE II.

The following articles and materials are considered articles of conditional contraband:—

1. Foodstuffs.
2. Forage and feeding stuffs for animals.
3. Clothing, fabrics for clothing, and boots and shoes suitable for use in war.
4. Gold and silver in coin or bullion; paper money.
5. Vehicles of all kinds, other than motor vehicles, available for use in war, and their component parts.
6. Vessels, craft, and boats of all kinds; floating docks, and their component parts.
7. Railway materials, both fixed and rolling stocks; and materials for telegraphs, wireless telegraphs and telephones.
8. Fuel, other than mineral oils.
9. Powder and explosives not specially prepared for use in war.
10. Horse-shoes and shoeing materials.
11. Harness and saddlery.
12. Field glasses, telescopes, chronometers, and all kinds of nautical instruments.
13. Materials of all sorts used in tanning, including tannin and other extracts suitable for the industry.

ARTICLE III.

The present Decree will take effect from to-day.

第四 海戦法規制定ノ件

伊國戦時海法規程ニ關スル件

(大正四年六月十九日附在伊特命全權大使男爵林權助報告)

伊國法制ニヨレハ戦時海法ハ伊國海法第一部第四編ニ規定セララルル規則ニ準スルコトナ
レルカ今次ノ戦争加入ニ關シ更ニ多少ノ變更訂正ヲ加ヘタリ
本年六月三日附勅令第八百四十號ハ右戦時海法規程ヲ定メタルモノニシテ原則トシテ伊國
政府ハ千九百九年ノ倫敦宣言ノ規程ヲ實施スルコトトセリ(第一條)
而シテ右倫敦宣言ノ規定中多少ノ變更ヲ加ヘタル點ハ大要左ノ如シ
一、戦時禁制品目ニ關シテハ伊國政府ニ於テ特別ノ表ヲ作レリ

二、中立船舶ニ對スル規定

中立船舶ニシテ中立到達港ヲ有スルニ拘ハラズ敵港ニ航行スルモノニ關シテハ歸航ノ終了迄伊國軍艦ハ之ヲ捕獲シ得ヘク且ツ該船舶ハ沒收セラル(第二條)

三、倫敦宣言第三十三條ノ

Destinés à l'usage des forces armées ou des administrations de l'Etat ennemi トアル到達港ニ關シ伊國新規定。 Se le merci sono consegnate ad un agente di uno stato amico, ovvero per conto di un agente di stato nemico 場合モ亦同様ノ到達地ヲ有スルモノト見做ス旨ヲ定メタリ(第二條)

四、條件附戰時禁制品ニシテ中立港ニ航行スル船舶ニ積載セラルルモ若シ船舶書類貨物受

取人ヲ指定セサル時ハ該貨物ハ捕獲セラル(第四條)

五、中立商業ニ對スル規定

敵國其軍需品ノ供給ヲ中立國ヲ介シ又ハ中立國ヲ通シ仰キ居ルコト明了トナリタル時ハ伊國政府ハ該中立國ノ港ニ向フ船舶ニ對シテハ倫敦宣言第三十五條ヲ適用セサル旨ヲ定メ得且該中立港ニ條件附戰時禁制品ヲ運送スル船舶ハ捕獲セラル(第六條)

本勅令ノ邦譯左ノ如シ

千九百十五年六月三日附勅令第八百四十號

(六月十五日公布)

第一條 現戰爭間王國政府ハ千九百九年二月二十六日調印セラレタル倫敦宣言ノ規定ヲ實施ス

但シ該宣言第二十二條、第二十四條及第二十八條ヲ除外ス且ツ左ノ諸條ニ規定セル變更ヲ加フルモノトス

第二條 中立船舶ニシテ船舶書類ニヨレハ中立到達港ヲ有シ且船舶書類記載ノ到達港明カナルニ拘ハラズ敵港ニ航行スルモノハ歸航ノ終ル以前ニ於テハ捕獲且沒收セラル

第三條 若シ貨物ニシテ敵國ノ代表者ニ引渡サレ或ハ其計算ニ於テ引渡サルルモノナル時ハ倫敦宣言第三十三條規定ノ到達港ハ眞實ノモノト推定ス(第三十四條ノ推定ノ外)

第四條 倫敦宣言第三十五條ノ規定ニ關セス中立港ニ航行スル船舶ニ積載セラルルモ若シ船舶書類貨物受取人ヲ指定セス或ハ荷宛人敵國又ハ其ノ占領セル領土ニ住居スル時ハ條件附戰時禁制品ト雖モ捕獲セラル

第五條 前第四條ノ場合ニ於テハ貨物到達地ノ不法ナラサルヲ證明スルノ責ハ貨物所有者之ニ任ス

第六條 若シ王國政府ニシテ敵國政府カ其軍需品ノ供給ヲ中立國ヲ介シ又ハ中立國ヲ通シテ受クルコトヲ知リタル時ハ外務大臣海軍大臣ハ共同シテ該中立國港ヘ向フ船舶ニ關シテハ倫敦宣言第三十五條ノ適用セラレサル旨ヲ決定シ得

該決定ハ官報ニ公布セラレ同様ノ取消ナキ限り有効ナルモノトス

右決定ノ有効期間該中立國港ニ條件附戰時禁制品ヲ運送スル船舶ハ捕獲セララルヘシ

右ノ原文

Il numero 810 della raccolta ufficiale delle leggi e dei decreti del Regno
contiene il seguente decreto:

TOMASO DI SAVOIA DUCA DI GENOVA

Luogotenente Generale di Sua Maestà

VITTORIO EMANUELE III

per grazia di Dio e per volontà della Nazione

RE D'ITALIA

In virtù dell'autorità a Noi delegata;

Visto il Codice per la marina mercantile del Regno d'Italia Parte I, titolo IV);

Vista la dichiarazione relativa al diritto della guerra marittima firmata a Londra
il 26 febbraio 1909, che non è stata ancora ratificata dal Regno d'Italia;

Visto il presente stato di guerra;

In virtù dei poteri straordinari conferiti al Governo del Re con la legge 22
maggio 1915, n. 671:

Sentito il Consiglio dei ministri;

Sulla proposta del ministro della marina, di concerto con quello degli affari
esteri, delle colonie, e della grazia e giustizia e dei culti;

Abbiamo decretato e decretiamo:

ARR. 1.

Durante l'attuale stato di guerra saranno adottate e messe in vigore dal Governo
del Re le disposizioni della dichiarazione firmata a Londra il 26 febbraio 1909, ad
eccezione degli articoli 22, 24 e 28, e salvo le modificazioni contenute negli articoli
seguenti.

ARR. 2.

Una nave neutrale, che secondo le carte di bordo abbia una destinazione neutrale,
e che non ostante la destinazione dichiarata dalle carte di bordo, diriga ad un porto
nemico, sarà soggetta a cattura e confisca, se sarà incontrata prima della fine del
viaggio di ritorno.

ARR. 3.

La destinazione indicata nell'art. 33 della dichiarazione di Londra sarà presunta
come reale (oltre le presunzioni previste nell'art. 34) se le merci sono consegnate
ad un agente di uno Stato nemico, ovvero per conto di un agente di Stato nemico.

ARR. 4.

Non ostante le disposizioni dell'art. 35 della dichiarazione di Londra, il contrabbando condizionale sarà soggetto a cattura a bordo di una nave diretta a un porto neutrale, se i recapiti di bordo non mostrano chi è il consegnatario delle merci, ovvero se essi mostrano che il consegnatario delle merci risiede in territorio appartenente al nemico o da lui occupato.

ARR. 5.

Nei casi indicati dal precedente art. 4 resta a carico dei proprietari della merce di provare che la destinazione di questa era innocente.

ARR. 6.

Quando risulti al Governo del Re che un Governo nemico rifornisce le sue forze armate per mezzo o attraverso un paese neutrale, i ministri degli affari esteri e della marina potranno disporre, con loro provvedimento presco di concerto, che non sia applicato l'art. 35 della dichiarazione di Londra rispetto alle navi dirette ad un porto di tale paese.

Tale disposizione sarà pubblicata nella *Gazzetta ufficiale* e avrà vigore finchè non sarà abrogata con altro analogo provvedimento.

Per tutto il tempo in cui tale disposizione avrà vigore, una nave che trasporti

contrabbando di guerra condizionale ad un porto di quel paese sarà suscettibile di cattura.

Ordiniamo che il presente decreto, munito del sigillo dello Stato, sia inserito nella raccolta ufficiale delle leggi e dei decreti del Regno d'Italia, mandando a chiunque spetti di osservare e di farlo osservare.

Dato a Roma, addì 3 giugno 1915.

TOMASO DI SAVOIA.

Salandra-Viale-Sonnino-Martini-Orlando.

Visto, il guardasigilli: Orlando.

右英譯文

(十月六日ロンドンハンブカガム)

Foreign Office.

July 5, 1915.

His Majesty's Secretary of State for Foreign Affairs has received from His Majesty's Ambassador in Rome the following translation of a Royal Decree, dated June 3rd last, and published in the Italian Official Gazette of June 15th:—

伊太利國法令

四一七

ARTICLE I.

During the present state of war the Government of the King will adopt and enforce the dispositions of the Declaration signed at London on February 26, 1909, with the exception of Articles 22, 24, and 28, and of any modifications contained in the following articles:—

ARTICLE II.

A neutral ship, which according to her papers has a neutral destination, and which in spite of the destination indicated on her papers is making an enemy port, will be subject to capture and confiscation if she is encountered before the end of her return journey.

ARTICLE III.

The destination indicated in Article 33 of the Declaration of London will be presumed to be the real one (in addition to the presumptions provided for in Article 34) if the cargo is consigned to an agent of an enemy state or to order of an agent of an enemy state.

ARTICLE IV.

In spite of the dispositions of Article 35 of the Declaration of London, conditional contraband will be subject to capture on board a vessel proceeding to a

neutral port if the ship's manifests do not indicate the name of the consignee, or if they show that the consignee resides in territory belonging to or occupied by the enemy.

ARTICLE V.

In the cases indicated in the preceding Article IV the burden of proving the innocent destination of the goods rests with their owner.

ARTICLE VI.

When the King's Government learns that an enemy Government is supplying its armed forces by means of or across a neutral country, the Ministers of Foreign Affairs and Marine may take concerted action to exclude from the operation of Article 35 of the Declaration of London all vessels proceeding to ports in such countries.

Decisions of this nature will be published in the Official Gazette, and will be enforced until superseded by another decision of the same nature.

For the whole period during which such decisions are in force, vessels carrying conditional contraband to ports of such countries will be liable to capture.

第五 敵國臣民ノ財産及法律行為ニ對シ伊國政府ノ探
レル手段

(大正四年六月二十七日附報告)

今回ノ戰爭ニ當リ交戰國ハ其敵國臣民又ハ法人ニ對シ種々ナル規定ヲ設ケ就中其財産ニ關シテハ各國ノ採レル方針一致ヲ見サルカ伊國政府ハ奧洪國臣民及ヒ法人ノ財産並ニ其法律行為ニ關シ左ノ如キ一定ノ制限ヲ設ケタリ

千九百十五年六月二十日附勅令第九百二號ノ規定ニヨレハ

第一 奧洪帝國臣民及ヒ同住民ニ所屬セル動産不動産ノ賣買讓渡及ヒ一切ノ權利移轉ニシテ五月二十四日以降ニナサレタルモノハ法律上無効タルノミナラス貨物信用及營業ノ讓渡並變更モ亦無効タリ

第二 奧洪國臣民法人商會社並ニ奧洪國ニ住所又ハ營業所ヲ有スルモノハ伊國ニ於テ民事商事或ハ行政訴訟ヲナスノ權利ヲ有セサルノミナラス質權ノ登記及ヒ移轉ヲモナスコトヲ得ス

第三 右ノ規定ハ奧洪國臣民ナルモ伊國國民ナルモノニ對シテハ之ヲ適用セス蓋シ奧洪國南部ニ住居セル多數ノ伊國國民ニ對シ奧洪國臣民ト同一ノ待遇ヲナサス伊國臣民ト同様ニ取扱フノ意ニシテ國民主義ノ法律上ニ於ケル適用ト云フヘシ
左ニ該勅令ノ邦譯ヲ添ヘン

千九百十五年六月二十四日附勅令第九百二號

第一條 奧洪帝國臣民及ヒ該住民ニ所屬セル財産又ハ不動産所有權ノ賣買讓渡及ヒ移轉ニシテ千九百十五年五月二十四日以降戰爭期間ニナサレタルモノハ伊王國及其殖民地ニ於テ法律の効力ヲ有セス

該期間貨物、信用或ハ商業的營業ノ讓渡及ヒ從來ノ法律關係ヲ變更シ奧洪國臣民或ハ法人ニ他國臣民ヲ代ラシムル如キ總テノ法律行為モ亦法的効力ヲ有セス

第二條 戰爭期間奧洪帝國臣民法人商會社及ヒ該帝國內ニ住所又ハ營業所ヲ有スルモノハ王國及殖民地ノ裁判所ニ於テ民事商事或ハ行政訴訟ノ提起又ハ繼續ヲナスノ權利ヲ有セス且ツ質權ノ登記及ヒ移轉ヲモナスコトヲ得ス

訴訟ニシテ既ニ提起セラレタルモノハ當然中止セラレ戰爭終止後ニ於テノミ再ヒ之ヲ繼續シ得

第三條 第一條ノ規定ハ奧洪國臣民タルモ伊國民ナル場合ニハ之ヲ適用セス但シ內務大臣ニヨリ許可セラレタルモノニ限ル

第二條ノ規定ハ奧洪國臣民タルモ伊國民ナル場合ニハ之ヲ適用セス但シ伊國民ナルノ事實ハ內務大臣ノ證明書ニヨリテ之ヲ定ム

第六 輸出禁止品ノ件

伊太利國法令

四二二

○伊國經由輸出禁止貨物ノ輸送ニ關スル規定(八月二十七日官報) 本件ニ關シ伊國駐劄林
特命全權大使ヨリ本月二十日發テ以テ左ノ如ク電報アリ(外務省)

伊國ニ於テ輸出ヲ禁止セル貨物ヲ外國ヨリ伊國經由他ノ外國へ輸送スル場合ニ關スル昨
年十一月十三日附同國勅令ノ趣旨左ノ如シ

伊國ヨリ輸出ヲ禁止セラレタル商品ニシテ船荷證券面ニ當初ヨリ伊國ヲ到達地トセル
カ或ハ宛先正確ナラサルモノハ伊國港ニ到達セル以上稅關通過又ハ積換ノ方法ニ依リ
外國へ轉送スルコトヲ得ス貨物ニシテ其船荷證券カ指圖式ナルモ當初ヨリ外國ニ於ケ
ル到達地ノ指定ナキモノ竝ニ船荷證券持參人式ニ成ルモノハ伊國國內ニ仕向ケラレタ
ルモノト看做ス

第七 軍需品取締ニ關スル件

(一) 海軍軍需產業會議令

本年六月十五日官報ヲ以テ六月三日附左ノ攝政令發布セラレ

海軍軍需產業會議令(要點ノミ譯出)

- 一、目的 海戰ニ使用シ得ヘキ軍需產業ヲ取締リ之ヲ統一シ以テ海軍力ヲ有效ニ維持スル
ニ在リ

二、組織 議長一、海軍將官 議員六、 三ハ海軍武官、他ノ三ハ海軍軍需若ハ一

般產業ニ關シテ特種ノ智識ヲ有スル者

三、細則 海軍大臣之ヲ定ム

四、權限 前記目的ニ從ヒ海軍力ノ維持并ニ之カ増大ノ爲ニ必要ト認ムルモノヲ海軍大臣

ニ提案ス

五、經費 海軍省所管臨時軍事費支辨

(註) 本會議ノ長ハベットロー海軍中將ナリ

(二) 軍需補給條例

(大正四年七月九日附報告)

戰時ニ於テ海陸軍ニ要スル軍需ノ補給ヲ保證スルタメ去ル七月五日附左ノ要旨ノ軍需補給
條例發布セラレタリ

- 一、政府カ私有工場製品ノ全部若クハ一部ヲ彈藥其ノ他ノ軍需トシテ購買スルヲ必要ト認
ムルトキハ政府ハ該工場ニ其ノ製造力ノ増加ニ必要トスル手段ヲ強要スルコトヲ得
- 二、第一項ノ適用ハ技術并ニ經濟上可能範圍ニ於テノミスヘシ
彼我意見ニ扞格アルトキハ之ヲ本條例第八項規定ノ仲裁會議ニ付ス
- 三、工場ノ製造力確認ノタメニスル諮問ニ對シ虛偽ノ申立ヲナシタル當該工場關係者ハ三

伊太利國法令

四二三

々月以下ノ禁錮ニ處シ互利以上二千利以下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得
四、軍事當局者ハ隨所ニ隨意ノ機械製造ヲ命スルコトヲ得但シ爲ニ專賣特權ヲ侵ストキハ賠償ス

五、製造業者ハ軍需ノ製造並ニ供給ヲ謝絶スルコトヲ得又其ノ請求價格ハ陸海軍指定ノモノ以下ナルヲ要ス但シ第八項規定ノ仲裁會議ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

六、政府ハ軍需製造上必要ト認ムルトキハ之ニ從事スル工場ニ屬スル人員ノ全部若ハ一部ヲ軍事管轄ノ下ニ在リト宣言スルコトヲ得

七、陸海軍大臣並ニ大藏大臣ハ協同以テ本條例ノ運用ニ注意スヘシ

八、本條例適用ニ際シテ發生スル異議申立等ハ陸海軍省並ニ農商務省ヨリ各一名宛外ニ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ勅令ヲ以テ任命セララルル者一名計三名ヨリ成ル仲裁會議ニ之ヲ付ス

仲裁會議ノ決定ニ對シテハ抗議上告等一切之ヲ爲スヲ得ス

九、戰爭終結後ニ於テハ本條例ハ單ニ戰時發生セシ事項ニ就テノミ効力ヲ有スルモノトス

第八 伊國政府特別支出ニ關スル件

○伊國政府特別支出償方(九月二十一官報) 本件ニ關シ同國駐劄林特命全權大使ヨリ本月十八日發テ以テ左ノ如ク電報アリ(外務省)

當國政府ハ九月十五日附テ以テ戰爭繼續期間財政上ノ特別支出ヲ償フタメ法律ノ效力アル左ノ勅令ヲ發布セリ

(イ)輸出禁制品ニシテ特許ヲ得テ輸出スル物品ニ對シ稅率ヲ定ム

(ロ)煙草販賣價格ノ増加

(ハ)石油ヲ除キタル礦油販賣價格ノ増加

(ニ)酒精製造稅增加及 Sardinia 農事改良ニ要スル融通資金百萬リレノ支出、右支出ヲ收入ト共ニ同項目中ニ定ムルコトニ付キテハ委細郵送スヘシ

(ホ)麥酒釀造稅增加

(ヘ)砂糖製造稅附加稅稅率及細則ハ郵送スヘシ

獨逸國法令

獨逸國法令

第一 海戰法規ニ關スル件

(一) 千九百十五年四月十八日附捕獲規程改正(英譯文)

(第四輯第四〇三頁以下參照)

(五月十一日ロンドン・ガゼット)

Foreign Office,

May 8, 1915.

The Secretary of State for Foreign Affairs has received from the United States Ambassador the following Translation of a Decree issued by the German Government:—

REICHSGESETZBLATT, 1915.

No. 49.

Ordinance relative to amendment of the Prize Ordinance of September 30th, 1909.

In retaliation of the regulations adopted by England and her Allies, deviating from the London Declaration of Maritime Law of February 26th, 1909, I approve of the following amendments of the Prize Ordinance of September 30th, 1909, and

獨逸國法令

四二七

of its supplements, dated October 18th, November 23rd, and December 14th, 1914, for the period of the present war. (See Notices in London Gazette of September 18th, and December 22, 1914.)

Articles 21, 23, 27, 33, 35, and 40, and the additions to Article 23 shall be replaced by the following provisions:—

21.—The following articles and materials, designated absolute contraband, shall be considered contraband of war:—

- (1) Arms of all kinds, including arms for sporting purposes, and their distinctive component parts:
- (2) Projectiles, charges, and cartridges of all kinds, and their distinctive component parts:
- (3) Powder and explosives of all kinds:
- (4) Cannon barrels, gun mountings, limber boxes, limbers, field kitchens and bakeries, supply wagons, field forges, searchlights and searchlight accessories, and their distinctive component parts:
- (5) Range-finders, and their distinctive component parts:
- (6) Field glasses, telescopes, chronometers, and all kinds of nautical instruments:

- (7) Clothing and equipment of a distinctively military character:
- (8) Saddle, draught, and pack animals suitable for use in war:
- (9) All kinds of harness of a distinctively military character:
- (10) Articles of camp equipment, and their distinctive component parts:
- (11) Armour plates:
- (12) Lead, pig, sheet, or pipe:
- (13) Barbed wire, and implements for fixing and cutting the same:
- (14) Tin plate:
- (15) War ships, including boats and their distinctive component parts of such a nature that they can only be used on a vessel of war; ship plates and construction steel:
- (16) Submarine sound signalling apparatus:
- (17) Aeroplanes, airships, balloons, and aircraft of all kinds, and their distinctive component parts, together with accessories, articles and materials, recognisable as intended for use in connection with balloons and aircraft.
- (18) Implements and devices designed exclusively for the manufacture and repair of arms and munitions of war:
- (19) Lathes of all kinds:

- (20) Mining lumber :
- (21) Coal and coke :
- (22) Flax :

23.—The following articles and materials suitable for warlike as well as for peaceful purposes, coming under the designation of conditional contraband, shall be considered as contraband of war:—

- (1) Foodstuffs :
- (2) Forage and all kinds of feeding stuffs :
- (3) Clothing, fabrics for clothing, and boots and shoes, suitable for use in war :
- (4) Wool from animals, raw or dressed, together with woollen carded yarns and worsted yarns :
- (5) Gold and silver, in coin or bullion ; paper money :
- (6) Vehicles of all kinds, especially all motor vehicles available for use in war, and their component parts :
- (7) Rubber tyres for motor vehicles, together with all articles or materials especially used in the manufacture or repair of rubber tyres :
- (8) Rubber and gutapercha, together with goods made thereof :

(9) Railway materials, both fixed and rolling stock, and materials for telegraphs, wireless telegraphs, and telephones :

- (10) Fuel, excepting coal and coke ; lubricants :
- (11) Sulphur, sulphuric acid, nitric acid :
- (12) Horse shoes and shoeing materials :
- (13) The following ores : Wolframite, scheelite, molybdenite, nickel ore, chrome ore, haematite iron ore, manganese ore, lead ore :
- (14) The following metals : Wolfram, molybdenum, vanadium, nickel, selenium, cobalt, haematite pig-iron, manganese, aluminium, copper :
- (15) Antimony, together with the sulphides and oxides of antimony :
- (16) Ferro alloys, including ferro-wolfram, ferro-molybdenum, ferro-manganese, ferro-vanadium, ferro-chrome :
- (17) Harness and saddlery :
- (18) Leather, treated and untreated, when suitable for saddlery, harness, military boots or military clothing :
- (19) Tanning materials of all kinds, including extracts used in tanning :
- (20) All kinds of lumber, rough or treated, especially hewn, sawed, planed, fluted, excepting mining lumber ; tar of charcoal :

(21) Vessels, craft, and boats of all kinds, floating docks, parts of docks, and their component parts :

27.—The following articles cannot be declared contraband of war:—

- (1) Raw cotton, raw silk, raw jute, raw hemp :
- (2) Resin, lacs, hops :
- (3) Raw skins, horns, bones, and ivory :
- (4) Natural and artificial fertilizers :
- (5) Earth, clay, lime, chalk, stones, including marble, bricks, slates and roofing tiles :
- (6) Porcelain and glass :
- (7) Paper and the materials prepared for its manufacture :
- (8) Soap, paints, including the materials exclusively used for their manufacture, and varnish :
- (9) Chloride of lime, soda, caustic soda, sulphate of soda in cakes, ammonia, sulphate of ammonia, and copper sulphate :
- (10) Machines for agriculture, for mining, for the textile industry, and for printing :
- (11) Precious stones, fine stones, pearls, mother of pearl, and corals :

(12) Clocks, standing clocks and watches, excepting chronometers :

(13) Fashion and fancy goods :

(14) Feathers of all kinds, hair and bristles :

(15) Furniture and decorative articles, office furniture and requirements :

33.—In the absence of conditions to the contrary, the hostile destination referred to in Article 32 is to be presumed when (a) the goods are consigned to an enemy authority or the agent of such or to a dealer shown to have supplied articles of the kind in question or products thereof to the armed forces of the administrative authorities of the enemy state ; (b) the goods are consigned to order or the ship's papers do not show who is the consignee or the goods are consigned to a person in territory belonging to or occupied by the enemy ; (c) the goods are destined for an armed place of the enemy or a place serving as a base of operations or supplies to the armed forces of the enemy.

Merchant vessels themselves are not to be considered as destined for the armed forces or the administrative authorities of the enemy solely for the reason that they are found *en route* to one of the places referred to under letter C.

35.—Articles of conditional contraband are liable to seizure only on a vessel *en route* to territory belonging to or occupied by the enemy or to the armed

獨逸國法令

四三四

forces of the enemy, and such vessel is not intended to unload these articles in an intermediate neutral port, that is to say in a port at which the vessel is to call previous to reaching the ultimate destination designated.

This paragraph shall not apply if the conditions provided in Article 33, letter B, are present or if the vessel is bound for a neutral country with regard to which it is shown that the enemy government draws articles of the kinds in question from that country.

40.—A vessel cannot be captured on the ground of an already completed voyage carrying contraband. If, however, the vessel carried contraband to the enemy contrary to the indication of the ship's papers, it shall be liable to capture and condemnation until the end of the war.

Chief Headquarters, April 18th, 1915.

(Signed) WILHELM.
(Countersigned) v. THIRPITZ.

(二) 獨國海上捕獲規程改正

(六月十七日瑞典ニ於テ公表)

(大正四年七月二十八日附在)
瑞典内田特命全權大使報告)

本年四月十八日獨逸海上臨檢規定ニ關シ獨逸政府ハ其ノ後左ノ變更ヲ加ヘタリ(六月十七日瑞典ニ於テ公表)

絶對的又ハ條件附戰時禁制品ヲ構成スヘキ貨物ヲ搭載シ瑞典港ニ向ヒ波爾的海ニ入ル船舶ハ其ノ載貨カ瑞典ノ輸出禁止品ナルトキハ特ニ敵國ニ輸送サルルモノト疑フヘキ理由ナキ限り獨逸軍艦ハ之ヲスウイ子ミユンデニ引致スルコトナクガールンズンド(Oresund)ニ於テ解放スルコトヲ得

第二 海戦法規ノ適用ニ關スル件

(一) 海上ニ於ケル郵便物開封ノ件

(イ) 瑞典國船ニ搭載セル郵便物ヲ開封搜索シタル件

(七月五日ロンドン・タイムス)

GERMANY AND NEUTRAL MAILS.

VIOLATION OF HAGUE CONVENTION.

The following notice has been received from the Foreign Office for publica-

獨逸國法令

四三五

tion:—

Letters bearing the German Censorship label, which have been received in England, have established beyond doubt the fact that when the Swedish mail steamers Björn and Thorsten were captured by the Germans the closed mail bags from Russia and Sweden which were on board were opened and the contents subjected to censorship by the German authorities.

This action was in direct contravention of Article 1. of The Hague Convention of October 18, 1907, of which Germany was one of the signatories, and in which it is laid down that:—

“The postal correspondence of neutrals or belligerents, whatever its official or private character, found at sea on board a neutral or enemy ship is inviolable.”

It is desirable that the circumstances of the violation of these mail bags should be generally known in view of the fact that wide publicity has been given to statements emanating from German sources to the effect that they were returned to the Swedish postal authorities unopened.

(ロ) 諾國船ニ搭載セル郵便物ヲ開封搜索シタル件

(八月二十八日ニニューヨーク・ヘラルド)

GERMANS SEARCH NORWEGIAN MAIL.

Berlin, Friday (by Wireless Telegraph to Tuckerton, N. J.).—The Overseas News Agency to-day says:—

“The Norwegian Minister at Berlin has telegraphed his government that all the mail carried by the steamship Haakon VII. was already on the way to Norway. The mail pouches were opened and searched for contraband letters.”

Despatches from Christiania late last week told of the halting of the Norwegian mail steamship Haakon VII. bound from Bergen to England, and the seizure of mail on board by a German submarine. The incident was followed, it was stated, by a protest to Berlin and a demand for the return of the mail to Norway.

第三 獨飛行船カ蘭國領空ヲ航行セルコトニ關スル獨
國ノ陳謝

(八月二十九日ニニューヨーク・ヘラルド)

APOLOGIZE TO DUTCH FOR "AIR INVASION."

Berlin, Saturday (by Wireless Telegraph to Sayville, L. I.)—The Overseas News Agency gave out the following:—

"The German government has informed the Dutch government that on August 23 a German airship, driven from its course by contrary winds, flew over Dutch territory. As soon as the commander noticed that he was on the wrong course he changed the direction of the airship. Strict instructions have been given to commanders of airships to avoid flying over neutral territory.

第四 獨國內ニ於ケル敵國人ノ取扱ニ關スル件

(大正三年十一月十八日ノルドゴイッ
チエ、アルドマイネ子ツマイツンダ)

VERFÜGUNG ÜBER DEN AUFENTHALT VON ANGEHÖRIGEN
FEINDLICHER STAATEN.

Die in Frankfurt a. M. und in Dresden erfolgte Ausweisung Angehöriger

feindlicher Staaten beruht auf folgender allgemeiner Verfügung:

Aus militärischen Gründen wird nach Benehmen mit dem Königlich preussischen Kriegsministerium folgendes bestimmt:

1. Die Angehörigen aller Staaten, mit denen wir uns im Kriegszustand befinden, sind ohne Rücksicht auf Alter und Geschlecht aus allen am Schluss aufgeführten Orten und Bezirken innerhalb eines Zeitraums von zehn Tagen nach Eingang dieser Verfügung zu entfernen.
2. Nur das Oberkommando in den Marken, die Marinestationskommandos und die stellvertretenden Generalkommandos sind berechtigt, für ihren Befehlsbereich Ausnahmen zu gestatten, die möglichst auf amtärztlich bescheinigte schwere Krankheitsfälle zu beschränken sein werden. Ob für andere Ausländer, die sich seit vielen Jahren in Deutschland befinden und für deren deutschfreundliche Gesinnung und Betätigung angesehene Deutsche volle Bürgerschaft übernehmen, in Einzelfällen Ausnahmen zu gestatten sein werden, wird dem Ermessen der genannten obersten Kommandobehörden anheimgestellt.
3. Wer von den in Frage stehenden Ausländern nach Ablauf der festgesetzten Frist noch oder wieder an dem bisherigen Aufenthaltsort anheimgestellt.

獨逸國法令

betroffen wird, und wer andere verbotene Orte oder Bezirke betritt, ist zu verhaften und den zuständigen obersten Kommandobehörden nahhaft zu machen.

4. Die Wahl des neuen Aufenthaltsortes unterliegt beim Wechsel des Korpsbezirks der Zustimmung des aufnehmenden Generalkommandos; innerhalb des Korpsbezirks kann sie freigestellt werden. Der neue Aufenthaltsort muss aber mindestens 20 Kilometer von der Küste und von jedem der verbotenen Orte entfernt sein. Das Gebiet des Zweckverbandes Gross Berlin darf nicht als neuer Aufenthaltsort gewählt werden. Wenn die Zahl der in andere Korpsbezirke abreisenden Ausländer so gross ist, dass sich Schwierigkeiten bezüglich Innehaltung der Frist ergeben, so ist das stellvertretende Generalkommando des bisherigen Aufenthaltsortes befugt, diese Frist nach Bedarf zu verlängern.

5. Jeder Ausländer ist verpflichtet, den neuen Aufenthaltsort vor der Abreise der Ortspolizeibehörde mitzuteilen, die einen auf den Namen lautenden Erlaubnisschein zur Reise dorthin ausstellt und die Ueberweisung vornimmt. Nach Ankunft im neuen Wohnort hat sofort Meldung bei der Ortspolizeibehörde stattzufinden. Die Reise an den neuen Aufenthaltsort

erfolgt auf Kosten des Reisenden und nötigenfalls nach Vereinbarung der stellvertretenden Generalkommandos mit den Linienkommandanturen. Mittellosen Personen ist der Aufenthaltsort zu bestimmen. Ihre Beförderung dorthin erfolgt auf Kosten der Militärbehörde.

6. Allen über 15 Jahre alten Angehörigen feindlicher Staaten ist, soweit es nicht schon geschehen, die Verpflichtung bis zu täglich zweimaliger Meldung bei der Polizei aufzuerlegen.

7. Auf Saisonarbeiter finden die vorstehenden Bestimmungen keine Anwendung, sofern es von den stellvertretenden Generalkommandos nicht für erforderlich gehalten wird.

Berlin, 10, November.

Der Chef des stellvertretenden Generalstabes der Armee.

Es sind folgende Orte den Ausländern zum Aufenthalt verboten worden:

Potsdam.— Ostseeküste einschliesslich Insel Rügen.— Stettin— Schneidmühl—
Thorn— Königsberg i. Pr.— Befestigungen der masurischen Seen— Allenstein—
Elbing— Marienburg— Leipzig— Posen— Glogaw— Liegnitz— Breslau—
Glatz— Essen— Düsseldorf— Cöln— Düren— Trier— Nordseeküste und vorgelagerte
Inseln einschliesslich Fehmarn, Alsen und nordfriesische Inseln— Rostock—

Lübeck—Neumünster—Kiel—Nordostseekanal—Elbe—und Wesermündung
bis Hamburg bezw. Bremen einschliesslich Emden—Wilhelmshaven—Gotha—
Dresden—Friedrichshaven—Oberheimbefestigungen—Lahr—Baden—Oos—
Mannheim—Strassburg—Metz—Diedenhofen—Danzig—Neubreisach—Gran-
denz—Kulmb—Darmstadt—Frankfurt a.M.

右譯文

敵國人居住取締令(大正三年十一月十八日獨逸半官報北獨日報所載)

フランクフルト、アム、マイン及ドレスデンニ於テ實施セラレタル敵國人ノ退去處分ハ左ノ一般取締令ニ據レリ

軍事ノ必要上普國陸軍省ト協議ノ結果左ノ通決定セリ

- (一) 現ニ獨逸國ト交戦状態ニ在ル總テノ國ノ人民ハ老若男女ノ別ナク本令受領後十日以内ニ末尾ニ掲記セル一切ノ地區ヨリ退去スヘシ
- (二) 當該地區總督、海軍鎮守府長官及留守軍團司令官ニ限リ其ノ命令權ノ範圍内ニ於テ之カ例外ヲ設クルコトヲ得但シ該例外ノ範圍ハ可成醫師ノ證明ヲ有スル重大ナル患者ニ止

ムヘシ其ノ他ノ外國人ニシテ永年獨逸國ニ在住シ且相當ノ資格アル獨逸人ニ於テ其ノ親獨的思想並行動ニ關シ充分ノ保證ヲ與フル場合ニ對シ特定ノ例外ヲ設クヘキヤ否ハ最高司令官廳ノ自由裁量ニ任スルモノトス

- (三) 當該外國人ニシテ所定期間後モ尙從來ノ居住地ニ留マルカ將又再ヒ歸來スルトキ若ハ他ノ禁制地區ニ立チ入ルトキハ之レヲ逮捕シタル上所屬最高司令官廳ニ通牒スヘシ

- (四) 新居住地ノ選定ニ際シ軍團管轄區域ノ變更ヲ生スルトキハ新居住地軍團司令官ノ同意ヲ受クルヲ要ス、同一管轄區域内ニ在リテハ適宜之レヲ選定シ得ヘシ新居住地ハ海岸若ハ禁制地區ヨリ少クトモ二十基米ヲ距タルヘシ但大伯林強制組合地域ヲ新居住地トシテ選定スルコトヲ禁ス、他ノ軍團管轄區域ヘ向ケ出發スル外國人ノ人員多キニ過キ其ノ許與セラレタル期間ヲ遵守スルコト至難ナル場合ニハ從前ノ居住地ノ留守軍團司令官ニ於テ必要ニ應シ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

- (五) 各外國人ハ出發前新居住地名ヲ地方警察官憲ニ通告スヘシ而シテ該警察官憲ハ其ノ氏名ヲ登載セル旅行許可狀ヲ發給シ其ノ移送ヲ管掌スヘシ又新居住地到着後直ニ同地方警察官憲ニ届出ツヘシ、新居住地ヘノ旅行費ハ旅行者ノ自辨トス尙其ノ他必要ノ條項ハ軍團司令官ニ於テ線區司令ト協議ノ上之レヲ定ム
- 無資力者ノ居住地ハ之レヲ指定スヘシ又其ノ該地區ヘノ輸送ハ陸軍官憲ノ費用ヲ以テ之レヲ行フ

- (六) 十五歳以上ノ敵國人ニシテ從來其ノ義務ヲ有セサリシ者モ亦自今毎日二回以下警察ニ

獨逸國法令

四四四

出頭セシムヘシ

(七)留守軍團司令官ニ於テ不必要ト認ムル場合ニハ一時的勞働者ニ關シテハ上掲規定ノ適用ヲナサス

千九百十五年十一月十日

伯林 留守陸軍參謀本部長

左ノ地區ニ於テハ外國人ノ居住ヲ禁止ス

ホツダーム、東海岸(リュウゲン島ヲ含ム)等、(以下略)

第五 俘虜ノ取扱ニ關スル件

- (一) 獨逸ニ於ケル俘虜ノ收容給養並通信等ニ關スル獨逸政府ノ覺書
(イ) 二月二十八日附覺書

No. 197

Embassy of the

United States of America

Tokyo, May 5, 1915.

Your Excellency:

I have the honor, under instruction of my Government, to transmit herewith to Your Excellency a copy and translation of a statement received by the American Ambassador at Berlin from the German Foreign Office, relative to the attitude of, and the principles observed by, the German Government in the housing, feeding, clothing as well as the postal correspondence of combatant prisoners of war, both officers and men, in Germany.

I avail myself of this occasion to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

(Signed) POST WHEELER.

His Excellency

Baron KATO,

His Imperial Japanese Majesty's

Minister for Foreign Affairs,

etc., etc., etc.

TRANSLATION.

Foreign Office.

獨逸國法令

四四五

No. III b 5754,
28890.

NOTE VERBALE.

The Imperial Foreign Office has the honor to transmit herewith to the American Embassy, in answer to its Note of November 7th, 1914,—F. O. No. 1027—six copies of a statement concerning the principles observed in the housing, feeding and clothing, as well as the postal traffic of officers and men, held prisoners of war in Germany.

On the part of the German Army Council it would only be welcomed if the German prisoners were treated in the hostile countries according to the same principles.

The Imperial Foreign Office begs to request the Embassy to act as intermediary, so that the Governments of England, France, Russia and Japan be informed of the principles in question. On this occasion attention should be called energetically that the German prisoners are quartered in localities, the climate of which is not detrimental to their health, and that only such a class of work is required of them, as they are able to execute without physical injury to their health.

Berlin, February 28th, 1915.

To the Embassy of the United States
of America.

Aufzeichnung

über die Grundsätze, betreffend die Unterbringung, Ernährung und Bekleidung
sowie den Postverkehr der kriegsgefangenen Offiziere
und Mannschaften in Deutschland.

Für Offiziere;

Unterbringung:

Es wird im allgemeinen gefordert ein vom hygienischen Standpunkt
durchaus einwandfreier und gesunder Unterkunftsraum, mit mindestens 15
cbm Luftraum pro Kopf, der auch gelüftet werden kann, das volle Tageslicht
zulässt und täglich geheizt und beleuchtet wird; Unterbringung möglichst
weniger Offiziere in einem Raum, Sonderstuben für ältere Offiziere. Beheizung,
Belichtung und Geräteausrüstung erfolgt von der betreffenden Kommandantur
aus, und findet *nicht* auf Kosten der Internierten statt. An Ausrüstung wird

für *jeden* Offizier gefordert:

Bettstelle mit Unterlage, Kopfpolster, Bettwäsche und 2 Decken zum Zudecken,—Stuhl oder Schemel,—Gelegenheit zum Aufhängen der Kleidungsstücke und Niederlegen der Essware (möglichst Spinde, Schränkchen oder Kommode),—Waschbecken, Wasserglas,—Handtuch,—Tisch (für jeden ein Platz am Tisch),—Eimer.

Zur Bedienung der gefangenen Offiziere sind in den Offiziers-Gefangenenlagern gefangene Mannschaften der gleichen Nationalität mit unterzubringen. (Etwa 1 Mann auf 5—10 Offiziere). Diesem Personal liegt die Reinigung der Kleidung, der Unterkunftsräume, der Höfe, Flure, das Heizen, Aufwarten bei Tisch, usw., ob.

Nahrung und Kleidung:

Da die betreffenden Offiziere ihre Kleidung und Verpflegung von der ihren vom feindlichen Staate zu gewährenden Besoldung selbst bezahlen müssen, muss verlangt werden, dass den Offizieren aus dieser Summe eine ausreichende und nahrhafte Tageskost verabfolgt wird, deren Zusammensetzung möglichst vielseitig zu gestalten ist, und zwar zu einem mässigen Preise, damit den Offizieren noch Mittel für kleinere tägliche Bedürfnisse, zum

Beispiel Wäschereinigung usw., zur Verfügung bleiben:

Brausebäder werden kostenlos verabfolgt.

Nunmehr ist den Offizieren auch mässiger Genuss von Bier und leichten Tischweinen gestattet. In den Kantinen können sich die Offiziere einfache Lebensmittel, mit Ausnahme von Zigarren, Tabak und Schokolade, kaufen.

Hingegen können sie sich diese Lebens—und Genussmittel ohne Ausnahme in Paketen schicken lassen und dürfen sie ihnen zum Gebrauch *nicht* vorenthalten werden.

Bücher und Zeitungen sind unter Zensur erlaubt.

Unteroffiziere und Mannschaften.

Unterbringung:

Allgemeine Anforderungen genau wie bei den Offizieren, nur werden meist grössere Räume benützt, in denen eine grössere Anzahl von Gefangenen untergebracht wird. Das *Mindestmass* von Luftraum für den Mann beträgt 5 cbm. Lagerstätten aus Stoffsäcken (Strohsäcken), die mit Stroh oder Holzwolle gefüllt sind; für jeden Gefangenen 2 wollene Decken, Handtuch, Essgerät.

Für jeden Unterbringungsraum die nötigen Tische, Sitzgelegenheiten, Wäsche und Trinkgefässe, Vorrichtungen zum Aufhängen der Kleidungsstücke,

Wandbretter zur Niederlegung von Lebensmitteln und kleinen Gegenständen; in jedem Gefangenelager Badeeinrichtung und Waschküche für die Reinigung der Wäsche;

ausreichende Beleuchtung der Lager, wenn möglich electrisches Licht.

Nahrung:

Den Kriegsgefangenen soll eine auskömmliche, einfache Kost gewährt werden, welche in ihrer Menge und Zusammensetzung etwaigen Arbeitsleistungen, die von den Kriegsgefangenen verlangt werden, angepasst sein muss.

Den Lebensgewohnheiten ist tunlichst Rechnung zu tragen.

Die Kriegsgefangenen erhalten dieselbe Brotportion wie die in Bürgerquartier untergebrachten deutschen Truppen.

Es werden 3 Mahlzeiten am Tage gereicht:

Am Morgen: Kaffee, Tee, oder Suppe.

Mittags: Eine reichliche, aus Fleisch und Gemüse bestehende Kost. Das Fleisch kann auch durch eine entsprechende grössere Portion Fisch ersetzt werden.

Abends: eine kräftige und reichliche Mahlzeit.

Unter allen Umständen muss die Tageskost für die Ernährung ausreichend bemessen werden. Die Kommandanten, die für die Erfüllung dieser Forderung verantwortlich sind, haben deshalb die Ernächtigung, den Fleisch—oder Gemüsebestandteil nach Bedarf entsprechend zu erhöhen; dadurch sind in der Lage, die Kost den Lebensgewohnheiten der verschiedenen Nationen besser anpassen zu können.

Ständige und sorgfältige Überwachung der Beköstigung unter Mitwirkung von Sanitätsoffizieren ist unbedingt erforderlich; auch ist darauf zu halten, dass die Kost nicht eintönig wird, sondern nach Möglichkeit Abwechslung bietet.

In den Kantinen können sich die Mannschaften einfache Lebensmittel, Körperpflegemittel, Wäschestücke, usw., zu festgesetzten niedrigen Preisen kaufen.

Bezüglich des Inhalts der Pakete aus der Heimat gilt dasselbe, wie das bei den Offizieren gesagte, also zum Beispiel auch Aushändigung von Tabak zum Verbrauch.

Kleidung:

Zunächst verbleiben die Kriegsgefangenen Unteroffiziere und Mannschaften

in ihren mitgebrauchten Anzügen. Erfordert der Zustand dieser Bekleidung einen Ersatz, so werden die Gefangenen zunächst mit passenden Kleidungsstücken aus der Kriegsbeute versehen. Ist diese aufgebraucht, so wird geeignete Kleidung neu angeschafft. Die Art der Bekleidung richtet sich nach der Jahreszeit, dem Klima und der Witterung. Die Kleidung besteht im allgemeinen aus einem Anzuge, Halsbinde und Mütze, ausserdem werden Henden, Strümpfe, warmes Unterzeug und gutes Schuhwerk, und zum Schutze gegen Kälte Mäntel und wollene Decken verabfolgt.

Männliche kriegsgefangene Zivilpersonen werden, wenn ihre gegenwärtige Kleidung unbrauchbar geworden ist, in gleicher Weise wie die kriegsgefangenen Militärpersonen, eingekleidet.

Die verbrauchten Kleidungsstücke weiblicher Gefangener werden durch geeignete ortsübliche Stücke ersetzt.

Postverkehr:

Nach neuen, in Deutschland nimmehr überall einheitlich eingeführten Bestimmungen dürfen die Gefangenen Briefe zweimal monatlich, *ausserdem* Karten einmal wöchentlich schreiben. Offiziere können Briefe von 6 Seiten, Mannschaften 4 Seiten schreiben. Wenn besondere Umstände vorliegen, zum

Beispiel Regelung in Familienangelegenheiten und dringende Angelegenheiten geschäftlicher Natur, so sind Ausnahmen gestattet.

Translation.

STATEMENT CONCERNING THE PRINCIPLES OBSERVED IN THE HOUSING, FEEDING AND CLOTHING, AS WELL AS THE POSTAL TRAFFIC OF OFFICERS AND MEN HELD PRISONERS OF WAR IN GERMANY.

For Officers.

Housing:

In general, the place of internment must be a healthy place, absolutely unobjectionable from a hygienic point of view with at least 15 cbm. breathing space per man, which can be aired, admits full day light and can be heated and lighted daily; as few officers as possible lodged in one room, separate rooms for older officers. Heat, light and equipment is furnished by the respective commanders, and is *not* at the expense of the interned. The following equipment is required for each officer:

Bedstead with mattress, bolster, bedlinen and two blankets,—chair or stool, an appliance for hanging up the clothing and a place for storing the eatables (where possible closets, cabinets or chests of drawers),—washbowl,—waterglass,—towel,—table (a place at the table for each)—pail.

For attending the interned officers, men of the same nationality, also prisoners of war, are to be quartered in the officers' camp (approximately one man for 5 to 10 officers). This staff of orderlies has to attend to the cleaning of the clothes, living-rooms, courtyards and halls, to the heating and table-service, &c.

Food and Clothing :

As the respective officers themselves have to pay for their food and clothing out of the pay accorded to them by the hostile country, it must be demanded that they receive on each day a sufficient and nutritious fare the menu of which is to be as varied as possible, and this at a moderate price in order that means for their small daily wants, such as laundry &c. still remain at their disposal.

Showerbaths are given free of charge

At the present time, the moderate partaking of beer and light table wines

is also permitted to officers. In the canteens, the officers can purchase plain food-stuffs excepting cigars, tobacco and chocolate.

They may, however, let these eatables and table luxuries without exception be sent them in parcels, and the same must *not* be withheld from them for their use.

Books and periodicals are permitted under censorship.

Noncommissioned Officers and Men.

Housing :

General requirement the same as with officers, only in most cases larger rooms are used, in which a greater number of prisoners are quartered. The *minimum* breathing space for each man is 5 cbm. Sleeping accommodations consist of clothsacks (paillasses) which are filled up with straw or wood shavings, for each prisoner 2 woolen blankets, towel, eating-utensils.

For each quarter the necessary tables, sitting places, linen and drinking cups, appliances for the hanging up of clothing, wall shelves upon which to place eatables and small articles; in each prison camp installation for bath and washhouse for the cleaning of the laundry; sufficient lighting of the camps, electric light if possible.

Food:

To the prisoners of war sufficient plain food shall be given, which in its quantity and composition is adapted to such class of work, as may be required of the prisoners of war.

Wherever possible, consideration shall be paid to the habits of living.

The prisoners of war receive the same quantity of bread as the German troops lodged in civilian quarters.

Three meals a day are served out;

In the morning: coffee, tea or soup.

At noon: a plentiful fare consisting of meat and vegetables. The meat may be replaced by a correspondingly larger portion of fish.

At night: a substantial and plentiful meal.

Under any circumstances the daily fare must be sufficient for the proper nourishment. The commanders who are responsible for the fulfillment of these instructions, consequently are authorized to increase the amount of meat or vegetables according to requirements; they are thereby placed in the position to better adapt the fare to the habits of living of the various nations.

Continuous and careful supervision of the food under co-operation of medical

officers is absolutely necessary; attention must be paid also to the fact that the fare does not become monotonous, but is varied as much as possible.

In the canteens, the men may purchase plain foodstuffs, articles for the care of the body, linenware &c. at fixed low prices.

Concerning the contents of parcels from home, the same applies as stated in the case of officers, so for instance the handing out of tobacco for use.

Clothing:

In the beginning, non-commissioned officers and men who are prisoners of war, remain in the uniform which they have brought with them. If the state of this clothing needs replacing, the prisoners will at first be provided with proper articles of clothing from the booty of war. When the latter is used up, new suitable clothes are purchased. The kind of clothing is dependent upon the season, the climate and the weather. The clothing generally consists of a suit, necktie and cap, besides shirts, socks, warm underwear and good shoes are given as well as overcoats and woollen blankets to protect against the cold.

Male civilian prisoners of war will be fitted out in the same way as military prisoners of war after their present clothing can no longer be used.

The worn-out clothing of female prisoners is replaced by suitable customary

Postal Traffic.

According to new regulations now uniformly in force throughout Germany, the prisoners may write a letter twice monthly, and besides postcards once weekly. Officers may write letters of six pages, men of 4 pages. If special circumstances exist, such as the adjustment of family matters and urgent affairs of a business nature, exceptions may be allowed.

(口) 三月三十一日陸軍部

No. 239

Embassy of the
United States of America,
Tokyo, June 3, 1915.

Your Excellency :

With reference to my note No. 197 of the 5th ultimo, I have the honor, under instruction from the Department of State, at the request of the German Government, to transmit to Your Excellency herewith a copy of a supplementary Note Verbale, dated March 13st last, concerning arrangements for food and cloth-

ing to be supplied to prisoners of war.

I avail myself of this occasion to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

(Signed) Post WIEPNER.

His Excellency

Baron KATO,

His Imperial Japanese Majesty's

Minister for Foreign Affairs,

etc., etc., etc.

Auswaertiges Amt.

Nr. III b 7521.

40924.

VERBALNOTE.

Das Auswaertige Amt beehrt sich, der Botschaft der Vereinigten Staaten von Amerika im Anschluss an die Verbalnote vom 28. v. M. III b 5754 mitzuteilen, dass die mit der bezeichneten Verbalnote übermittelten Grundsätze, betreffend die Unterbringung, Ernährung und Bekleidung sowie den Postverkehr der kriegsgefangenen Offiziere und Mannschaften in Deutschland, auch für die Zivilgefangenen

獨逸國法令

四六〇

mit der Massgabe Geltung haben, dass ihnen keine Gebuhnisse gezahlt werden und dass den Gefangenen eine ihrer Lebensweise entsprechende Unterkunft gewahrt wird.

An die

Berlin, den 31, März 1915.

Botschaft der Vereinigten

Staten von Amerika.

Translation.

Auswärtiges Amt.

No. III b 7521
40924.

NOTE VERBALE.

In further reference to its note verbale of February 28th, III b 5754, the Imperial Foreign Office has the honor to inform the American Embassy that the principles contained in the above mentioned note verbale, regarding the housing, feeding and clothing, as well as the postal traffic of officers and men, held

prisoners of war in Germany, also apply to civilian prisoners, with the reservation that no salaries are paid them, and that they are housed in a manner corresponding to their way of living.

Berlin, March 31, 1915.

To the

American Embassy.

(二) 俘虜ノ勞務使役ニ關スル獨國勞働大臣ノ布告

(大正四年四月十五日附報告)

今回獨逸ニ於テハ國內勞働缺乏ノ折柄鐵道ニ於テモ俘虜ヲ勞務者トシテ使用スヘキ旨同國勞働大臣ニ於テ勸奨旁、布告ヲ發シタル趣ヲ以テ四月十一日發行「ベルリーナー、ターゲブラット」ニ右布告ヲ掲載シタリ其摘譯左ノ如シ

俘虜ヲ勞務ニ使役スルコトニ關スル獨國勞働大臣ノ布告摘譯

戰爭ニ基ク壯丁ノ召集ト國內農商工業建築業其ノ他各種事業ノ多忙トハ外國勞働者ノ供給杜絶ト相俟テ國內勞働ノ缺乏ヲ憂ヘシムルニ至レリ鐵道業ノ方面ニ於テモ然リトス農工業ノ如キ又鑛山業ノ如キ已ニ俘虜ノ使役ニ關シ相當ノ處置ヲ講セラレタルカ鐵道ニ於テモ春暖ト共ニ諸方面ニ多數ノ勞働者ヲ要スルニ至ルヘキヲ以テ當該勞務ノ種類及性質上差支ナ

獨逸國法令

四六一

キモノ若クハ適當ト認メラルルモノニアリテハ可成俘虜ノ勞務ヲ利用スルコト、セサルヘカラス例ハ鐵道線路關係ノ業務ノ如キハ俘虜ヲ使役スルコト面白カラサルモ鐵道關係ノ建築其ノ他ノ方面ニ於テ俘虜ヲ使役シ得ル場合少カラサルヘシ尤モ如何ナル業務ニ之ヲ使役スヘキヤハ一ニ之ヲ鐵道監理局ノ選擇ニ任スヘシ而シテ俘虜勞動者ノ監視ニ關シテハ軍隊ノ力ニ依頼スルヲ得ヘキヲ以テ俘虜ノ使役ハ實際上何等ノ困難ナカルヘク且國內ニ多數ノ收容所ノ設置アル今日俘虜ヲ日々勞務所ニ連レ行キ若ハ連レ歸ル等ハ勿論其ノ給養等ニ關シテモ格別ノ面倒ナカルヘシ

第六 中立國殊ニ米國ニ於テ敵國ノ爲軍需品製造ニ從

事スル獨逸人ノ處罰ニ關スル獨逸國政府ノ告示

(大正四年七月二十三日獨逸官報)

Wie nach einer Mitteilung des "W.T.B." verlautet, sind in den neutralen Ländern, insbesondere in den Vereinigten Staaten von Amerika, Personen deutscher Abstammung als Arbeiter, Ingenieure oder in sonstiger Eigenschaft in Betrieben tätig, die sich mit der Herstellung von Kriegsbedarf für unsere Feinde befassen. Alle diejenigen, die als solche Weise die feindliche Kriegsmacht stärken und dadurch Deutschlands Kriegführung erschweren, laden nicht nur eine schwere

moralische Schuld gegen ihr Vaterland auf sich, sie machen sich auch—was nicht allgemein bekannt zu sein scheint—nach den deutschen Gesetzen wegen Landesverrats strafbar.

Der §89 des Reichsstrafgesetzbuchs lautet nämlich:

Ein Deutscher, welcher vorsätzlich während eines gegen das Deutsche Reich ausgebrochenen Krieges einer feindlichen Macht Vorschub leistet oder der Kriegsmacht des Deutschen Reichs oder der Bundesgenossen desselben Nachteil zufügt, wird wegen Landesverrats mit Zuchthaus bis zu 10 Jahren oder mit Festungshaft von gleicher Dauer bestraft.....

Ferner bestimmt der §4 Abs. 2 Nr. 2 des Strafgesetzbuches, dass ein Deutscher wegen einer landesverräterischen Handlung auch dann verfolgt wird, wenn die Handlung im Ausland begangen ist. Sofern also Personen, die sich an der Herstellung von Kriegsbedarf für die Feinde Deutschlands beteiligen, die deutsche Staatsangehörigkeit besitzen, können sie strafgerichtlich verfolgt werden, sobald sie deutschen Boden betreten. Es ist nicht daran zu zweifeln, dass die deutschen Strafverfolgungsbehörden jeden Deutschen, der in dieser Zeit seine Pflichten gegen das Vaterland verletzt, ohne Nachsicht zur Verantwortung ziehen werden.

右ノ譯文

(大正四年七月二十五日附報告)

「ウオルフ」電報通信社ノ報道ニ依レハ中立諸國殊ニ北米合衆國ニ於テ獨逸系ノ人々ニシテ勞働者、技術者其他ノ資格ニ於テ敵國側軍需品ノ製造ニ從事スルモノアリ此ノ如キ方法ヲ以テ敵國ノ戰鬥力ヲ増加シ引イテ獨逸國ノ戰鬥ヲ困難ナラシムルモノハ單ニ祖國ニ對シテ道德上ノ重過ヲ犯スニ止マラス獨逸國法ニヨリテ叛逆罪ニ問ハルヘキモノナリ(右ハ一般ニ周知シ居ラレサル事實ナルヲ以テ茲ニ注意ヲ喚起セントス)

獨逸帝國刑法第八十九條ニヨレハ獨逸帝國ニ對シテ起生シタル戰爭ノ繼續中故意ニ敵國ニ利益ヲ與ヘ若クハ獨逸帝國又ハ聯合國ノ戰鬥力ニ不利ヲ加ヘタル獨逸人ハ叛逆罪ニヨリテ罰セラレ十年以下ノ懲役若クハ同期限ノ禁獄ニ處セララルヘシ云々

其他刑法第二條第二項ノ規定ニ據レハ獨逸人カ叛逆罪ヲ犯シタルトキハ其行爲カ外國ニ於テ行ハレタル場合ト雖猶訴追セラルルモノトス獨逸ノ敵ニ對スル軍需品製造ニ參加シタルモノニシテ獨逸ノ聯邦ノ國籍ヲ有スル者ハ獨逸ノ領土ニ入ルヤ否ヤ直ニ刑法上ノ訴追ヲ受クルモノトス

獨逸ノ刑法訴追ニ參與スル官廳ハ祖國ニ對シ自己ノ義務ヲ忘ルル獨逸人ニ對シテ容赦ナク嚴罰ヲ加フヘキコトハ何等疑フノ必要ナシ(大正四年七月二十三日獨逸官報登載)

第七 輸出禁止品ノ件

○獨逸醫藥其他輸出及通過貿易禁止ニ關スル告示(八月三日官報) 瑞典國駐劄内田特命全權公使ヨリ本年六月十七日附ヲ以テ本件原文送付アリタルニ付キ左ニ之ヲ譯載ス(本年六月二十六日本欄内參看)(外務省)

告示

(一)武器、彈藥、火藥等ノ輸出及通過 (二)軍需品ノ製造又ハ營業ニ使用スル原料品ノ輸出及通過 (三)糧食、敷藁並ニ飼料ノ輸出 (四)自動車並ニ生鑽油、石炭乾溜液及總テ是等ヨリ製造シタル油ノ輸出 (五)繃帶並ニ藥品等ノ輸出及通過 (六)動物並ニ動物性製品ノ輸出 (七)各種ノ鐵道材料、電信電話用器具ノ輸出及通過ニ關スル千九百十四年七月三十一日ノ勅令第二條ニ依リ左ノ通告示ス

左記物品ノ輸出及通過ヲ禁止ス

- 一、「カウチユク」、「ガタベルチャ」及生又ハ精製「バラタ」關稅定率表第九十八號ノ油狀「カウチユク」及其他ノ「カウチユク」代用品、是等製品ノ破片及廢物ヲ含ム
- 二、「カウチユク」接合劑及「ガタベルチャ」接合劑
- 三、「カウチユク」油
- 四、關稅定率表第七節(第五七〇乃至第五八六號)ノ「カウチユク」製品全部
- 五、「カウチユク」製玩具

六、爾餘ノ「カウチユク」ノ使用品全部（關稅定率表第五節且項就中外套及纏布等既ニ軍需品トシテ禁止シタルモノハ別トシテ第五百二十二號ニ掲ケタルモノヲ除ク）

千九百十五年六月八日伯林ニ於テ 帝國宰相代理 テルブリユック

告示

繙帶、藥品並ニ醫療機械及器具ノ輸出及通過禁止ニ關スル千九百十四年七月三十一日ノ勅令第二條ニ依リ茲ニ千九百十五年四月一日附告示（千九百十五年四月三日帝國官報第七十八號）ヲ廢止シテ左記ノ物品ノ輸出及通過ヲ禁止ス。

- 一、「アツエタニリード」（「アンチフェブリン」）
- 一、「アセチールサリチール酸」（「アスピリン」）
- 一、「アクトール」
- 一、「アルバルギン」
- 一、蘆薈
- 一、「アルミニウム、ナフトールヂスルフトニウム」
- 一、「アルムノール」
- 一、「アリピン」
- 一、「コレコリン」、「プローム」水素酸「アレコリン」ヲ含ム
- 一、「アルゲンタミン」
- 一、「アルゲントム、チトリウム」
- 一、膠樣銀
- 一、「ゲラトザ」銀
- 一、「アルゲントム、ラクチウム」
- 一、「ナトリオカゼイン」銀
- 一、硝酸銀
- 一、「ヌクレイン」銀
- 一、「プロタルピン」銀

一、「イヒチオール」硫基酸

一、「アルゴニン」

一、「アルギロール」

一、依的兒（「エチールエーテル」）麻醉用「エーテル」ヲ含ム

一、「エチレーン」重鹵基ニ磷酸鹽銀液

一、「アトロピン」、其鹽類及化合物

一、「プローム」、「プローム」水素酸、「プローム」酸鹽類、「プローム」水素酸鹽類、有機「プローム」化合物

一、「カスカラサグラダ」及其調合物

一、「カゼイン」銀

一、「キナ」皮

一、規尼涅、規尼涅鹽及規尼涅化合物

一、「クロラールヒドラート」

一、鹽化「エーテル」及小壘入並ニ筒入鹽化「メチール」

一、「クロ、フォルム」又ハ麻醉用「クロ

、フォルム」

、フォルム」

一、古加葉

一、「コカイン」及其鹽類

一、「コルヒチン」

一、「コルラルゴール」

一、「ヂエチール、バルビツール」酸及其鹽類（例ヘハ「メヂナール」）

一、「ヂギタリス」葉及「ヂガレン」ノ如キ其調合物

一、「ヂュホイジン」、其鹽類及化合物

一、「エメチン」、其鹽類、化合物及調合物

一、越攝林（「フィソスチグミン」）及鹽類、化合物及調合物

一、「オйкаイン」

一、「センナ」葉

一、「フォルマルデヒド」液「パラフォルマルデヒド」

一、「ガリウム」林檎

- 一、「ゲラトローゼ」銀
- 一、「クリアヂン」銀
- 一、佩里設林磷酸鹽及其調合物
- 一、「ガタヘルチャ」紙
- 一、「グアヤコール」、其鹽類、化合物及調合物
- 一、「ヘゴノーン」
- 一、「ヘキサメチレンテトラミン」(「ウロトロピン」、「フォルミン」、「アミノフォルム」等)及其鹽類
- 一、地獄石
- 一、「イヒタルガン」
- 一、「イヒチオールスルフオ」酸銀
- 一、吐根又ハ「エメチン」ヲ含有セサル吐根
- 一、「イトロール」
- 一、沃度、生沃度、沃度水素酸、沃度水素酸鹽、有機沃度化合物及其調合物

- 一、「カルボール」酸
- 一、「カウチユク」(護謨但シ關稅定率表第九十七號ノ護謨ヲ除ク)
- 一、「コダイン」又ハ「燐酸」「コダイン」及鹽酸「コダイン」
- 一、「コッフアイン」、其鹽類、化合物及調合物
- 一、「コロイダル」銀
- 一、「クレオソート」、其鹽類、化合物及調合物
- 一、「クレゾール」、「クレゾール」石鹼液、「リゾール」
- 一、「ラルギン」
- 一、「ルミナル」
- 一、「マスチック」、「マスチゾール」ノ如キ「マスチック」調劑
- 一、「メチールスルフオナル」(「トリオナル」)

- 一、乳酸銀
- 一、「モルヒネ」、「モルヒネ」鹽及「モルヒネ」化合物(例ヘハ「「ヂオニンヘロイン」」)
- 一、麻酔混合物(「シユライヒ氏麻酔劑」其他)
- 一、「ノワルガン」
- 一、「ノブオカイン」、其化合物及調合物
- 一、「ヌクレイン」酸銀
- 一、阿片及阿片散、阿片丁幾、阿片越幾斯、「「パントボン」」ノ如キ阿片調合物
- 一、「パラフィン」
- 一、「ペルーバルサム」
- 一、「ヘルーゲン」(人造「「ペルーバルサム」」)
- 一、「フェナセチン」
- 一、「フィグスチグミン」(「「エゼリン」」)其鹽類、化合物及調合物

- 一、「ピロカルピン」、其鹽類、化合物及調合物
- 一、「プロボナル」
- 一、「プロタルピン」酸銀
- 一、「プロタルピン」銀
- 一、「プロタルゴール」
- 一、「プロタイン」銀
- 一、「ヂメチールアミドアンチピリン」(「「ピラミドン」」)
- 一、「ピラツオロヌム、フェニルヂメチルクム」(「「アンチピリン」」)
- 一、「サリチール」酸「「アンチピリン」」(「「サリピリン」」)
- 一、水銀及水銀鹽、軟膏、昇華劑ノ如キ調合物ヲ含ム
- 一、大黃及其調合物
- 一、「ヒドラスチス」根及其調合物
- 一、蓖麻子油

- 一、動物、植物、礦物性ノ脂ヨリ製シタル軟膏及捏粉
- 一、「サリチール」散、其鹽類、化合物及調合物
- 一、「サルバルサン」、「ネオザールフアルサン」
- 一、「シユライヒ氏液及同氏ノ錠劑
- 一、「スコボラミン」、「ヨスチン」及其鹽類
- 一、古魯失屈護子(藜蘆科植物ノ種子)及其調合物
- 一、「セネガ」根
- 一、「セネチオ」草
- 一、銀「アルブモーゼ」
- 一、銀蛋白
- 一、銀「ニトラート」
- 一、有機及無機化合物並ニ本公告中ニ名ヲ掲ケサル其調合物ニシテ治療用ニ供

- スルモノ
- 一、「ヂマルバ」皮
- 一、「ソフオール」
- 一、蘇合香(粗製又ハ精製)
- 一、「スルフオナール」
- 一、「スプラレニン」、「アドリナリン」、「パラネフリン」、「エビネフリン」、「エピレナン」其化合物及調合物
- 一、硫酸「タルリン」及其他ノ「タルリン」鹽類
- 一、「デオプロミン」其鹽類、化合物及調合物
- 一、「テオチン」其鹽類、化合物及調合物
- 一、「テオフィリン」其鹽類、化合物及調合物
- 一、「トリオナール」(「メチールスルフォナール」)
- 一、「トロパコカイン」其化合物及調合物

- 一、「ウセリン」
- 一、「ウエロナール」、「ウエロナールナトリウム」
- 一、酒酸、酒石酸
- 一、「ウイスムート」及「ウイスムート」化合物
- 一、「ウォルフエット」、刺納林
- 一、醋酸亞鉛
- 一、過滿俺酸亞鉛
- 一、「スルフォ」石炭酸亞鉛
- 一、硫酸亞鉛
- 一、枸橼酸

千九百十五年五月二十二日伯林ニ於テ

帝國宰相代理 テルブリユック

第八 食料品其他軍需品販賣取締ノ件

(一) 獨逸ノ麵麩類價格引下

(大正四年六月十日附在瑞典帝國特命全權公使内田定槌報告)

獨逸國法令

- 一、枸橼酸銀
- 一、綿帶用綿綿帶用「ガーゼ」及其他ノ綿帶材料
- 一、外科用並ニ醫療用機械及器具又ハ其一部及半製品(但シ專ラ出產用及齒科用ニ供スルモノヲ除ク)
- 一、化學用及細菌學用器具又ハ其一部及半製品
- 一、細菌學用培養土壤ノ材料例ハ、寒瓊脂、「ラックムス」色素、豫防用痘漿及豫防用血清ノ如キ免疫血清試驗用動物

(伯林市市參事會ノ公告)

戰時穀類會社ハ穀粉ノ價格ヲ低減セシモ町村組合ハ其高度ニ收得セル穀粉ノ現在高チ先ツ少ナクトモ一部賣リ拂ハサル可カラサルヲ以テ直ニ之レヲ採用スルコトヲ得ス然レトモ伯林區域内六個ノ市團體ハ是ヨリ生スル損害アルニモ拘ハラズ穀粉ニ對スル價格ノ低減ヲ六月七日ヨリ採用スルコトヲ議決セリ故ニ同時ニ麵麩類ノ最高價格ヲモ低減セシムルコトヲ得ルニ至レリ而シテ麵麩類最高價格ノ低落カ穀粉價格ノ低落範圍ヲ出テサルコト勿論ナリ尤モ價格ヲ適當ニ低落セシメ且ツ數次發表セラレシ國民ノ希望ヲ容レンカ爲ニハ此際麵麩類ノ均一分量ヲ變更スルコトヲ要ス一基瓦半ノ黑麥麵麩ハ必スシモ必要ナルモノニアラサルヲ以テ全然之レヲ製造セサルコトトセリ一基瓦黑麥麵麩ハ其儘トシ從來ノ二基瓦ノ黑麥麵麩ノ均一分量ハ目下千九百五十五瓦ナルヲ以テ自今千九百五十五ノ黑麥麵麩ヲ得ルニハ一枚ノ麵麩券ニテ足ル七十五瓦ノ「ゼムメル」(小形麵麩)ハ之レヲ廢止シ其大サ凡ソ以前ノ「シユリツペ」(小形麵麩)ニ等シキ五十五瓦ノ小麥白麵麩ヲ以テ之ニ代フ

新最高價格ハ千九百五十五ノ黑麥麵麩ハ八十布、一基瓦ノ黑麥麵麩ハ四十二布、白麵麩ハ三布ナリ

從來之レヨリ低廉ナル價格ヲ最高價格トセル麵麩屋ハ穀粉ニ對シ低價ヲ仕拂フ可キヲ以テ今又麵麩ノ價格ヲ適宜ニ低減スルコトヲ要ス從來ノ如ク牛乳入「ゼムメル」、「ビスケツトプムベルニツケル」(粗製麵麩)ニ對シテハ此最高價格ヲ適用セス然レトモ均一分量ハ同様此特別ナル麵麩類ニ適用ス從テ牛乳入「シユリツペ」ハ只五十五瓦ノ重量アルベシ麵麩屋ハ更ニ

最高價格ノ新規定ヲ掲グルコトヲ要ス六月七日以後猶舊價格表ヲ掲グルハ犯罪行爲ト認メラルルヲ以テ注意スヘシ

(二) 獨逸ノ穀物肉類保存ニ關スル法令

(大正四年二月一日附在瑞典帝國特命全權公使内田定植報告)

(イ) 麵麩用穀類ノ差押(内閣布告)

内閣ハ麵麩用穀類ノ差押ニ關シテ左ノ布告ヲナス

聯邦議會決議ニ基キ全帝國領土ニ於ケル麵麩用穀類及穀粉全部ノ貯藏ニ對スル差押ノ規定ヲ設ケラレタリニ「ツェントネル」以下ノ僅少ナル分量及種子貯藏ノ外私人カ其儘所有シ得ヘキハ農業經營上之レニ從事スル者ノ糧食トシテ必要ナル貯藏ニ限ル麵麩用穀粉ノ全部總額ハ町村組合ニ對シ其管内ニ於ケル被扶助者ノ多少ニ從ヒテ分配セラルヘシ町村組合ハ其分配セラレシ貯藏ヲ管内ノ被扶助者ニ賣渡シ之レニヨリテ何人ト雖麵麩及穀粉ノ適當ナル一定量ヲ得セシメ且ツ翌年中夏ノ收穫期マテ優ニ貯藏ノ維持ヲナサントス

今ヤ過渡期ノ初ニ屬スルカ故ニ麵麩ノ給與ニ關シテハ不規則ナル事ハ自然ノ勢トシテ全然之レヲ避クルコト能ハサルヘシト雖斯ル狀態ハ遠カラス確實ニ除去セララルヘキナリ

今回制定セル方法ハ聯邦議會カ戰爭ノ間ニ制定セシ從來ノ經濟的命令ノ全部ニ比シ其我國

民ノ經濟生活ニ及ホス影響甚々大ナルコト疑ナ容レサル處ナリ此方法ヲ命シタル所以ノモ
 ノハ麵麩用穀類ヲ以テ新收穫ノ白搗マテ我國民ヲシテ各自十分且ツ平均ナル糧食ノ給與ヲ
 確實ニセントスルニアリ故ニ此方法ハ國家的及國民的生活上已ムテ得サルニ出テシモノナ
 リ從來ノ方法ハ吾人ノ一定制限内ニ於テ全然十分ナル麵麩用穀類貯藏ノ節約セル消費ヲ保
 證スルニ足ラサリシナリ殊ニ麵麩用穀類ヲ飼料ニ用フル事ヲ避クルコト能ハサリキ上述ノ
 目的ヲ達セン爲メ唯二種ノ方法アリ即チ或ハ麵麩用穀類ノ價格ヲ全然法外ニ騰貴セシメ其
 強壓ニヨリテ消費ヲ制限シ殊ニ麵麩用穀類ヲ飼料ニ用フルコトナカラシムルカ或ハ麵麩用
 穀類貯藏全部ノ差押ヲナシ之レヲ町村組合ニ對シ給與ス可キ住民ノ多寡ニ應シテ分配ヲナ
 スカニアリ獨國々民ノ爲ニ戰爭中麵麩ノ益々騰貴スルコトヲ防カン爲メ聯邦政府ハ第二ノ
 方法ヲ採ルニ決セリ

前述ノ方法ハ吾人ニ獨國ヲシテ飢饉ニ陷レントスル敵國ノ謀策ヲ畫餅ニ歸セシム可キ確信
 ナ與ヘ新收穫迄食フニ十分ナル麵麩用穀類ヲ保證シ我國ヲシテ此經濟的戰爭ニ於テモ亦タ
 屈服セラルルコトナカラシムルモノナリ
 必要缺ク可カラサル綿密ニシテ而モ良ク信賴スルニ足ル此聯邦議會ノ命令ヲ實施セントス
 ルニ當リ國家及町村役場特ニ又吾人ノ自治政策ノ實直ナル組織ニ俟ツトコロ尠ナカラス吾
 人ハ總テ行政官廳及各官吏カ協力ノ權限外ニ亘リテ迄モ此大責務ノ實施ニ全力ヲ盡シ名實
 共ニ國民ニ助力ヲ與フヘキコトヲ信賴スルモノナリ吾人ハ我國民力之レカ爲メ其總テノ階
 級ヲ通シ又其經濟的組織ニ於テ和衷共同力ヲ致サンコトヲ疑ハス國民タルモノハ各自其貯

藏ノ申告ニ關シテモ亦タ麵麩用穀類ヲ各種飼料ニ用井ルコトヲ絕對的ニ中止スルコト等ニ
 關シテモ嚴正ニ命令ヲ遵奉ス可ク是國民カ祖國ニ對スル最モ森嚴且ツ神聖ナル義務ニシテ
 若シ之レヲ損傷セハ(不名譽ナル禁錮刑ヲ科セラルルコトハ全然別問題トスルモ)重大ナ
 ル道徳上ノ罪業ヲ犯スモノナリ之レカ爲メ日常生活ノ習慣及自己ノ利害ヲ度外視スルコ
 ト肝要ナリ

自下非常ノ時機ニ於テ愛國ノ精神ト必勝ノ信念トハ著シク我國民中ニ表ハレ來リ茲ニ各聯
 邦及帝國ニ於ケル總テノ男子及總テノ女子カ好ンテ献身のニ其負擔ヲ荷フヘキコト疑ナ容
 レス
 外戰場ニ在ル我決死ノ軍隊ト共ニ我々内郷國ニ在ル者モ亦各其責務ヲ盡シテ帝國ノ興亡ト
 名譽ノ爲メ連戰連勝ヲ期スヘキナリ
 伯林千九百十五年一月二十五日

- 内閣フオン、ベイトマン、ホルエツヒ
 フオン、チルピツツ
 フオン、プライテンバツパ
 フオン、トロットツウツオルツ
 レンツエ
 キューン
 フオン、ホーベンホルン
 テールブリユツク
 ベーゼレル
 シトウ
 男爵フオン、シヨルレーメル
 フオン、レーベル
 フオン、ヤガウ井ルド

(ロ) 麵麩用穀類及穀粉ノ取引整理ニ關スル一月二十五日附聯邦議會布告

(千九百十五年一月二十七日フランクフルテル紙所載)

伯林一月二十六日私電

官報「ライヒス、アンツアイゲル」ハ今號外ヲ以テ聯邦議會ノ頗ル有力ナル新決議ヲ公表セリ此公表ハ一月二十五日附麵麩用穀類及穀粉ノ取引整理ニ關スル布告ヲ以テ始マル聯邦議會ハ經濟上ノ手段其他ニ關スル權能ヲ聯邦議會ニ賦與セル千九百十四年八月四日附ノ法律第三條(帝國法令集第三百二十七頁)ニ據リ左ノ命令ヲ發布セリ

第一 差押

第一條 千九百十五年二月一日以降小麥(「ジンケル」種及「シヘルツ」種)黑麥ニシテ他ノ穀類ヲ混合セサルモノ或ハ混合セルモノ又ハ打禾セサルモノ、帝國ニ現存スル貯藏ハ柏林戰時穀類有限責任會社ノモノトシテ及小麥黑麥燕麥及大麥ノ粉末ノ貯藏ハ所在町村組合ニ於テ之レカ差押ヲナス右指定ノ時期ニ於テ運搬中ノ穀粉ハ其到達引渡地タル町村組合ノモノトシテ之レカ差押ヲナス

第二條 差押ヲ免セラルルモノ

(a) 帝國聯邦或ハエルザス、ロートリンゲン州ノ所有ニ係ル貯藏特ニ陸軍倉庫、海軍所管或ハ柏林軍隊糧食調達中央局ノ所有ニ係ル貯藏、町村組合ノ區域内ニ存在シ同組合ノ

所有ニ係ル貯藏

(b) 柏林戰時穀類有限責任會社或ハ柏林中央買入有限責任會社ノ所有ニ係ル貯藏

(c) 打禾セル穀類及穀粉ニシテ總額併セテ二「ツエントネル」ヲ超エサル貯藏

第三條 差押物品ハ之レヲ變更スルコトヲ得ス而シテ其物品ニ對スル法律行為上ノ處分ハ

第四條第二十二條ニ別段ノ規定ナキ限り無効トス又畜類ノ飼料ニ使用スルコトヲ禁止ス

強制執行又ハ差押執行ノ處分ハ法律行為ニ基ク處分ニ等シ

第四條 差押ヘラレシ貯藏ノ所持者ハ貯藏ノ保存ニ必要ナル行為ヲナス可キ權利及義務ヲ有ス開始セル運搬ハ完成セサル可カラズ戰時穀類有限責任會社或ハ所轄町村組合(第一條)ニ對スル賣却並ニ戰時穀類有限責任會社或ハ所轄町村組合ノ同意ヲ得テ爲ス變更及處分ハ總テ之レヲ(町村組合ヨリ他ノ町村組合ニ對スル讓渡ハ上級行政官廳ノ許可ヲ要シ)帝國分配事務局(第三十一條)ニ届出ツルコトヲ要ス

差押ニ拘ハラズ

(a) 企業家或ハ經濟的營業者ハ其家族僕婢ノ糧食ニ對シ一人前一ヶ月九「キログラム」ノ麵麩用穀類及春季耕作ニ必要ナル種子ヲ使用スルコトヲ得麵麩用穀類一「キログラム」ノ代リニ八百瓦ノ穀粉ヲ使用スルコトヲ得現物權者殊ニ終身土地扶養權者及勞働者ハ權利ニヨリ又ハ給料トシテ麵麩用穀類或ハ穀粉ヲ請求スルコトヲ要スル場合ニ限り家族ニ同シ

(b) 企業家或ハ經濟的營業者及商人ハ明ニ最近二年間種子穀類ノ販賣ニ從事セシ農業者

ヨリ出テタル種子穀類ヲ播種ノ目的ノ爲メ之レヲ供給スルコトヲ得他ノ種子穀類ハ管轄官廳ノ許可ヲ得テ而シテ播種ノ目的ヲ以テ供給スルコトヲ得

(c) 製粉所ハ穀類ヲ挽粉スルコトヲ得右製粉ハ製粉所ノ存在スル町村組合ノモノトシテ之レカ差押ヲナス

(d) 臨時所管契約又ハ之レト類似ノ契約關係ニ基キ千九百十五年二月中海軍所管ニ穀粉ノ供給ヲナスヘキ義務ヲ負ヘル製粉所ハ同月中右供給ヲナスコトヲ得

(e) 商人及商業製粉所ハ毎月千九百十五年一月一日ヨリ十五日マテニ買收セル穀粉ノ半分迄讓渡スコトヲ得

(f) 麵麩屋及菓子屋ハ千九百十五年一月一日ヨリ同月十五日ニ至ル迄ノ毎日平均消費高ノ四分三ニ相當スル穀粉ヲ毎日焼クコトヲ得右制限ハ差押ヲ免セラレシ麥粉ノ使用ニ付又同シ

(g) 麵麩屋ハ軍隊所管或ハ海軍所管ニ供給スヘキ義務ノ履行ニ必要ナル穀粉ヲ千九百十五年二月中燒クコトヲ得

第五條 差押効力ハ徵發ニヨリ或ハ第四條ヲ以テ許可セラレシ讓渡又ハ使用ニヨリテ終了ス

第六條 第一條乃至第五條ノ適用ヨリ生スル訴訟ニ關シテハ上級行政官廳之レカ裁判ヲナス以テ終審トナス

第七條 妄リニ差押ヘラレシ貯藏ヲ消費シ損壞シ或ハ飼料ニ用井其外之レヲ賣買等ニ付シ

其貯藏ニ付讓渡又ハ取得ノ行爲ヲ約セルモノハ一年以下ノ禁錮又ハ一萬麻克以下ノ罰金ニ處ス義務ニ反シテ貯藏ノ保存ニ必要ナル行爲ヲ怠リ或ハ播種穀類トシテ得タル穀類ヲ他ノ目的ニ使用シ或ハ第四條第四節イ項ノ規定ニ反シ差押ヲ免セラレシ穀粉ヲ使用セル者モ亦同シ

第二 届出義務

第八條 千九百十五年二月一日以降第一條ニ記載セル種類ノ貯藏並ニ燕麥ヲ保管スルモノハ其貯藏及所有者ノ姓名ヲ貯藏ノ存在スル管轄官廳ニ届出ツル義務ヲ有ス當時運搬ノ途ニアル貯藏ノ届出ハ受取後荷受人ヨリ遲滞ナク之レヲナス可シニ「ツェントネル」ヨリ少ナキ貯藏ヲ有スル者ニアリテハ右届出ノ義務ナク其貯藏ノ多カラサルコトヲ誓言スルヲ以テ足ル

届出義務ハ戰時穀類有限責任會社或ハ中央買入有限責任會社ノ所有ニ屬スル貯藏ニ適用シ種子貯藏トシテ(第四條第四項a)必要ナル貯藏ニ付テハ特ニ之レヲ明記ス可シ

第九條 届出ハ千九百十五年二月五日マテニ管轄官廳ニ差出ササル可カラス地方中央官廳ハ千九百十五年二月二十日迄ニ帝國分配事務局ニ現在貯藏表及第四條第四項aニ該當スル者ノ員數表ヲ町村組合別トナシテ差出スコトヲ要ス該表中ニハ帝國聯邦又ハエルザスロートリンゲン州ノ所有特ニ軍隊所管海軍所管或ハ軍用糧食供給中央局ノ所有ニ係ル貯藏ヲ明記セサル可カラス届出ニ關シテハ聯邦議會ニヨリテ定メラレタル書式ヲ用キルコトヲ要ス

第十條 第四條第四項ノ權利ヲ行使セント欲スル麵麩屋、菓子屋、商人及商業製粉所ハ第八條ニヨル届出ヲナスト同時ニ千九百十五年一月一日ヨリ同十五日ニ至ル十五日間ニ幾何ノ粉ヲ麵麩屋或ハ菓子屋カ用キシカ或ハ商人或ハ商業製粉所カ販賣セルカ届出ツルコトヲ要ス

第十一條 第四條第四項ノ權利ヲ行使セントスル製粉所、麵麩屋、菓子屋及商人ハ貯藏高ニ變化ヲ生セル場合ニハ詳細規定ニ從ヒ管轄官廳ニ對シ届出ヲナスコトヲ要ス

第十二條 管轄官廳ハ届出記載ノ正否ヲ檢スル爲メ届出義務者ノ貯藏及營業部ヲ檢査シ其帳簿ヲ調査セシムルノ權利ヲ有ス

第十三條 届出ヲ規定ノ時期ニ差出ササルモノ又ハ故意ニ不正若クハ不完全ナル記載ヲナセルモノハ六月以下ノ禁錮又ハ千五百麻克以下ノ罰金ニ處ス届出義務者カ千九百十四年十二月一日ニ於ケル貯藏ノ徵發ニ際シ默秘セル貯藏ヲ此度届出ノ際記載スルトキハ右默秘ノ罪ハ之レヲ罰セス

第三 徵發

第十四條 差押ヘラレシ貯藏ノ所有權ハ管轄官廳ノ命令ニヨリ差押カ其爲ニ爲サレタル人々ニ移ル其權利者ニシテ之レヲ他ノモノニ讓渡スル時ハ所有權ハ其他ノ者ニ讓渡サルヘキモノトス而シテ右讓渡ハ命令中ニ指示スルコトヲ要ス

農業經營ノ企業家ハ第四條第四項aノ規定ニヨリ千九百十五年八月一日迄ノ間糧食及春季耕作トシテ必要ナル貯藏ヲ徵發前確定スルコトヲ要ス此種ノ貯藏ハ之レヲ選別シテ徵

發ヨリ除去シ置クモノトス此種ノ貯藏ハ選別ト同時ニ差押ヲ免カル明ニ最近二年間種子穀類ノ賣却ニ從事シ來レル農業經營者ニ由來セル種子穀類ハ同様之レヲ選別シテ徵發ヨリ除去スルモノトシ選別ト同時ニ差押ヲ免カル

第十五條 徵發命令ハ區域内又ハ其一部内ニ於ケル個々ノ占有者又ハ全部ノ占有者ニ對シテ發セラル、モノナリ第一ノ場合ニ於テハ命令カ持主ニ到達スルヤ否ヤ終リノ場合ニハ命令ヲ公表セル官報發行ノ翌日ヲ以テ所有權移轉ス

第十六條 取得者ハ讓渡セラレシ貯藏ニ對シテ相當ノ價額ヲ仕拂フコトヲ要ス届出ツヘキ貯藏ヲ届出テサル時ハ其貯藏ニ對シテハ價額ノ仕拂ヲナサス特別ノ場合ニ於テハ上級行政官廳ハ特別取扱ヲ許可スルコトアリ

最高價格ノ定メアル物品ニ關シテハ讓受價格ハ徵發時ノ最高價格並ニ貯藏ノ善惡賣價ヲ斟酌シ鑑定人ノ意見ヲ徵シテ上級行政官廳之レカ決定ヲナス右決定ハ變更スルコトヲ得ス

最高價格ノ定メナキ物品ニアリテハ千九百十五年一月一日ヨリ同十五日ニ至ル十五日間ニ標準トナルヘキ市場ニ於テ仕拂ハレシ平均價格ヲ以テ最高價格ニ代フ平均價格ヲ定メ得サル場合ニハ實際費消セラレシ費用ヲ斟酌スルコトヲ要ス

第十七條 徵發セラレシ貯藏ノ占有者ハ取得者カ該貯藏ノ保管ヲ引受クルマテ該貯藏ヲ保管シ之レヲ安全ニ取扱フ可キ義務ヲ有ス持主ニハ之レニ對シテ相當ノ手當ヲ支給スヘキモノトス其手當ハ上級行政官廳之レヲ終審的ニ決定ス

第十八條 徵發命令カ土地ノ生産物ニ關スル時ハ千九百十五年二月一日以前債權者ノ爲ニ差押ヘラレサリシトキニ限り不動産抵當及定期金債務ニ關スル責任ハ之レヲ免ス

第十九條 徵發手續ヨリ生スル爭訟ハ上級行政官廳之レカ終審的裁判ヲ爲ス

第二十條 徵發セラレシ貯藏ヲ保管シ丁寧ニ之レヲ取扱フヘキ第十七條ノ義務ニ違背セル者ハ一箇年以下ノ禁錮又ハ一萬麻克以下ノ罰金ニ處ス

第四 打禾セラレサル穀類ニ關スル特別規定

第二十一條 打禾セラレサル穀類ニアリテハ其差押及徵發ハ莖ニ及フ打禾ノ際藁ハ差押ヲ免カル差押ヘラレシ後始メテ打禾セラルル場合ニ於テハ穀類カ打禾セラルルヤ否ヤ藁ノ所有權ハ從來ノ所有者ニ復歸ス

第二十二條 占有者ハ差押又ハ徵發セラレルモ之レニヨリテ穀類ノ打禾ヲ妨ケラルルコトナシ

第二十三條 管轄官廳ハ其者ノ爲ニ差押又ハ徵發カ爲サレシ者ノ申出ニヨリ占有者カ農業ノ手段ニヨリ穀類ヲ一定ノ時期内ニ打禾スヘキヲ定ムルコトヲ得義務者ニシテ右申出ニ應セサルトキハ管轄官廳ハ義務者ノ費用ヲ以テ第三者ヲシテ打禾セシムルコトヲ得義務者ハ右代執行カ其農事場ニ於テ其農具ニヨリテ爲サルルコトヲ承認セサル可カラス

第二十四條 讓受價格ハ穀類ヲ打禾セル後第十六條ニヨリテ之レヲ定ム

第二十五條 第二十一條乃至第二十四條ノ適用ヨリ生スル爭訟ハ上級行政官廳終審的ニ之レカ裁判ヲ爲ス

第五 町村組合ト戰時穀類有限責任會社ノ關係

第二十六條 戰時穀類有限責任會社ハ左ノ義務ヲ有ス

(a) 同會社ノ所有ニ屬シ又ハ同會社ノ爲ニ差押ヘラレシ穀類ハ其穀類ノ存在スル町村組合ノ請求ニ應シテ該組合ノ需要分配高(第三十二條)ニ至ル迄之レヲ讓渡又ハ町村組合ノ爲ニ徵發セラレシムルコトヲ要ス

(b) 町村組合ノ申出ニヨリ該組合ノ爲メ徵發セラレシ穀粉ハ其善惡分量及倉敷料ニ從ヒ伯林金融會社ノ擔保附貸付條件ニ十分ナル限り讓受ケヲ爲シ竝ニ差押ヘラレシ穀粉ノ賣却ヲ助ケルコト

(c) 町村組合ノ希望アルトキハ千九百十五年二月一日以降其管内ニ在ル穀類ハ出來得可クンハ其需要分配高(第三十二條)ヲ其儘ニ置キ而シテ其ノ管内ニ在ル製粉所ヲシテ製粉ニ就カシムルコト

第六 製粉ノ義務及穀粉取引ニ關スル規定

第二十七條 製粉所ハ中央買入有限責任會社戰時穀類有限責任會社或ハ製粉所ノ存在スル町村組合ニ分配セラレシ穀類ヲ挽粉セサル可カラス上級行政官廳ハ必要ナル場合ニハ適宜ナル製粉料ヲ定ム此確定ハ變更スルコトヲ得ス

第二十八條 製粉所ハ自己ノ所有ニ屬スル穀粉ヲ戰時穀類有限責任會社或ハ町村組合ニ限リ交付スルコトヲ得右ハ第四條第四項d及eニヨリテ許可セラレシ供給ニ適用セス戰時穀類有限責任會社ハ穀粉ヲ町村組合竝ニ陸軍及海軍所管ニ交付ス讓受價格ハ必要アルト

キハ町村組合並ニ陸軍及海軍所管ニ交付スル際保證金額及製粉料(第二十七條)ヲ斟酌シテ第一項ノ場合ニハ製粉所ノ存在スル上級行政官廳第二項ノ場合ニハ宰相之レヲ定ム

第二十九條 差押ヘラレシ穀類及製粉所カ戰時穀類有限責任會社又ハ町村組合ヨリ受取りシ穀類ノ挽粉ニ際シ製粉所ハ之レニヨリテ生セル様ヲ製粉所ノ所有ニ屬スル限リ宰相ニヨリテ定メラルヘキ場所ニ交付スル義務ヲ有ス

製粉所カ町村組合ヨリ穀類ヲ受取りシ時ハ製粉所ハ町村組合ノ請求ニヨリ糠ヲ交付スルコトヲ要ス

價格ハ最高價格並ニ糠ノ善惡ヲ斟酌シ鑑定人ノ意見ヲ徵シテ製粉所ノ存在スル上級行政官廳之レヲ定ム

第三十條 第二十七條第一項ノ規定ニ違反セルモノ又ハ製粉所ニ關スル第二十八條及第二十九條ノ規定ニ違反シテ粉及糠ヲ交付スルモノハ六箇月以下ノ禁錮又ハ千五百麻克以下ノ罰金ニ處ス

第七 消費規定

第三十一條 帝國分配事務局ノ名稱ノ下ニ一個ノ官廳ヲ設立スルコトヲ得該官廳ハ聯邦議會議員十六名即チ議長ノ外普王國四名、バイエルン王國二名、ザクセン王國一名、井ユルテンベルク王國一名、バーデン大公國一名、ヘッセン大公國一名、メックレンブルク、シユエルク大公國一名、ザクセン大公國一名、アンハルト公國一名、ハンザ市一名及エルザス、ロートリンゲン州一名ノ議員ヨリ成立シ其他獨逸農業參事院、獨逸商業協

議會及獨國市會ノ代表者各一名之レニ屬ス

第三十二條 帝國分配事務局ハ戰時穀類有限責任會社ノ助力ヲ受ケ現存セル貯藏チ帝國内ニ分配スルコトニ關シ次期ノ收穫マテ聯邦議會ノ定ムヘキ原則ニヨリテ處理ス可キ責務ヲ有ス

第三十三條 町村組合ハ帝國分配事務局ノ請求アルトキハ通報ヲナシ又過剩ナル穀粉ノ貯藏ヲ其指定セル個所ニ交付セサル可カラス

第三十四條 町村組合ハ管内ニ於ケル貯蓄ノ消費ヲ整理シ殊ニ麵麩屋菓子屋及小商人ニ對シテ穀粉ノ分配ヲ爲スコトヲ要ス其際帝國分配事務局カ一定期間内ニ確定セル分量ヨリ多ク交付スルコトヲ得ス

第三十五條 町村組合ハ町村區域内消費規定(第三十四條)ヲ町村ニ委任スルコトヲ得最近ノ調ニテ一萬人以上ノ住民ヲ有スル町村ハ右委任ノ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 町村組合又ハ消費規定ヲ委任セラレシ町村ハ其目的ノ爲メ特ニ

- (a) 單一麵麩ニ限り製造スルコトヲ得ルコトヲ規定シ
- (b) 菓子ノ製造ハ之レヲ禁止シ又ハ制限シ
- (c) 穀類ノ挽粉ハ法定ノ製粉歩合ニ達セサルモ少ナクトモ七十五パーセントレマテ挽粉スル製粉所ニ之レヲ許可スルコトヲ得此場合ニ於テハ製粉所ノ製粉歩合ヲ適當ニ確定スルノ權利ヲ有ス
- (d) 麵麩及穀粉ノ販賣及購買ヲ其定量、交付所及時期並ニ其他ノ方法ニ於テ制限シ

(e) 商人麵麩屋及菓子屋ニ對シ其營業所ノ存在スル區域以外ニ於テ麵麩及穀粉ヲ交付スルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第三十七條 地方中央官廳又ハ其指定セル上級行政官廳ハ命令ノ種類(第三十四條乃至第三十六條及第四十條參照)ヲ規定スルコトヲ得

第三十八條 此方法實施ノ爲メ消費規定ノ委任ヲ受ケシ町村組合及町村ハ特別委員會ヲ構成スヘシ

第三十九條 町村組合カ一箇月以内ニ同期間分トシテ分配セラレシ穀類及穀粉分量ヨリ少ナク消費セル時ハ戰時穀類有限責任會社ハ町村組合ニ其節約セル分量ノ價額十分一ヲ償還ス町村組合ハ節約セル分量ヲ戰時穀類有限責任會社ノ處分ニ委スルコトヲ要ス償還全額ハ之レヲ國民ノ營養費ニ充ツルコトヲ要ス

第四十條 町村組合又ハ消費規定ノ委任ヲ受ケシ町村ハ其交付セル穀粉ニ對スル價格ヲ確定セサル可カラス過剩額アルトキハ國民ノ營養費ニ充ツルコトヲ要ス

第四十一條 町村組合又ハ消費規定ノ委任ヲ受ケシ町村ハ其區域ニ於ケル倉庫ヲ貯蓄ノ貯藏ノ爲メ管内ニ貯藏所ヲ請求スルコトヲ得償還額ハ上級行政官廳之レヲ定メ其變更ヲ許サス

第四十二條 地方中央官廳ハ手續ニ關シテ規定ヲ定メ命令ヲ發スルコトヲ得此規定ハ州法ニ反スルコトヲ得

第四十三條 消費命令(第三十四條乃至第四十一條)ニ基ク爭訟ハ上級行政官廳之レカ裁判

ヲ爲シ之レヲ以テ終審トナス

第四十四條 町村組合又ハ消費規定ノ委任ヲ受ケシ町村カ其方法ノ實施ノ爲メ發セル命令ニ違反セルモノハ六箇月以下ノ禁錮又ハ千五百麻克以下ノ罰金ニ處ス

第八 外國產穀類及穀粉

第四十五條 本令ノ規定ハ一月三十一日以後外國ヨリ輸入セラレシ穀類及穀粉ニ適用セス外國ヨリ輸入セラレシ穀類及穀粉ハ輸入者ヨリ之レヲ戰時穀類有限責任會社及中央買入有限責任會社又ハ町村組合ニ限り供給スルコトヲ得

第九 施行規則

第四十六條 地方中央官廳ハ必要ナル施行規則ヲ定ム同廳ハ仲介所ヲ設立シテ管内ニ於ケル需要ノ分配ヲサシムルコトヲ得

第四十七條 中央官廳ノ定メシ施行規則ニ違反セルモノハ六箇月以下ノ禁錮又ハ千五百麻克以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 地方中央官廳ハ本令ニ所謂町村組合、町村管轄廳及行政官廳ニ當ルヘキ者ヲ定ム

第十 經過規定

第四十九條 取引ニ係ル小麥、黑麥、燕麥、大麥ノ粉ノ交付ハ千九百十五年一月二十六日乃至同月三十一日間ノ經過期間之レヲ禁止ス禁止セラレサルモノハ官廳、公共的施設、商人、麵麩屋及菓子屋ヘノ供給ノミナリ

第五十條 第四十九條ノ規定ニ違反シテ穀粉ヲ交付シ又ハ收受セルモノハ六箇月以下ノ禁錮又ハ千五百麻克以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 消費命令ノ公布ニ至ルマテ古キ分配事務局及特別必要ノ場合ニ於ケル地方中央官廳或ハ地方中央官廳ノ名義ヲ有スル官廳ハ穀粉ヲ或町村組合ノ區域ヨリ他ノ町村組合ニ讓與スヘキコトヲ命スルコトヲ得町村組合カ種々ナル聯邦ニ屬スル時ハ豫メ關係ノ地方中央官廳ト動作スヘキ宰相ハ之レト同一ノ權限ヲ有ス讓與セラレシ額ハ帝國分配事務局ニ記入スルコトヲ要ス

第十一 強制權能

第五十二條 管轄官廳ハ本令又ハ其施行規則ニヨリテ負ハサレタル義務ノ履行ニ付不確實ナリト認ムヘキ持主又ハ支配人ニ對シテ其商業ヲ禁止スルコトヲ得此處分ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ニハ處分ヲ中止セシムルノ効力ナシ抗告ニ付テハ行政官廳之レカ裁判ヲ爲ス

第十二 結末規定

第五十三條 本令ハ布告ノ日ヨリ之レヲ施行ス宰相ハ第二十九條第一項ノ規定ノ施行期日ヲ定ム

宰相ハ本令ノ廢止期日ヲ定ム

伯林千九百十五年一月二十五日

宰相代理 テールブリュック

(ハ) 麵麩令施行規則

(千九百十五年一月二十七日) フランクフルテル紙所載

普魯西主務大臣ハ麵麩用穀類及穀粉ノ取引整理ニ關スル聯邦議會布告ニ附加シテ尙左ノ施行命令ヲ發セリ

第一 差押

第一條附加 聯邦議會令ニ所謂町村組合トハ都市及地方ヲ謂フ上級行政官廳トハ地方長官、伯林ニアリテハ府知事ヲ謂フ

第二條附加 本規定ハ自家用又ハ營業用トシテ存在スル貯藏ニ關ス

第四條附加 第一條ニ記載セル穀類貯藏ハ戰時穀類會社ノ爲ニ差押ヲ爲ス故ニ占有者ハ戰時穀類會社ニ對シテ直ニ賣却スルコトヲ要ス

(a) 附加 現物權者、終身土地扶養權者、現物給料權者等ハ麵麩用穀類及製粉ヲ契約上請求シ得ヘキ分量ヲ現物ニテ請求スルコトヲ得極量一人前毎月麵麩用穀類九「キログラム」又ハ麵麩類一「キログラム」ノ代リニ穀粉八百瓦ヲ請求スルコトヲ得千九百十五年四月一日マテニ期限到來スル糧食引渡カ既ニ交付ヲ終リタルトキニ限り農事企業者ハ四月一日後期限到來スル穀類及穀粉ノ分量ノミヲ取出シ徵發ノ際(第十四條第三項)之レヲ除外スルコトヲ得

(b) 附加 種子穀類カ最近二年間種子穀類ノ營業ニ從事セル農業經營ニ由來ストノ證明

ハ必要ナル場合ニハ運送狀金錢請求書農業會議所ノ證明又ハ同様ナル證據方法ヲ提供シテ之レヲ爲スコトヲ要ス

第六條附加 第一條乃至第五條ノ適用ヨリ生スル爭訟ハ郡長(都邑ニアリテハ町村長)、抗告アルトキハ地方長官伯林ニ於テハ府知事之レヲ裁判ス

第七條附加 第一條記載ノ貯藏ヲ飼料ニ使用スルコトモ亦第七條ニ於テ禁止セル行爲ニ屬ス

地方官廳ハ之レヲ公告セサル可カラス地方警察署ハ禁止ヲ嚴重ニ監視シ裁判所ハ處刑裁判力速ニ執行セラルルヤウ注意スルコトヲ要ス

第二 届出義務ノ實施

第八條附加 届出ニ關スル新刷ハ地方官廳宛ニテ迅速ナル分配ヲ爲スタメ都邑ノ町村長及郡長ニ配付ス其新刷ハ説明ヲ要セス地方官廳ハ新刷ニ於ケル各記入ハ「ツェントネル」ノミニテ表示シ得可キ事ヲ公示スル事ヲ要ス既ニ千九百十五年二月一日前戰時穀類會社ノ代理人カ回收セル貯藏ハ全然戰時穀類會社ノ所有ニ屬ス未タ回收セラレサル貯藏ハ占有者之レヲ届出テサル可カラス

第九條 届出ハ千九百十五年二月五日マテニ町村(土地係)長ニ對シテ之レヲ爲ササル可カラス人口又ハ地方ノ散在狀態上必要ナルトキハ町村長ハ届出區域及其區域ノタメ特別ナル届出場所ヲ設置スルコトヲ得町村長ハ又民勢調査ニ於ケルカ如ク届出書式ヲ配付蒐集セシメ届出義務者ノ助力ヲ俟チテ新刷ノ記入ヲ調査官ニ委任スルコトヲ得新刷ヲ受取ラ

サルモノハ其旨町村長又ハ届出場所ニ届出ツルコトヲ要ス教員及各官吏ニシテ届出受理ノ當日自己ノ職務ヲ離レ得ルモノハ此國家的問題ノ實行ニ關シ町村長指揮ノ下ニ助力セシムコトヲ期待ス

届出ノ分類及清算ニ關スル書式ハ都邑ノ町村長及郡長ニ分配セララル

區域地方及郡ノ表トシテ此書式ノミヲ使用スルコトヲ要ス

届出區域設置セラレ而シテ届出ノ蒐集カ調査官ニヨリテ爲サレシ時ハ調査官ハ各民勢調査區域ニ關スル特別表中ニ「ツェントネル」以上ノ貯藏ニ當ル届出ノ總計ヲ記入スルコトヲ要ス而シテ届出ハ逐次此表中ニ整理清算セル區域表ト共ニ二月六日町村長又ハ届出場所ニ引渡スヲ要ス「ツェントネル」以下ノ貯藏ニ關スル届出ハ同様ニ町村長或ハ町村長ノ規定ニ從ヒ届出場所ニ引渡スヲ要ス而シテ町村長ハ貯藏ヲ大切ニ保存ス可シ町村長ハ届出義務者ノ報告カ完全ニシテ正確ナルカヲ検査セサル可カラス町村長ハ民勢調査區域ヲ設置セサル場合ニハ「ツェントネル」以上ノ貯藏ニ當ル届出ヲ地方表ニ記載シ之ヲ計算シ而シテ遅クモ二月十日迄ニ郡長ニ引渡スコトヲ要ス民勢調査區域ヲ設置セル場合ニハ町村長ハ區域表ノ最後合計ヲ地方表ニ記入シ之レヲ清算シテ郡長ニ引渡スコトヲ要ス地方表ノ謄本及全届出書式ハ町村長之レヲ所管ス區域表及地方表中ニハ只或ル特ニ之カ爲メ欄ヲ設ケラレシ報告ノミヲ錄取スルコトヲ要ス届出新刷第二頁ノ種子貯藏ニ關スル報告ノ製作ニ關シテハ別ニ之レヲ定ム町村長ハ地方表ノ確定ニ直接關係アル此報告ノ計算ヲ爲ス可トス郡長ハ地方表ノ報告ヲ郡表ニ轉寫シ而シテ其報告ヲ最後ノ總額ニ清算

シ其結果ヲ計算上確實ニシ其表カ郡ノ全町村ヲ包括スルコトヲ證明シ該表ヲ二月十五日
マテニ普王國統計地方局(伯林西南區六十八リントン町二十八番)ニ送付セサル可カラ
ス都邑ハ其區域表ヲ同様ニ計算シ而シテ同様ニ遅クモ二月十五日マテニ統計地方局ニ送
付スルヲ要ス統計地方局ハ區域ノ計算ヲ以テ委任セラレ而シテ麵麩令第九條ニ於テ要求
セル明細書ヲ二月二十日マテニ中央分配事務局ニ送達スルコトヲ要ス

第十條附加 「ホテル」、宿屋、居酒屋其他ノ營業ト關係ヲ有スル麵麩屋モ亦燒高貯藏ノ届
出義務ヲ有ス

第十一條附加 届出ハ毎月一日、十日及二十日トシ初回ハ二月十日ニ町村長又ハ其定メタ
ル届出場所ニ差出スコトヲ要ス町村長ハ届出ノ書式ヲ定ムルコトヲ得

第十二條附加 検査ノ爲メ町村長ハ鑑定人ヲ召集スルコトヲ要ス組合ノ意見ニヨリテ名譽
職ノ召集ヲ爲スヲ可トス

第十三條附加 本令ノ嚴重ナル監督ハ地方警察署ノ特別義務トナス此目的ノ爲メ町村長ハ
警察署ニ届出ヲ公開セサル可カラス第七條ノ註解ニ之レヲ指示ス刑罰ト關係ナク第十六
條ニヨリ届出ニ記入セサリシ貯藏ハ町村組合ノ爲メ從來ノ所有者ニ對スル辨償ナク之レ
ヲ沒收ス

町村長ハ特ニ本則ヲ公告シ千九百十四年十二月一日ニ貯藏ヲ默秘セル届出義務者ハ今其
届出ヲ正當ニ提出スル時ハ罪ヲ免スヘキ旨指示スルコトヲ要ス

第三 徵發

第十四條附加 所有權ノ移轉ヲ來ス可キ命令ハ郡長而シテ都邑ニ於テハ町村長之レヲ命ス
但シ此命令ハ穀物ニ關スル限り戰時穀類會社ノ動議ニ基キテ之レヲ發ス糧食及春期耕作
ノ爲メ農事企業者ニ必要ナル貯藏分置ノ爲メ第四條aノ施行規定ノ定メアリ種子貯藏ノ
分置ニ關シテハ甜菜耕作ノ制限ニヨリ將來開墾地ノ増加スルコトアルヘキコトヲ個々ノ
場合ニ斟酌スルコト肝要ナリ

第十五條附加 戰時穀類會社ハ郡長ニ個々ノ所有者及全區域ノ貯藏ノ徵發ノ爲メ新刷ヲ發
送セサル可カラス

第十六條附加 讓受價格ニ關シテハ千九百十四年十二月二十三日ノ實施規定ノ第十二條乃
至第十四條ニ指定セラル第十六條末項ニ所謂市場トハ其價格ノ確定力從來價格成立ノ基
礎タリシ場所ヲ云フ

第十七條附加 又所有權ノ移轉ニ關スル規定ニ據レハ(第十四條參照)占有者ハ貯藏管理ノ
義務ヲ負ヒ而シテ之レガ責ニ任ス(第四條第一項及第十九條a參照)

第四 打禾セサル穀類ニ關スル特別規定

第二十三條附加 第二十三條ニ所謂管轄官廳トハ郡長都邑ニ於テハ町村長ヲ謂フ千九百十
四年十二月二十三日ノ施行規定第九條ニ指示セラル

第五 戰時穀類有限責任會社ト町村組合トノ關係

第二十六條a附加 管内町村ニ對スル麵麩用穀類ノ給養ヲ自己ノ管理權内ニ移サント欲ス
ル都邑及地方ハ自己ニ歸屬スヘキ穀類貯藏ノ仕拂又ハ貸付ノ爲メ戰時穀類會社ト關係ヲ

結ハサル可カラス此規定ニヨリ地方ハ全然自己ノ穀類貯藏ノ存留スルコトナキ人民ノ麵
麩用穀類ノ需要額ヲ其内部ニテ挽粉セシメ而シテ之レニヨリテ得タル糠ヲ其内部ニ於テ
賣却スルコトニ付規定ヲ設クルコトヲ得

(b) 附加 町村組合ノ爲ニ差押チナシタル穀粉ノ貯藏力其ノ需要高チ超過スル時ハ第四
條第三項ニヨリ占有者ヨリ或ハ他ノ町村組合ニ讓渡スヤウ取計フチ可トス戰時穀類會社
ハ斯カル讓渡ニ付仲介ノ勞ヲ執ルヘシ戰時穀類會社ニヨル讓受ハ抵當的ニ貯藏シアル穀
粉ノ場合ニ限ル

第六 製粉義務及穀粉取引規定

第二十七條附加 製粉料ニ付約定アルトキハ官廳制定ノ料金ハ之レヲ適用セス

第二十八條附加 第二十八條ノ規定ハ第四條及第十四條ニヨリ農家ニ殘留セシメラレシ貯
藏ノ麵麩令ニヨリテ許サレシ製粉ニ關係ナシ

第二十九條附加 糠ノ畜類飼育ノ需要ニ相應スル分配ニ關スル注意ハ貯藏ノ確定後發セラ
ル可キ特別令ニヨル

第七 消費規定

第三十一條附加 帝國分配事務局ハ其住所ヲ柏林西區十リユツウーフエル八番ニ定メ帝國
統計局長デールブリユツク氏ヲ以テ之レカ長官トナス

第三十六條 a 附加 黑麥麵麩并ニ小麥麵麩ニ對シ或一定ノ形及一定ノ重量(統一パン)ヲ規
定スルコトヲ得

(b) 附加 菓子ノ製造ハ一定ノ分量及種類並ニ一定ノ日數ニ制限スルコトヲ得

(c) 附加 本則ハ小ナル製粉所ニ對シテ詳細ナル注意ヲナシ及更ニ大ナル糠ノ生産ヲナ
スコトヲ得セシム然レドモ麵麩用穀類貯藏ノ相當ナル減少ヲ生セシム

(d) 附加 町村組合及町村組合ヨリ穀粉貯藏ノ再分配ノ委任ヲ受ケシ町村ハ麵麩ノ需要
カ全階級ニ互リ平均シテ満足セララルコトヲ確實ニスルノ責任ヲ有ス之レカ形式ニ就キ
テハ右町村組合又ハ町村ニ一任ス一般ニ此目的カ取引上是以上ノ制限ナクシテ達セラ
ルコトヲ期待スルコトヲ得ヘシ然レトモ個々ノ地方ニ於テ之レヲ期待シ能ハサルトキハ
第三十六條 d ニ記載セル權能ヲ行使セサル可カラス例ヘハ唯麵麩ヲ警察署ヨリ交付シタ
ル證明(麵麩切符)ノ提示ニ對シ此切符上ニ許可セル分量ヲ一定ノ期限間ニ於テ交付スル
コトヲ規定スルコトヲ得

第三十七條附加 町村組合又ハ町村ノ命令カ第三十六條ニ照シ不十分ト認メララルトキハ
縣知事伯林ニ於テハ府知事他ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十八條附加 委員ハ郡會委員ヨリ都邑ニ於テハ町村長ヨリ之レヲ選フ委員會ノ裁決殊
ニ獨立命令ノ權能ヲ委任セラルヘキトキハ郡會委員又ハ町村長ノ關係決議ハ地方監督官
廳ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス大ナル町村ニ於テハ下級委員會ヲ組織スルコトヲ得

第四十二條附加 第三十四條乃至第三十六條ニ所謂命令ハ地方ニ於テハ郡會委員、町村ニ
於テハ町村長之レヲ發ス命令ハ地方監督官廳ノ許可ヲ要ス

第八 外國產穀類及穀粉

第九 施行規則

第四十六條附加 本施行規則ハ公布ノ日ヲ以テ施行ス

第十 經過規定

第四十九條附加 千九百十五年一月二十六日ヨリ同月三十一日ニ至ル期間ニ於ケル穀粉ノ販賣禁止ハ家政ニ於ケル穀粉貯藏ノ不經濟ニシテ不條理ナル蓄積ヲ豫防スルコトヲ得ヘシ警察署ハ既ニ與ヘラレシ指圖ニ從ヒ禁止實行ヲ遂行ス可ク而シテ必要ナル場合ニハ麵麩令第四十七條ニ於テ賦與セラレシ權能ヲ行使セサル可カラス

第十一 強制權能

第五十二條附加 營業ノ閉鎖ハ地方警察署之レヲ命スルコトヲ得加之右權能ハ不信用ナル商業經營者ニ對シ麵麩令ノ全有効期限間存續ス
伯林千九百十五年一月二十五日附命令ハ商工務大臣ジドウ、農林務大臣男爵フオン、シユルレーメル、大藏大臣レンツエ及内務大臣フオン、レエーベル之レニ署名ス

(二) 肉類貯藏ノ保護ニ關スル布告

聯邦議會ハ經濟ノ手段其他ニ關スル權能ヲ聯邦議會ニ賦與セル千九百十四年八月四日ノ法律第三條(帝國法令集第三二七頁)ニ據リ左ノ命令ヲ發布セリ

第一條 五千以上ノ人口ヲ有スル市町村ニ於テハ國民ニ供給スルノ目的ヲ以テ耐久的肉類

ノ貯藏ヲ調達シ及其管理ヲ確實ニスルノ義務ヲ有ス管轄官廳ハ調達ス可キ需要ノ範圍及種類ヲ定ム

第二條 此義務ヲ履行スル爲メ管轄官廳ハ其豚ノ所有權ヲ町村或ハ二者ニ讓渡スコトヲ得食用家畜條例ニ基キ官廳又ハ伯林中央買入有限責任會社ニ供給スヘキ豚ハ徵發ヲ免ス

千九百十四年十二月十七日附宰相ノ布告ノ提案ニ於ケル(帝國法令集第五一六頁)最高價格ニ關スル法律第二條ノ規定ハ讓受價格カ市價ヲ斟酌シテ確定スヘキコトトシテ前項手續ニ之レヲ準用ス

確定ハ委員三名ノ仲裁裁判ニヨリ終審的ニ決定セララル上級行政官廳ハ裁判長一名並ニ商業及農業ノ官邊代表者ノ申出ニヨリ陪席者各一名ヲ任命ス

第三條 屠牛市場ノ公定價格ヲ以テ市價トナス市價ハ地方中央官廳ヨリ所有權讓渡前最近二回ノ大開市日ノ平均價格ニヨリ販賣場所ノ爲メ標準トシテ定メララル
本令ノ所謂販賣場所トハ販賣者カ運搬費ヲ負擔スル最終ノ場所ヲ謂フ

第四條 地方中央官廳ハ施行規則ヲ發布ス

第五條 本令ハ布告ノ日ヨリ之レヲ施行ス宰相ハ廢止ノ期日ヲ定ム
伯林千九百十五年一月二十五日 宰相代理 テールブリユック

(三) 獨逸穀類及砂糖ノ先賣禁止

(大正四年六月二十五日附在瑞典帝國特命全權公使內田定槌報告)

千九百十五年度穀類ノ先賣並ニ砂糖先賣禁止ニ關スル公告

聯邦會議ハ經濟的手段等ニ關シ聯邦會議ニ權能ヲ賦與スル千九百十四年八月四日ノ法律第三條(帝國法令集第三二七頁)ニ依リ左ノ命令ヲ發ス

第一條 (a)千九百十五年度內國收穫中他ノ穀類ト混スルト否トヲ問ハス黑麥、小麥、獨逸

小麥(ヂンケル、フエゼン)「エメル」、一粒小麥、燕麥、大麥及燕麥ヲ含メル雜穀 (b)千九

百十五年度內國飼料ニシテ千九百十五年三月三十一日ノ飼料取引ニ關スル公告(帝國法令集第一九五頁)ノ適用ヲ受クルモノ (c)粗糖(但シ千九百十五年八月三十一日以後其

契約ノ履行セラルル場合ニ限ル)

右ニ關スル購買契約ハ無効トナス

右ハ本令施行前結了シタル契約ニ付テモ亦同シ

第二條 帝國宰相ハ本令ノ規定ヲ千九百十五年度內國收穫ノ他ノ生産物並ニ消費砂糖ノ購

買契約ニ及ホス權能ヲ有ス

第三條 帝國宰相ハ本令規定ノ例外ヲ認許スルコトヲ得

第四條 本令ハ告示ノ日ヨリ效力ヲ生ス

帝國宰相ハ本令廢止ノ期日ヲ定ムル外個々生産物ニ關シ本令ヲ廢止スルコトヲ得

伯林千九百十五年六月十七日

帝國宰相代理 テルブリユツク

(四) 穀物賣價制限

○獨逸穀物賣價制限等(八月六日官報) 本件ニ關シ瑞典國駐劄內田特命全權公使ヨリ去月二十九日發テテ左ノ如ク電報アリ(外務省)

獨逸聯邦參議院ハ本年收穫穀物ニ對シ生産者ノ賣値段ヲ制限シ其最高價額ハ全國ヲ通シ

大體昨年ノ分ト同様ナリ又一切ノ食料飼料燃料點燈料ノ市價騰貴ヲ整理スル規則ヲ制定

シ尙ホ飼料ノ供給及分配ヲ調節スルタメ中央事務局ヲ設定セリ

(五) 物價騰貴抑制ニ關スル諭告

(大正四年八月十一日附在瑞典帝國特命全權公使內田定槌報告)

昨年歐洲戰亂勃發以來獨逸ハ内地ニ於ケル穀物及其他諸物品ノ市價騰貴ヲ抑制スル手段ヲ採リシカ今回國聯邦參議院ハ本年内地收穫ノ穀物ニ對シ生産者ノ賣値段ヲ制限シ尙一切ノ食料品、飼料、燃料及燈料等必需品ニ對スル投機賣買ヲ禁止シ其市價ノ不當ナル騰貴ヲ抑制スル規則ヲ制定スルト同時ニ飼料ノ給配ヲ調節スル爲メ中央事務局ヲ設置スル規則ヲ制

定シ何レモ同月二十三日附院令ヲ以テ之レヲ發布シタリシカ普魯西商工大臣ハ本件ニ關シ同國商工業者ニ對シ左記諭告ヲ發シタル趣ナリ

普魯西商工大臣諭告

日用必需品ノ市價カ絶ヘス騰貴スルハ國民大多數ノ給養ヲ危フシ其不滿ヲ來スニ至ルヘキ虞アルカ故ニ之レヲ制止スル爲ニハ全力ヲ注カサルヘカラス是レ聯邦參議院カ本年七月二十三日ヲ以テ物價ノ不當ナル騰貴ヲ抑制スル規則ヲ發布セル所以ナリ同規則ニヨレハ販賣ニ供スヘキ日用必需品ヲ保有シ之ヲ賣控ユル者アル場合ニハ當該官憲ハ之レヲ持主ヨリ押收シ直ニ賣捌クヘキモノニシテ其賣捌代價ハ中央官憲カ特別認可ヲ與ヘサル限リハ買入代價ニ五分ヲ加ヘタルモノヨリ超過スヘカラス日用必需品及軍用必需品ヲ保有シ不當ノ利益ヲ貪ル目的ヲ以テ之レヲ賣控フル者ハ罰金及禁錮ニ處セラルヘキモノニシテ同罰則ハ市價ヲ騰貴セシムル一切ノ投機賣買ヲ行フ者ニモ亦之レヲ適用シ不當ノ代金ヲ拂ヒ又ハ約束スル者モ亦之レヲ要求スル者ト同一ニ處罰セラルヘシ

七月二十三日發布セラレタル參議院令中ニハ商品ノ生産及分配ニ關シテモ亦均シク規定アリ同院令ヲ商工業者ニ適用スルニ當リテハ本大臣ハ各商業會議所及各商業團體ニ對シ商工業者ノ法律上ノ代表者トシテ其目的ヲ達スル爲メ協力ヲ求ムルモノナリ我人民ハ今日ニ至ル迄喜ンテ戰爭ノ永續ニ伴フ一切ノ經濟的犧牲ヲ忍ビタルモ其犧牲ハ公共ノ利益ニ供スルモノニ限ルヘキモノナレハ不當ニシテ無用ナル收益ヲ抑制シ日用必需品ノ市價ヲ下流人民ノ耐ヘ得ヘキ程度ニ維持スル爲ニハ有ユル手段ヲ用ヒサルヘカラス商工業者ハ各自ノ私

益ヲ後ニシ社會ノ公益ヲ顧ミ其目的ヲ達スルコトニ協力アリタシ各自ニ私利ヲ計ルノ念ハ平時ニ於テハ商工業發展ノ動力ナリト雖モ戰時ニ在リテハ舉國一致協力ハ勝利ヲ制スル爲メ必要缺クヘカラサル條件ナレハ私利ヲ計ルノ念ハ之ヲ中止セサルヘカラス營業者ハ決シテ戰爭ヲ以テ巨利ヲ博スル好機會ナリト考フヘカラス戰時ニ當リ諸物貨特ニ日用必需品ノ賣買ニ從事スル各商人カ其收益ヲ自ラ制限シ唯其營業ヲ繼續シ家族ノ生計ヲ支ヘ得ル程度ニ止メ満足スルコトハ國家ニ對スル義務ナリトス其取扱商人ニ對スル獨逸國內ノ褒貶ト今後ニ於ケル其勢力ノ消長ハ全ク此ノ戰爭ニヨリ要求セラレタル義務ノ果シ方如何ニヨリ決定セラルヘシ商業家ノ代表者ハ各自ノ名聲ト國家ノ利益トニ鑑ミ其代表スル人々ニ對シテ出來得ル限リ其勢力ヲ利用シ七月二十三日ノ參議院令ニ規定スル罰則ヲ適用スルニ至ラシメサル様盡力セラルルコト本大臣ノ信シテ疑ハサル所ナリ

(六) 獨逸兩國ニ於ケル新收穫穀物ニ對スル措置

(大正四年七月五日及八日附在蘭帝) 國特命全權公使幣原喜重郎報告

獨逸に於ける本年度新收穫に關する規則(六月二十八日附聯邦議會命令)

麵麩ノ原料タル穀類ニ關スル施設

新規則ニ據レハ(イ)凡テ帝國內ニ植付ケ在ル麵麩ノ原料タル穀類ハ農家ノ自活用、種子用

獨逸國法令

及種子販賣用ヲ除クノ外刈取ト同時ニ右穀類植付地所在ノ公共團體ノ爲ニ差押ヘラルヘキ
 モノトシ(ロ)差押穀類ノ所持者ハ之レニ對シ任意ノ處分又ハ變更ヲ加フルコトヲ得ス尤モ
 脫穀(Ausdreschen)其ノ他保存ニ必要ナル行爲ヲナスノ義務アリ(ハ)右差押穀類ハ原則ト
 シテ當該公共團體ニ依リ又例外トシテ新設ノ帝國穀物廳ニ依リ相當ノ代償ヲ以テ購入又ハ
 徵收セラルヘキモノニシテ(ニ)先ツ帝國穀物廳ハ其購入又ハ徵收ニ係ル穀類ト公共團體中
 其區域内ニ所要以上ノ穀類ヲ有スルモノノ融通ニ係ル穀類トヲ集メ或ハ之ヲ製粉シタル上
 公共團體中其區域内ニ所要丈ノ穀類ヲ有セサルモノノ需要ニ充テ或ハ右製粉又ハ支麥ヲ陸
 海軍ノ需要ニ充ツヘキモノトス(ホ)次ニ公共團體ニシテ各邦中央官憲ニ依リ自給公共團體
 タルコトノ認可ヲ得タルモノニアリテハ其購入又ハ徵收ニ係ル穀類ヲ團體區域内ノ所要額
 ニ達スル迄製粉スルコトヲ得ヘク(ヘ)自給ノ途ナキ公共團體ニアリテハ其購入又ハ徵收シ
 タル穀類ヲ製粉スルコトヲ得ルト同時ニ帝國穀物廳ニ申告スルニ團體區域内ニ於ケル所要
 粉類ノ不足額ヲ以テシ同廳ヨリ時宜其補給ヲ受クヘキモノトス(ト)而シテ各公共團體ハ其
 區域内ニ於ケル麵麩燒業者、菓子製造業者及小賣商人ニ粉類ノ分配ヲ爲スノ任務ヲ有スル
 ノミナラス其區域内ノ粉類消費ニ對シ適當ノ措置ヲ採ルヘキ種々ノ機能ヲ有ス麵麩券發行
 ノ如キハ其一例ナリ

右新規則ト從來ノ此種施設トヲ比較スルニ共ニ麵麩用穀類ヲ差押ヘ以テ規則正シク之レカ
 分配ヲ期スル大體ノ方針ニ於テ敢テ異ル所ナキモ其實行方法ニ至リテハ兩者ノ間多少ノ相
 違ナシトセス即チ舊規則ニ據レハ麵麩用穀類ノ差押及徵收ハ共ニ戰時穀物會社ノ爲ニ之レ

ヲ爲スヘキモノトシ而シテ差押徵收セラレタル穀類ノ本年度新收穫ニ至ル迄ノ全國ニ亘ル
 分配ハ中央ニ在ル帝國配給廳ト戰時穀物會社ト協同シテ之レヲ行ヒ公共團體ノ任務トシテ
 ハ帝國配給廳ノ指圖ノ下ニ一定量粉類ノ專賣ニ從事スルニ過キサリシカ此ノ集配組織ニ關
 シテハ從來動モスレハ其中央ニ偏シテ地方ノ事情ニ疎ク爲ニ地方的利益ニ適合セサル措置
 アリトノ非難アリ且ツ今回集配ヲ要スル麵麩用穀類ノ高ハ舊施設當時ニ比シ遙ニ多額ニ上
 リ其集配ヲ中央機關ノ一手ニ行フハ實際其煩ニ堪ヘサル事情アルヲ以テ新規則ニ於テハ一
 方麵麩用穀類ノ差押ハ勿論徵收モ亦原則トシテ公共團體ノ爲ニ之ヲ爲スヘキモノトシ只公
 共團體カ其區域内ニ所要以上ノ穀類ヲ有スル場合ニ限り其過剩額ニ付新設ノ帝國穀物廳モ
 亦之レヲ徵收シ得ト定ムルト同時ニ他方右穀物廳ヲ行政部(從來ノ帝國委員及帝國配給廳
 ヲ合シタルモノニ當ル)及業務部(從來ノ戰時穀物會社ニ當ル)ノ二部ニ分チ各公共團體
 ト協同シテ明年八月十五日(新收穫年度ノ最終日)ニ至ル迄麵麩用穀類ノ規則正シキ分配
 ノ任ニ當ルヘキモノトス故ニ新規則ニ據レハ公共團體ノ任務ハ甚々廣大トナリ隨テ之レカ
 監督ノ必要ヲ増シタルヲ以テ新規則ニ於テハ之レニ應セムカ爲メ種々ノ規定ヲ設ケ(第二
 十六條、第五十條)聯邦各國ヲシテ公共團體監督ノ任ニ當ラシメタリ

飼料ニ關スル施設

大麥及燕麥ニ關スル規則 新規則ニ據レハ(イ)國內ニ植付ケ在ル大麥及燕麥ノ兩者モ亦其
 刈取ト同時ニ植付地公共團體ノ爲ニ差押フルコトトシ(ロ)又相當ノ代償ヲ以テ徵收セラル
 ヘキモノトス(ハ)尤モ右兩種穀類ノ差押徵收ハ之レヲ收穫高ノ半額ニ限ル等麵麩用穀類

ノ場合ニ比シ著ルシキ差異アリ次ニ(二)右兩穀類ノ分配補給ニ關シテハ新設ノ帝國飼料廳ニ於テ各公共團體所要高ト其生産高トヲ比較計量シタル結果公共團體中其區域内ニ所要以上ノ數量ヲ有スルモノニ在リテハ其過剩額ニ付陸軍中央糧秣廠ノ處分ニ委スヘキモノトシ而シテ中央糧秣廠ハ帝國飼料廳ノ指圖ニ從ヒ右兩穀高中ヨリ陸海軍ノ需要ニ充テ又公共團體中其區域内ニ所要丈ノ數量ヲ有セサルモノニ對シ其不足額ヲ補給スヘキモノトス

今之レヲ從來ノ施設ニ比スルニ舊規則ニ據レハ兩穀類ノ差押及徵收ハ共ニ陸軍中央糧秣廠ノ爲ニ之レヲ爲スヘキモノトセシカ新規則ニ於テハ公共團體ノ爲ニ之レヲ爲スヘキモノトシ兩穀類ノ配給ニ關シ舊規則ニ據レハ其指圖及實行共ニ之レヲ中央糧秣廠ニ於テ兼テ行ヒシカ新規則ニ據レハ配給ノ指令部ト實行部トヲ區別シ前者ヲ以テ帝國飼料廳ノ任務ト爲セリ

其他ノ飼料ニ關スル施設 新規則ニ據レハ一定ノ飼料所持者ヲシテ其現ニ所持スル額ニ付三箇月毎ニ之レヲ獨逸農産物供給組合ニ申告セシメ而シテ右申告高ノ内一定量ヲ徵收シテ該組合ノ專賣ニ委スルコトトス即チ大體ニ於テ從來ノ施設ト異ル所ナシト雖徵收飼料專賣ニ當リ右組合ニ於テ新設帝國飼料廳ノ指圖ニ從フモノトセルコトハ新事項ニ屬ス而シテ本施設中含糖飼料ニ對スル施設ニ關シ獨逸新聞紙ノ傳フル所ニ據レハ新收穫以後モ依然トシテ國內飼料ハ不足ヲ告クヘキニ當リ砂糖原料植物ニ在リテハ生産過剩ヲ訴ヘツ、アルヲ以テ之レヲ飼料ニ轉用スルノ目的ニ出テタルモノナリト云フ

補記

要スルニ本件諸規則ニ於テハ著ルシキ新事項ヲ包含セスト雖事將來ノ施設ニ屬シ今日ヨリ豫メ其施行期日ヲ決定シ難キモノアルヘキハ當然ニシテ右規則ノ規定中ニハ其施行期日ヲ七月一日ト定メタルモノト全ク帝國宰相ノ決定ニ一任シタルモノトノ別アリ燕麥ニ關スル規則、含糖飼料ニ關スル規則ハ後者ニ屬ス又麵麩用穀類ニ關スル規則中帝國穀物廳ニ關スル規定モ同シク施行期日ノ決定ヲ帝國宰相ニ委任シ其決定迄從來ノ帝國委員帝國配給廳及戰時穀物會社ヲシテ右帝國穀物廳ノ事務ヲ代攝セシムルコトトセリ尙一定ノ期日以後外國ヨリ輸入セラレタル麵麩用穀類、大麥及燕麥ニ付テハ前記諸規則ノ適用ナシトセルコト舊ノ如シト雖此ノ所謂外國ノ意義ヲ變更シテ占領地ヲ含マスト爲セシハ注意ヲ要ス

因ニ新收穫ノ取入ニ關シ獨逸新聞紙ノ報スル所ニ依レハ舊穀類ノ餘裕少ナキ折柄穀類ノ供給ヲ成ルヘク速カナラシムル必要アルニ當リ勞働者ノ缺乏ヲ告クルノ現狀ニ鑑ミ出來得ル限リ收穫上ノ敏速ヲ圖ラムカ爲當局者ニ於テハ已ニ脫穀及運搬機械ヲ整頓セルノミナラス殊ニ刈手トシテ露國捕虜ヲ使役スルコトニ關シ陸軍側トノ協議整ヒ居レリト云フ要スルニ本年度新收穫及其以後ノ分配ニ對スル獨逸官憲ノ施設ハ誠ニ努メタリト云フヘキナリ尤モ新收穫高ノ豫測ニ至リテハ未ダ的確ナル判斷資料ヲ有セサルカ收穫高例年ニ及ハサルモノト推測スルモ蓋シ大差ナカルヘシ

○獨逸國ノ新收穫穀類ニ對シテ執リシ措置

獨逸國ニ於テモ獨逸國ト同様從來國民ノ食料品殊ニ麥類ノ集配ニ關シ諸般ノ施設ヲ試ミ其節約ヲ期セル趣ナルカ本年ノ新收穫ニ關シテモ亦獨逸國ニ倣ヒ今回更ニ六月二十三日ノ勅令ヲ

以テ官ニ於テ獨占の集配ヲ爲スノ措置ニ出テタル趣ナリ而シテ該規定ノ要旨トシテ獨國官報ノ記載スル所ニ據レハ

(イ)千九百十五年ノ穀類收穫ハ其田畑ヲ離ルルト同時ニ國家ノ爲ニ差押ヘタルモノト看做サルヘク(ロ)穀類ノ集配其他一般ノ處置ハ凡テ國家ノ責任タルヘク(ハ)差押ヘラレタル穀類ハ一定ノ規則ニ依ルノ外之レカ消費若ハ讓渡ヲ禁セラルヘク(ニ)營業上穀類又ハ粉類ヲ使用スルモノニ對シテハ特別ノ規定ニ依ラシムルコトトシ差押ヘラレタル穀類ハ戰時穀物會社若ハ其地方支社ニ於テ之レヲ引取ルヘク即同會社ハ之レヲ買取り之レニ對シテ相當代價ヲ拂フノ義務アリ(ホ)右差押物件(穀類)ノ占有者ハ特別規則上自ラ之レヲ保有シ得ル場合ヲ除クノ外前記會社又ハ其代理人ニ一定ノ代價ヲ以テ之レヲ賣渡スノ義務アルモノトス尙之レヲ強制スルノ規定モ存ス(ヘ)農業者ハ從來ト同様規則上一定シタル分量ノ穀類及粉類ヲ自家用ニ供スルコトヲ得ヘク尙種子用穀類ノ分量ハ官ニ於テ之レヲ定ム前記會社ノ買入及賣出價格モ亦官ニ於テ之レヲ定ム(ト)又穀類占有者ハ穀類ヲ脱穀(audreschen)スルノ義務ヲ有シ製粉所ハ之レヲ保管シ及挽割ルノ義務ヲ有ス(チ)貯藏穀類ヲ民間ニ分配スルノ細則ハ內務大臣之レヲ定ム

ト云フニアリ尤モ奧國ニ於ケル本年度ノ收穫ハ壯丁ノ缺乏其他ノ事情ニ因リ果シテ平年數量ニ達スヘキヤ大ニ疑問ナリト雖從來同國ハ其所要穀類ノ大部ヲ國內ノ供給ニ依賴セル國柄ナルニヨリ何レノ途食料品供給ニ苦ムコト獨逸ヨリ甚タシキコトナカルヘシ

(七) 食料等ノ問題ノ經過

(イ) 獨逸ノ食料問題

(大正四年五月六日附在佛帝國特命全權大使男爵石井菊次郎報告)

獨逸ノ食料問題ニ關スル佛國側ノ論說及獨逸側ノ報道ハ悲觀樂觀異種多樣ニシテ其真相ヲ推斷スルコト甚タ困難ナレトモ最モ信據スヘキ研究ニ依レハ若シ豚ノ屠殺ヲ斷行センカ次期ノ收穫期迄國民必需ノ食物ヲ保持スルコト必スシモ不可能ナラサルカ如シ乃チ左ニ比較的精選セル材料ニ基キ之ヲ略說セントス

政府ノ施設

三月中旬以來獨逸政府カ食料ノ節減ニ對シ施設セシ所ハ曩ニ住民一人一月分ノ小麥粉消費額ヲ二百二十五「グラム」ト定メシヲ(二月九日ノ命令)三月十五日ヨリ二百「グラム」ニ減シ(本問題ニ付三月六日普國農務大臣ノ議會ニ演說セシ所ニ曰ク小麥粉ヲ二十五「グラム」減スルモ馬鈴薯ノ附加ニ依リ實ハ二百九十五「グラム」ノ麵麩ヲ分與シ得ヘシト)小兒ニ半額食券ヲ給與シテ以テ大人ノ食料ヲ確保セントシ三月十五日ニ馬鈴薯及家畜ノ大調査ヲ行ヒ聯邦議會ノ決議ニ依リ四月一日ヨリ左ノ諸項ヲ實施セシカ如シ

一、「キヤントール」以上ノ家畜飼料ヲ有スルニモ拘ハラズ之レヲ自家用ニ使用セサルモノハ四月八日迄ニ其旨ヲ在伯林獨逸農事會 (Bezugsvereinigung deutscher Landwirthe)ニ届出テ同會ハ更ニ六月一日ヲ以テ相當値段ニテ之ヲ買上ケ市町村團體ニ其

分配方ヲ委托スルコト

二、農務省又ハ獨逸農會 (Deutscher Landwirtschafts Gesellschaft)ノ認許ヲ經ルニ非サレハ特價ニテ種子用ノ馬鈴薯ヲ購求シ得サルコト

三、小麥ノミヨリ成ル麵麩ノ製造ヲ許可スルコト但シ篩過比例ハ九割三分タルヘキコト

四、黑麥麵麩製造ノタメ馬鈴薯ノ代リニ玉蜀黍粉、豌豆粉、菜豆粉、「サゴ」澱粉、「マニオ」粉、「タビオカ」粉、糖蜜及砂糖ヲ使用シ得ヘキコト

五、政府ハ適宜麵麩焼ノ労働時間ヲ定ムルコトヲ得ヘキコト

家畜ノ飼料

獨逸食料問題ノ真相ハ住民ノ食料品カ缺乏セリト言ハンヨリモ家畜ノ飼料カ不足セシタメ施テ住民ノ食物マテモ侵奪セラルルニ至リ其極遂ニ人間界ニ飢饉ヲサヘ生セシメシモノト做スヘキニ似タリ獨逸政府ハ右ノ危難ヲ未然ニ阻止セントテ糧秣中燕麥ハ二月十六日ヨリ、大麥ハ三月十二日ヨリ、糠ハ三月七日ヨリ何レモ之ヲ專賣トナシ且麥酒釀造所ヲシテ四月一日ヨリ大麥ノ消費額ヲ四割方減少セシメシカ如何ニセン獨逸ハ平時ニ於テ乳牛及豚ノ消費糧秣即チ大麥、玉蜀黍、糠、油粕ノ約四割ヲ輸入シ運送用又ハ乗用ノ牛馬ハ主トシテ内國産ノ燕麥、乾草、藁ニテ飼養セシカ夫レサヘ今ハ缺乏勝ニテ燕麥ハ約百四十萬噸ノ不足ヲ來シ聯邦議會ハ馬糧ニ著ルシキ制限ヲ加フヘキコトヲ決シ之レカタメ騎砲兵ノ軍馬ハ益々疲勞シ殊ニ徵發馬ノ如キハ愈々劣惡トナリシ情況ナルカ乳牛及豚ニ至リテハ輸入飼料ノ杜絶ト共ニ困迫ヲ極メ遂ニ馬鈴薯ヲ常食トスルコトトナリ茲ニ端ナクモ人畜間ニ食

料上ノ利害相衝突スルノ珍現象ヲ惹起セシナリ而シテ之レカ救濟策トシテ或者ハ粗糖製造滓ノ五十萬噸、臺所ノ殘物及麥酒釀造粕ノ數百萬噸ヲ利用スヘシト唱ヘシカ實行難ノタメ採用セラルルニ至ラス遂ニ意ヲ決シテ豚ノ大屠殺ヲ開始シ乳牛ノミハ牛乳ノ供給上之レヲ保育スルコトトセラレヌ

帝國議會議員フエルティナンドホッフ氏カ三月三十一日「ゾオスイシエ、ツァイツング」ニ公表セシ所ニ曰ク「獨逸ノ食料問題ハ結局人ト家畜トノ争ニ歸ス人ノミナレハ内國産ノ食物ノミニテモ裕ニ次期ノ收穫期迄生活シ得ヘキカ家畜殊ニ豚カ盛ニ人ノ食物ヲ奪フタメ茲ニ意想外ノ缺乏ヲ生セシメシナリ

抑モ獨逸ハ年々八百萬噸ツツノ家畜飼料ヲ外國ヨリ輸入セルニ開戦以來其供給中絶セシニモ拘ハラズ依然家畜ヲ生存セシメシタメ遂ニ人ノ食物ヲモ窮迫セシムルニ至レリ今千九百十三年三月十五日ヨリ同年八月十五日迄ノ間ニ輸入セシ飼料ノ數額ヲ示セハ大麥千二百九十五萬「キヤントー」、玉蜀黍三百四十萬「キヤントー」、糠五百五十萬「キヤントー」及米ノ殘糟、油糟等千萬「キヤントー」、合計約三千二百萬「キヤントー」ニシテ假ニ開戦後此數額ヲ中立諸國ヨリ輸入セントスルモ千萬「キヤントー」(百萬噸)ノ糧秣輸送ニハ一萬「キログラム」積載ノ貨車五十臺ヨリ成ル二千列車ヲ要スレハ其不能ナルヤ多言ノ要ナク隨テ獨逸カ馬鈴薯及豚ノ大調査ヲ行ヒシ三月十五日ヨリ次期收穫ヲ取入レ得ル八月十五日迄ノ間ニ要スル飼料ハ平時ヨリ約三千萬「キヤントー」ノ缺乏ナルヲ以テ之レニ相當スル豚ヲ屠殺セサル可カラサルカ三月十五日ノ調査ニ據レハ千九百十四年十二月一日ヨリ三月十五日迄ニ

凡ソ四百萬頭ノ豚ヲ屠殺セシモ同年十二月ノ頭數ハ千九百十三年三月十五日ニ比シ尙三百五十萬頭多カリシ由ナレハ千九百十五年三月十五日ト千九百十三年ノ同日トハ豚ノ頭數上ニ大差ナク乃チ差當リ一日二十萬噸ノ飼料ヲ消費スル丈ケノ豚ヲ處分セサル可カラサルコトトナラン」云々

馬鈴薯

豚カ人類ノ食物ニ喰込ミシトハ獨逸國民最後ノ食料タル馬鈴薯ヲ侵食セラレシテ意味スルコト前述ノ如クナルカ著名ナル統計學者カール、パロト氏曰ク「千九百十四年ニ於ケル馬鈴薯ノ收穫ハ四千二百萬噸乃至四千三百萬噸(多クノ學者ハ四千五百萬噸ト見積レリ)ニシテ内七百萬噸ハ種子用ニ保藏セラレ四百萬噸ハ滓トナルヲ以テ食用實額ハ三千百萬噸乃至三千二百萬噸ニシテ三月迄ノ消費額二千五百萬噸ヲ引去レハ残りハ六百萬噸ニシテ其内ヨリ來ル七月十五日迄ノ人ノ食料ニ是非トモ必要ナル數額四百二十四萬噸(内九十萬噸ハ麵麩ノ製造ニ用非ラル)ヲ除カハ豚ノ分前ハ僅二百七十八萬噸トナラン然ルニ千九百十四年七月刊行ノ帝國統計年報ニ據レハ獨逸内ノ豚ノ總數ハ二千九百九十二萬三千七百七頭ニシテ馬鈴薯ノ現在額ニテハ到底之レヲ飼養シ得サル可ケレハ(一)先ツ其四分一ヲ屠殺シ(二)人ノ食用ニ必要ナル馬鈴薯ヲ官憲ニ差押ヘ保藏シ(三)市町村團體ヲシテ之レカ適當ナル分配ヲ取計ラハシムヘシ」ト論セリ此點ニ付伯林日々新報ハ「獨逸政府カ馬鈴薯ノ供給過多ナル農村地方ニテ二百萬噸ノ買上ヲ行ヒ萬一ニ備ヘントス」ト報セリ「シエーンベルヒ」官立統計所長クチンスキー氏ノ說ニ曰ク「三月十五日ノ馬鈴薯調査ハ其

結果ヲ公表セサルタメ精確ナル數字ヲ得ルコト能ハサレトモ帝國農業技師ノ推算ニ據レハ當時千萬噸乃至千二百萬噸ノ貯藏額アリ而シテ獨逸人一ヶ月ノ消費額ハ平時百萬噸内外ナレハ豚サヘ屠殺セハ人ノ食料ニ差支ヲ生スルコトナカル可シ」ト

下層民ノ困窮

食料品ノ減少ハ社會問題ノ種子ヲ蒔クコト明ラカナルカ殊ニ馬鈴薯ノ分配ハ意外ニ困難ナルモノノ如ク或ハ勞働賃銀ノ増加ヲ迫リ又ハ最高價格ノ引上ヲ難シ其他政府ニ對シ貧民救助ヲ請願セントスルモノアリ漢堡ノ商業新報ハ平時貯蓄ナキ勞働者等カ開戦ト共ニ生活費ノ奔騰ニモ拘ハラス賃銀半減セラレ今ヤ其苦ニ耐エサラントスル狀ヲ述ヘ四人家族カ平時二十四麻克七十五布ニテ一週間ノ生活ヲ爲シ得タルニ千九百十四年七月ニハ二十五麻克十二布ニ、同八月ニハ二十六麻克四十一布ニ、同九月ニハ二十六麻克十四布ニ、同十月ニハ二十七麻克ニ、同十一月ニハ二十七麻克八十六布ニ上騰セシヲ揭ケ今後政府カ食料品最高價格ノ引上ヲ行ハントセハ同時ニ賃銀ヲ増加セサル可カラサル旨ヲ縷說セリ尙千九百十四年十二月二十三日ノ聯邦議會ハ馬鈴薯一噸ノ最高價格ヲ農村ニテハ五十五麻克其他ニテハ五十七麻克乃至六十一麻克ト定メシカ千九百十五年二月十五日更ニ之レヲ九十麻克ニ引上ケ最近再ヒ其引上ヲ決行セントスル由ナリ「フオルウエルツ」紙曰ク「最高價格ヲ屢次引上クルコトハ徒ラニ馬鈴薯商等一部ノ人士ニ不當ノ利益ヲ與フルニ過キス」ト又曰ク「上流ノ人士カ資産ヲ恃ミテ濫ニ食物ヲ浪費シ政府ノ主旨ヲ忽ニシ利己ノ念ノミ多クシテ汎ク公益ヲ想ハサルハ惡ムヘシ」ト四月二十日ノ伯林日々新報ハ聯邦議會カ(一)來

ル可キ收穫期迄ニ下流人民ノ生活ニ必要ナル馬鈴薯ヲ一人前一日凡ソ四分三「リーヴル」乃至一「リーヴル」宛ノ割合ニテ保藏スヘキコト及(二)將來公定最高價格ヲ引上クルニ於テハ其現在價格トノ差額ハ上、中流者ヲ除キ政府ニ於テ之レヲ仕拂フヘキコト竝ニ此目的ノタメ毎月數百萬麻克ノ新經費ヲ豫算ニ計上スヘキコトヲ定メシ由ヲ報シ四月十二日ノ「ミュンフナー、ノイエスト、ナハリヒテン」紙ハ政府ハ右ノ貯藏實行ノタメ新ニ帝國馬鈴薯分配委員 (Reichsstelle für Kartoffelversorgung) ヲ設ケ廣ク農業者、市民、商業者及消費者ノ代表者ヲモ列席セシメンコトヲ定メタリト報セリ

尙三月十五日ニ獨逸政府カ行ヒシ馬鈴薯及家畜ノ大調査ハ其結果ノ憂フ可キモノアリシニヤ當局ハ一切之レヲ秘シテ漏ラササレハ帝國議會議員ヘイン氏ヲ始メ之レヲ非難スルモノ多シト言フ

最後ニカルパット山ノ戰爭ハ年收千五百萬「キヤントー」ノ小麥ヲ供給スル洪牙利ノ沃野ノ運命ヲ定ムルモノナレバ獨逸政府ニテハ單ニ食料問題ヨリ看テモ斷シテ露軍ノ侵入ヲ防止セサル可カラスト做シ居ル由ナリ

(ロ) 獨逸ノ食料問題

(大正四年七月二十日附在佛帝國特命全權大使男爵石井藥次郎報告)

(大使館三等書記官杉村陽太郎調査)

本年五、六月ノ交トモナラハ獨逸ニ大饑饉起ルヘシトノ同盟側ニ於ケル推測ハ事實上見事ニ反證セラレシカ今後ニ於ケル獨逸ノ食料問題概略次ノ如シ

ポール、ルロア、ポリュー氏曰ク「獨逸ニ對スル食料攻カ到底實現スヘカラサルハ余ノ屢纒說セシ所ナルカ今ヤ事實ハ之レヲ明證シテ餘ストコロナカラントス凡ソ兵糧攻ナルモノハ一定ノ狹キ地域ニ對シテノミ之レヲ行ヒ得ヘク例ヘハ千八百七十七一年ニ獨軍巴里ヲ攻圍シ二百五十萬ノ住民ヲ飢エシメシカ如キ之レナルカ獨逸ノ如キ大國ニ對シ殊ニ其周圍ニハ幾多中立國ノ存スルヲ顧ミスシテ封鎖ヲ敢行セリトテ所期ノ目的ヲ達シ能ハサルハ怪ムニ足ラス況ンヤ獨逸カ反對ニダルクネリス及バルテイックヲ封鎖シテ露ヲシテ彈藥ノ輸入ト小麥ノ輸出トヲ不能ナラシメシヲ考量セハ今日迄ノ封鎖戰ハ勝敗遠ニ判知スヘカラサルモノアリ

獨佛カ面積相如クニ人口ハ六千八百萬ト三千九百萬トノ差アリ而シテ千九百十四年 獨逸農作カ偶々不良ナリシトノ報道ハ佛國統計家ヲ拮躓セシメ彼等ハ昨年十月余カ早クモ政教學院ニ於テ論述セシ注意ヲモ忘レ被封锁國ト被封锁市トノ區別ヲ混同シ且ツ變通極リナキ經濟社會ノ本體ヲモ蔑如シテ驀地ニ獨逸ノ危機ヲ信シ死セル數字ヲ根據トシテ敵國ノ饑餓ヲ豫言シ恰モ半ハ戰勝ヲ贏得セシ如キ氣勢ヲ示セシカ事實ハ之レニ反シ政治及經濟上獨逸ニ密輸入スルヲ利ナリト做ス邦國續々生シ獨逸政府モ亦富裕者五百萬人ヲ國外ニ避難セシメテ内國食料ノ消費額ヲ減セシメ占領地ヨリノ收穫ニヨリ二百萬人ノ兵士ヲ養ヒ食物ノ節約及貯藏額ヨリ平時消費額ノ百分ノ五乃至六ヲ減セシメ遂ニ五月十四日ノ帝國議會ニ於テ

獨逸國法令

五一四

内相デルブリユック氏ヲシテ「獨逸ハ馬鈴薯ヲ缺カス又豚ノ大屠殺ヲ行フ要モナシ」ト傲語セシメシナリ

然カラハ獨逸食料問題ノ將來如何ト言フニ馬鈴薯ハ佛ノ年産額一億二千萬「キヤントー」乃至一億五千萬「キヤントー」ニ對シ四億五千萬「キヤントー」乃至五億「キヤントー」アリ容易ニ不足スヘシトモ思ハレサルカ家畜ハ必ラスシモ然カラス試ミニ英、佛、獨ノ家畜數ヲ示セハ次ノ如シ

(千九百十二年調査)

	獨逸	佛	英
馬匹	四、五一六	三、一九八	二、〇九五
牛	二〇、一五八	一四、五三二	一一、七六五
羊	五、七八〇	一七、一一一	三一、一六五
豚	二一、八八五	六、九〇〇	三、五六〇

右ノ如ク獨ハ佛ニ比シ馬匹ハ四割方、牛ハ六割方、豚ハ三倍程多キモ羊ハ三分ノ一強ニ過キス而シテ人口ハ實ニ七割方多シ故ニ戰期ニシテ此上甚々シク長引カハ來年ノ春頃ヨリ食肉ノ不足ヲ告クヘキコト之レヲ看取スルニ難カラス

隨テ獨逸ノ意氣ノ次第ニ衰フヘキハ言フ迄モナケレトモ唯々戰爭勝敗ノ決ヲ定ムルモノハ飽迄武力ニシテ食料及原料ノ缺乏ハ常ニ纒ニ從タル作用ヲナスニ過キスト知ルヘキナリ

(ハ) 獨逸ニ於ケル原料及密輸入ニ關スル件

(大正四年七月二十日附在佛特命全權大使男爵石井菊次郎報告)

(杉村書記官調査)

獨逸ニ於ケル原料問題ノ近況及密輸入ニ關シ項ヲ分チテ左ニ略說セントス

一、原料

獨逸カ銅、錫、「ニツケル」、滿庵、格羅謨「アルミニウム」、護謨、硝石等各種ノ必要原料品ヲ缺キ或ハ小學兒童ヲシテ銅及錫ノ廢物ヲ蒐集セシメ又ハ五月十七日以後護謨製品(主トシテ自働車用護謨輪)ノ所有額ヲ届出テシメ匿藏者ニハ一萬麻ノ罰金ヲ課シ且新製品ノ販賣ヲ禁止セシカ如キ已ニ公知ノ事實ナルカ最近ニ於テ特ニ缺乏ヲ感シツ、アルハ綿類ナルカ如シ

綿ノ缺乏ヲ惹起セシメ近因ハ英國政府カ六月二十七日以後同盟諸國及西班牙、葡萄牙ノ二國以外ノ大陸諸國ニハ一切ノ綿絲輸出ヲ差止メシニ存ス(綿屑及綿ハ表向キハ既ニ輸出ヲ禁止セラレ居リキ)今獨逸ヘノ綿及綿絲輸入ノ情況ヲ示サンカタメ倫敦「ネイル」兄弟商會ノ調査セシ昨年八月三十一日ヨリ今年四月三十日ニ亘ル英國ヨリ和、伊、西及スカンテイナヅイー諸國ヘノ綿類ノ輸出額ヲ前年ト對照セハ次ノ如シ

獨逸國法令

五一五

獨逸國法令

五一六

(單位千「バル」)

和蘭	米國ヨリ	一九一三—一四年	三三	一九一四—一五年	四一四
	其他		四三		四一九
計			七六		八八三
スカンデイナヴィー諸國	米國ヨリ		八五		九〇八
	其他		四七		九四〇
計			一三二		一、八四八
伊太利	米國ヨリ		四四六		九七六
	其他		一、〇八七		一、五〇〇
計			一、五三三		二、四七六
西班牙	米國ヨリ		二八〇		三七四
	其他		三三四		四二三
計			六一四		七九七
總計			二、三五五		五、九五四

右ノ如ク今年ハ昨年ニ比シ三百五十九萬九千「バル」ノ輸出増加アリ内和蘭ハ七十五萬七千「バル」、スカンデイナヴィー諸國ハ百七十一萬六千「バル」、伊太利ハ九十四萬三千「バル」、西班牙ハ十八萬三千「バル」ニシテ其大部分カ獨逸ニ再輸出セラレシヤ言フマテモナシ又

リヴァーブルノ「ゴトン」、ガゼット」ノ報スル今年六月中ノ綿絲輸出額ヲ昨年ト比較セシモノ次ノ如シ

(單位百「リール」)

諸威	一九一四年六月	一九一五年六月
	二一八、七〇〇	三四八、三〇〇
瑞典	一〇八、九〇〇	二六〇、八〇〇
丁抹	一〇六、四〇〇	一〇七、四〇〇
和蘭	三、二〇〇、〇〇〇	四、四九三、〇〇〇

次ニ英國政府カ公表セシ合衆國ヨリ和蘭及スカンデイナヴィー諸國ヘノ綿ノ輸出額ハ次ノ如シ

(單位百「リール」)

	三	月	一九一四年	一九一五年
瑞典	一九一四年	一九一五年	一九一四年	一九一五年
	九五九	一五、四〇七	二、四一一	三〇、二三九
諸威	五六九	二九、二二八	二、七三六	二六、四七二
丁抹	—	四、一八二	—	一三、二四九
和蘭	一、〇三八	四五、九三九	四、二〇四	一〇八、〇〇九

斯ク今年諸國カ輸入セシ米國綿ハ昨年ニ二十倍乃至五十倍シ何レモ獨逸ニ送荷セラレ、獨逸國法令

五二七

逸ハ此他北方佛蘭西及白耳義殊ニアングエルス埠頭ヨリ多額ノ綿ヲ得タルモ彈藥工場ノ消費額莫大ナレハ國內ノ在荷次第ニ減退シ獨逸政府ノ調査ニ依レハ六月一日ニ於テアレーメ市場及諸紡績工場ニ在ルモノ四十五萬「バル」、アングエルス其他ノ占領地方ニ在ルモノ十五萬「バル」、ロツツニテ分捕セルモノ十二萬「バル」合計七十二萬「バル」ナルカ目下毎月消費額十四萬五千「バル」ヲ下ラスト言ヘリ假リニ密輸入カ中絶セリトセハ向後五ヶ月間ヲ支フルニ過キス政府ハ軍隊用品ヲ製造セサル工場ニ令シテ製造高ヲ三割方減少セシメシト傳フ

尙開戦後ジエーヌ港ニ陸揚セシ獨逸宛ノ綿ハ四千萬麻ノ巨額ニ達スル由ナルカ伊國政府ハ種々ノ口實ノ下ニ之カ再輸出ヲ延期シ宣戦ト同時ニ沒收セリト言フ又アレーメン綿市場ニ於ケル綿一「リीडル」ノ市價ハ昨年戦前ニハ五十布、伊太利ノ交戦參加前ニハ八十布乃至九十布、五月三十一日ニハ一麻二十四布トナリ其後益昂騰シツツアリト報セラレ
以上ハ主トシテ獨逸側ノ報道ニ基キ論述セシモノナルカ英國政府ノ禁令モ英法ノ効力ナキ中立國ニ在ル英商ノ賣國的行爲ヲ制スヘカラス又必要ノ前ニハ萬事ヲ犧牲トナス獨逸政府ノコトナレハ密輸入ノ杜絶ハ到底之ヲ期スヘカラサルカ獨逸ニ於ケル綿類缺乏ノ近狀ハ最早爭フ可カラサル事實ナルニ似タリ

二、密輸入

獨逸ニ隣接セル諸中立國カ政治及通商ノ關係上獨逸ヘノ密輸入ヲ勗ムルハ言フモ更ナリ英國航運業者及商業者ト雖モ敵國人トノ通商禁止ニ依リ永年開拓セシ販路ヲ失フニ忍ヒス且

戰時高率ノ運賃及利潤ニ誘ハレテ遂ニハ非愛國的行爲ニ出ツルハ必スシモ深ク怪シムヘキニアラス而シテ密輸入ニ關スル事項中和蘭西班牙及瑞典ニ付テハ夫レノ所轄公館ヨリノ報告モアルヘケレハ極メテ之ヲ略説シ左ニ各方面ヨリノ比較的正確ナル報道ニ基キ密輸入ノ實情ヲ述ヘントス

今年四月中ニ於ケル和蘭ノ獨逸輸出額チ一昨年及昨年ノ平均額ト對比セハ乾酪ハ六千噸食肉ハ三千五百噸菓物ハ三千噸魚類ハ千噸綿ハ二萬九千一百噸亞麻ハ六萬四千三百三十六噸增加シ開戦以來獨逸ヘノ輸出ニ依リ和蘭ノ利得スル所月々一億「フロラン」ト稱セラレ獨和間ニハ鐵道十線、白耳義ヲ經ルモノ同四線、ライン、メウズ等ニ依ル水路及運河六、合計二十ノ交通路アリ、況ヤロツテルダムニ入船スルモノハライン河ノ航行ニ關スル獨和間ノ協約ヲ利用シ荷揚ヲ爲サスシテ其儘獨逸ニ輸入セラルル由ニテ英商ノ之ニ關與スルモノモ少ナカラス五月三十日ノ「ベルヂツクヌヴル」紙ハ密輸入問題ニ付英國政府カ和蘭政府チ責ムルノ理由ナキヲ痛論シ罪ハ利己心ノ外一物ヲモ念トセサル英國商人ニアリト斷セリ
米國カ獨逸ニ輸入スル彈藥類ハブリツヂポート、ハートフオールド及ウオーターバリーリノ諸工場主トシテ之ヲ供給シ一度南米ニ輸出シ更ニ和蘭、丁抹、西班牙等ニ向ケ發送セラレル由ナルカ最も多ク仕向ケラルルハ瑞典ノマルモエ港ニシテ船貨ノ所有權チ米國人ニ屬セシメ居ルト仕向港カ中立國ナルトノ關係ヨリ英船ノ之ヲ運送スルモノ少ナカラス又銅及錫ハ諸威ノクリスチアニア港ヲ經テ入ルモノ多ク之カタメハンブルヒノ沈滞ニ引換ヘリユベツク及ステツチン港ノ繁盛ハ素晴ラシキ勢ニシテ港内ニハ瑞典、丁抹及諸威ノ船舶輻輳シ

獨逸國法令

殊ニ綿ノ入荷夥シト聞ク

諾威ノ漁業ハ獨逸ヘノ輸出及英國同業ノ不振ニ乘シ稀有ノ盛況ヲ呈シ今年始ノ三ヶ月間ニ
 鱈及鱒ノ千二百三十二萬「キロ」(昨年ハ二十四萬「キロ」) 鱈及其他ノ魚類六百八十二
 萬「キロ」(昨年ハ二百十萬「キロ」)及罐詰ノ千五十萬「キロ」(昨年ハ七百萬「キロ」)ヲ輸出シ
 年々國外ニ逸出スル移民ヲ皆無ニ販セシメント言フ

外國旅客ノ撒布スル旅金ヲ以テ主タル收入トナセシ瑞典カ戰害ヲ蒙ムルコト多キハ自明ノ
 理ナルカ之カタメ六十八ノ小鐵道及登山鐵道會社(資本金一億一千九百萬法)ハ社債ノ利子
 ナ仕拂ヒ得ス又大鐵道中主タル十停車場ニ付テモ一二主要ナルモノハ收入ヲ増加セシメ他
 ハ暴減シ結局一昨年ニ比シ百四十六萬八千法ヲ減收セリトノコトニテ經濟ノ困迫甚シク獨
 逸ヘノ輸入仲介ノ如キ實情大ニ怒スヘキモノナキニアラス
 瑞西方今年一月ヨリ四月迄ノ間ニ輸入セシ小麥、玉蜀黍及米ノ數額ヲ昨年ト比較セハ次ノ
 如シ

小麥	一九一四年	一九一五年
玉蜀黍	一、一一四、八二九 <small>キヤントー</small>	一、六〇五、二六〇 <small>キヤントー</small>
米	二〇一、六八七	四九三、〇六二
	八、九二四	一六〇、三五五

又昨年ニ於ケル伊國ヨリ瑞西輸出額ヲ一昨年ト比較セハ次ノ如シ

米	一九一三年	一九一四年
馬鈴薯	一、四〇〇 <small>噸</small>	六、一〇〇 <small>噸</small>
糠	一三、九〇〇 <small>キヤントー</small>	四三、八〇〇 <small>キヤントー</small>
小麥捏粉	五、七〇〇 <small>キヤントー</small>	二七、八〇〇 <small>キヤントー</small>
野菜	二、九〇〇	七一、六〇〇
橙	一〇五、〇〇〇	一二七、〇〇〇
胡桃油粕其他	三八、六〇〇	四七、六〇〇
羊	五七、〇〇〇	一二八、六〇〇 <small>頭</small>
豚	二六、八〇〇 <small>頭</small>	二九、二〇〇 <small>頭</small>
雞卵	六、四〇〇 <small>キヤントー</small>	一一、五〇〇 <small>キヤントー</small>
牛酪	二九、六〇〇 <small>キヤントー</small>	四四、九〇〇 <small>キヤントー</small>
	一三、七〇〇	一八、三〇〇

乃チ増加ノ最モ多カリシハ小麥捏粉、馬鈴薯、米、糠及油粕ニシテ又今年始ノ四ヶ月間ニ
 於ケル同輸出額ヲ昨年ト比較セハ麻類ハ二倍シ綿類ハ二千「キヤントー」ヨリ二萬八千「キ
 ヤントー」ニ、人造絹絲ハ二千「キログラム」ヨリ七萬六千「キログラム」ニ、硫黃ハ五千「キヤ
 ントー」ヨリ一萬七千「キヤントー」ニ、小麥捏粉ハ七百「キヤントー」ヨリ二萬六千「キヤ
 ントー」ニ増進セリ

獨逸國法令

瑞西カ獨逸ヘノ重要輸入取次ヲ爲スコト右ノ如ク甚シキニ對シ伊國政府ハ佛英露伊ノ代表者カ巴里ニテ協議セシ主旨ニ從ヒ嚴重ナル抗議ヲ申込ミ連邦政府ノ應答曖昧ナルヲ斷然瑞西ヘノ輸出ヲ禁止セシカハ瑞西側モ狼狽シ六月十五日ヨリ數十種ノ商品ニ付獨逸ヘノ輸出ヲ禁止シ以テ纔ニ事ナキヲ得タリ尙瑞西ニモ和蘭ノ如ク輸入「トラスト」ヲ起スヘシトノ議アルカ最近連邦議會ニ於テルセルン選出代議士ウイニイケル氏ノ質問ニ對シ國務長官ホフマン氏ハ輸入組合ノ目的ハ國民必需ノ食料及内國工業ノ原料ヲ充足シ瑞西經濟ノ自由ヲ確保スルト共ニ政府監督ノ下ニ軍需品ノ輸出ヲ取締ルニ存シ之ニ依リ輸出入ノ自由及均衡ヲ保タシメ且我中立ヲ侵害セシメサラントスルモノナリト答辯セリ兎ニモ角ニモ伊太利ノ交戰參加ハ此ノ方面ノ密輸入ヲ杜絶セシメ曩ニ伊瑞國境兩國稅關ノ中間ニ在ル二十米程ノ自由地帯ニテ瑞西宛トシテ運送セラレシ貨物カ急ニ瑞西通過貨物ト化シ以テ敵國ニ輸入セラレシカ如キ奇現象ノ跡ヲ絶タシメタリ

羅馬尼カ獨逸ニ對スル玉蜀黍及大麥ノ大供給者タルハ詳説ノ要ナシ昨年英佛公使ノ抗議ニ依リ食料品ノ敵國輸出ヲ禁止セシカダ爾ダ爾スノ閉鎖ハ小麥ノ輸出口ヲ失ハシメ若シ陸上獨逸ニ向ケテヲ送荷スルニ非サレハ國民經濟窒息ノ苦境ニ陥ルヲ以テ遂ニ獨逸ヨリノ輸入貨物ヲ積載シテ入國セル列車カ輸出シ得ル丈ケノ小麥其ノ他ノ穀物ハ之ヲ送付シ得ヘキコトト定メラレ其他農夫等カ山間ノ國境ヲ越エテ私ニ輸出スル家畜等ニ至ツテハ其數少ナカラスト言フ尙ホダ爾ダ爾スノ閉鎖カ同國ノ輸出貿易ニ加ヘシ禍害ノ一端ヲ示サンカダメ昨年及一昨年ニ於ケル海上輸出額ヲ比較表示セハ次ノ如シ

	一九一三年	一九一四年「ダ爾ダ爾ス」	一九一四年「ダ爾ダ爾ス」
	閉鎖	以	閉鎖
	鎖	以	鎖
	前	以	後
穀物	二、七一八、九二二	一、七〇五、五二九	二四九、三六五
粉	一九五、二三四	七二、九〇三	三七、七一五
木材	一三八、八〇五	六九、一一五	一、〇八〇
石油	九八〇、四二六	五二二、七〇一	一三三、二九二

右ノ如クダ爾ダ爾スカ攻陥セラレ英佛カ羅馬尼ノ輸出ヲ吸收シ得ル迄ハ同國ノ敵國輸入ハ到底之ヲ阻止スヘカラスト而シテ是レ會々獨逸ノ利用スルトコロニシテブユカレスト市場ニ於ケル外國爲替相場ハ麻ハ平價、獨逸「クローメ」ハ八分ノ割引、法ハ一割四分ノ下落ヲ演シツツアルニ見テモ此方面ヘノ獨逸ノ輸出カ中々ノ巨額ニ達シツツアルヲ推セラルルナリ

丁抹カ開戦後ノ九ヶ月間ニ獨逸ニ輸出セシ數額ハ前年ノ六千二十二萬法ニ對シ實ニ三億千五百五十二萬法ニ達シ最初ハ主トシテ馬匹ヲ出シ次ニ銅、護謨、罐詰其他ノ食料品（但粗製品多キタメ昨今訴訟沙汰ニナレルモノ夥シト言フ）ヲ賣込ミ「コーベンハーグ」ハ海外ヨリ密輸入仲次港トナリ殊ニ航運業ハ昨年前半期ノ不景氣及開戦當時ノ沈勢ニ引換ヘ豫想外ノ收益ヲ得諸汽船會社株ハ一齊ニ狂騰シ大小十六ノ汽船會社株（資本金八千八百九十二萬五千「クローメ」）ハ五月二十五日ニハ戦前ヨリ五割四分七厘即チ四千八百六十七萬「クローメ」ヲ昂騰シ就中小會社株ノ騰勢甚シク「コーベンハーグ」合同汽船會社（資本金三千萬

「クローヌ」株カ三割三分ヲ騰貴セシニ「ト」會社（資本金百十萬「クローヌ」）株ハ一倍六割一分ヲ加ヘシ由ナリ尙丁抹政府ハ最近英國ノ請求ニ基キ政府監督ノ下ニ輸入業者及小消費者ノ代表者ヨリ成ル石炭輸入團體ヲ設立シ又物價調節局ハ乾酪ノ輸出ヲ一時的ニ禁止セシト傳フ

西班牙カ對獨密輸入ノ策源地タル價值ハ伊太利ノ開戰以來頗ル減少セシカ然カモ北米ヨリ一唐南米ニ向ケラレシ禁制品ニシテバルセロナ港ニ陸揚セラレ更ニ和蘭方面ニ仕送ラルルモノ少ナカラス又希臘ヲ介シテ埃洪國ヘノ彈藥輸送モ盛ニ行ハレ居ルト稱セラル而シテ地中海ニ於ケル獨逸潛航艇ノ根據地カ西班牙及希臘ノ小港ニ設定セラレシモ最早動カス可カラサル事實ナルカ如シ

要之同盟諸國ハ瑞西及和蘭ニ對シテコソ飽迄強壓ヲ加ヘテ密輸入ノ杜絶ヲ圖リ得ヘキモ瑞典以下ノガンテイナグイー諸國ニ向ツテハ露國ヘノ軍需品輸送ノ關係モアリ容易ニ其目的ヲ達シ得ヘカラサルニ似タリ

(八) 獨逸財政金融上ノ對戰準備

(大正四年四月十二日附在佛帝國特命全權大使男爵石井菊次郎報告)

此一篇ハ最近巴里大學經濟學教授シヤル、リスト氏ノ公表セシ「財政及金融上ニ於ケ

ル獨逸ノ對戰準備」ナル論文ノ摘譯ニシテ立論ノ公正精確ヲ以テ一般ニ推稱セラル

概論

獨逸カ財政及金融上ノ對戰準備ヲ開始セシハアガテイル問題以後ニ屬シ獨逸政府ノ經濟政策カ此時期ヲ發起點トシテ大ニ面目ヲ改メ産業取引ノ繁榮ヲ期センヨリハ寧ロ軍事計畫ノ完成ヲ目的トスルニ至リシコトハ黃書カ公表セシ千九百十三年三月十九日附獨逸政府ノ機密文書中ニ戰爭計畫確定ノ緊切ナルヲ述フルト共ニ金融及財政上ニ於テモ宜シク速ニ對戰準備ヲ整フヘキコト及之レカ立案ニ付キテハ單ニ政府部内ノ討議研究ニノミ止メシメス廣ク金融業者トモ虛中澹懷計策スル所ナカル可カラスト論シ且ツ民間有力者ト和衷協同戰時經濟政策ヲ議ス可キノ要ハ主トシテ國家財政ノ内情ヲ彼等ニ披瀝スルト同時ニ彼等ノ希望ヲモ聽取セントスルニアリテ是ニヨリ何時如何ナル場合ニ戰亂ノ突發スルモ銀行業者等ヲシテ政府ノ施設ニ關シ何等疑惑ヲ挿マシメサラント欲スルニアリ故ニ萬一秘密ノ外部ニ漏ルルカ如キコトアラシカ由々シキ大事ナレハ其邊ハ嚴ニ警戒スル所ナカル可カラストノ一節アルヨリ見テ之レヲ推スニ難カラサランカ乞フ左ニ項ヲ分チテ獨逸政府ノ財政及金融上ニ於ケル對戰準備ノ概略ヲ說述セントス

千九百一十一年ヨリ千九百一十一年迄

此期間ニ於ケル獨逸ノ財政上及金融上ノ改革ハ租稅、貨幣、銀行等諸般ノ問題ニ亘リテ頗ル廣汎且ツ詳密ナルモノアリシカ其主タル目的ハ財界ノ組織ヲ千八百九十五年以來急速ノ進歩ヲ爲セシ經濟產業界ノ要求ニ應セシメントスルモノニシテ殊ニ千九百一十一年ノ國內恐慌

及千九百七年ノ米國大恐慌ニヨリ獨逸市場ハ未曾有ノ打撃ヲ蒙リ帝國銀行ノ保證準備(金貨、銀貨、帝國金庫券及他ノ發行銀行券ヨリ成リ之レヲ *Barvorrat encaisse liquide* ト稱シ佛蘭西銀行ニ於ケルカ如キ *Encaisse metallique* ニ非ラサルナリ)ハ千九百一年ニハ發行紙幣ノ半額ニ又千九百七年ニハ其四割ニ迄減退シ辛フシテ法定最少限度タル三割三分ニ達スルヲ防止シ新發行紙幣ノ額五億麻克ニ達セシコトハ甚タシク獨逸當局者ノ注意ヲ喚起シ即チ大規模ノ改革ニ著手セシメタリ

抑工業國ノ中央銀行カ常ニ十分ナル發行餘力ヲ保有シテ紙幣ヲ流通セシムルニ非ラサレハ一度恐慌ノ襲來セシトキ經濟社會ノ全部ヲ擧ケテ麻痺倒仆セシム可キハ千九百七年ノ米國大恐慌ニヨリテモ之レヲ立證スルニ難カラサルカ獨逸政府ノ帝國銀行ニ對スル希望モ平時ニハ市中銀行並一般取引界ヲ輔翼セシメ戰時ニハ國家ニ向ヒ租稅及公債ニ代リテ急速ニ且ツ多額ニ戰費ヲ調達セシメントスルニ存シ其企圖ノ理論上及實際上妥當ナルハ吾人ノ多言ヲ要セサル所ナリ

獨逸カ久シキ以前ヨリ帝國銀行ヲ單ニ平時ノ中央銀行ヲラシムルヲ以テ満足セス事アルニ當リテハ之ヲ直ニ戰時銀行(*Kriegsbank*)ニ變セシメント企圖セシコトハ千九百七年ヨリ千九百十年迄ノ間ニ屢貨幣法及銀行法ヲ改正セシノミナラス營業ノ實際上モ著々準備金ノ増大ヲ計畫シ來リシニヨリテモ之レヲ知ルニ難カラサルカ然モ財界改革ノコトハ固ト長期間ノ努力ノミ之レヲ能クス可クシテ一朝一夕ノ改革ノ如キハ何等實効ノ顯ハル可キモノナク例ヘハ國內一般ニ小切手及手形ノ使用普及シ商業取引ハ悉ク銀行預金ノ振替ニヨリテ實行セラルルニ於テハ通貨ノ需要ハ著ルシク減退シ中央銀行ハ克ク多額ノ正貨ヲ包藏シ得ヘキモ此事タル主トシテ一國商慣習ノ自然的發達ニ待ツヘキモノニシテ中央銀行ノミカ如何ニ信用取引ヲ獎勵セリトテ到底十全ノ成果ヲ收ム可カラサルカ如シ故ニ帝國政府モ主トシテ此點ニ著眼シテ先ツ信用取引ノ周ク公衆ノ間ニ行ハレンコトヲ企畫シ千九百八年ノ法律ニヨリ郵便小切手ヲ創設シ貯蓄金庫ニ小切手發行ノ權利ヲ認メ又市中銀行ニ對シテモ可成小切手ノ流行ヲ圖ルカ如キ方策ヲ講セシメ同時ニ帝國銀行特權改訂ノ準備トシテ銀行大調査ヲ開始シ大銀行ヲシテ讓歩スル所アラシメント企テ財界根本的改革ノ用意殆ト間然スルモノナキニ庶幾カリキ

右ノ如ク千九百十一年以前ニ行ハレシ獨逸政府ノ市場改革ハ主トシテ獨逸ノ金融制度ヲシテ商工業ノ需要ニ適合セシメントノ意圖ニ出テシモノニテ換言セハ千九百七年ノ如キ破綻ヲ再現セシメサランコトヲ以テ主眼トナセシニ外ナラス隨テ之レヲ戰争ノ準備ト看做スカ如キハ決シテ公平ナル觀察ト稱ス可カラズ唯々強テ論スレハ此等改革ノ結果カ料ラスモ今回ノ戰争ニ貢獻スル所大ナリシト言フニ過キササルナリ

佛國ノ識者中ニハ千九百八年ノ獨逸銀行業者會議ニ於テ早クモ金融動員計畫ノ討議セラレシ如ク誠シヤカニ論スルモノ少ナカラサルカ之レ斷シテ非ナリ成程獨逸學者中ニハ「ボア」及日露戰争ノ經濟的影響等ニ付深ク研究セシモノモ少ナカラサルカ之レ尙武國ノ常トシテ且ツハ研究心ノ旺盛ナル獨逸トシテハ決シテ怪シムヘキコトニ非ス是ヲ以テ直ニ今次戰争ニ對スル準備計畫ノ發端ト見做スカ如キハ吾人ノ到底首肯シ得サル所ナリ

アガテイル事件

千九百十一年ノ秋アガテイル問題紛糾シテ獨逸ニテモ佛國ニテモ戰亂爆發ノ近カラシコトヲ信セシトキ獨逸市場ノ混亂ハ實ニ意外ノ程度ニ進ミ彼ノ飽迄強硬ノ態度ヲ持セシ獨逸帝國外交當局ヲシテ遂ニ軟化セシムルニ至リシコトハ獨逸國民ヲシテ切實ニ現代ノ戰爭ニ於ケル財政及金融關係ノ頗ル緊切ナルヲ覺知セシメ其後須臾ニシテ千九百十二年巴爾幹戰爭起ルヤ再ヒ痛烈ナル打擊ヲ受ケ愈々財界政策ノ重大緊急ナルヲ信セシメ茲ニ政府ハ夜々トシ貨幣金融及財政ノ大改革ニ著手シ其施設ノ決定的ナル獨逸ノ意志カ單ニ經濟界ノ刷新ニノミアラスシテ必ラスヤ他ノ大ナル目的即チ近キ將來ニ於ケル戰爭ニ備ヘントスルニ非サルヤヲ感知セシメタリキ

アガテイル事件ハ獨逸市場ノ二個ノ缺點ヲ暴露セシメタリ即チ一ハ獨逸市場カ餘リニ外國殊ニ佛英ノ資本ニ依頼シ之ニ對シ從屬的關係ニ立ツコトニシテ他ハ帝國銀行ノ正貨準備及諸金融機關ノ準備資金カ少ナキニ過キタルコトナリ

第一ノ缺點ニ付テハ國際關係カ險調ヲ呈スル度毎ニ敵國資金ノ引上ニ遇ヒ之レカタメ市場ハ急ニ流動資金ヲ失ヒテ混亂ノ度ヲ高メ政府モ亦軍資金調達ノ資源ヲ涸渴セラレテ行動ノ自由ヲ制限セララルアリ其不便言フ可カラズ現ニ千九百十一年九月モロツコ問題ノ焦點ニ達スルヤ帝國銀行ノ正貨準備ハ紙幣發行高ノ四割五分ニ迄暴減シ開戦ノ當初ニ國家カ中央銀行ヨリ供給セシム可キ軍資金ハ少クモ二十五億麻克ヲ降ラサルニ當時帝國銀行カ有セシ發行餘力ハ八億麻克ニ過キス獨逸政府及銀行業者等ハ今更ノ如ク敵國資本ニ依頼スルノ危險ナルヲ實驗シ如何ニモシテ此從屬關係ヲ脱セント決意セシナリ

故ニアガテイル問題ノ鎮定スルヤ帝國銀行總裁ハ「ヴゲンシユタイン氏ハ千九百十二年二月伯林諸大銀行家ヲ會シ嚴然タル態度ヲ以テ各銀行準備資金ノ充實ヲ命セリ抑此種ノ會合ハ千九百八年ノ金融市場調査以來度々開催セラレ其都度帝國銀行ハ各金融業者カ平素過度ノ融通ヲ爲シ間々信用ヲ濫用スル弊アルヲ戒メ來リシカ因襲ノ久シキ容易ニ改善ノ望ナクアガテイル事件中モ絶エス各種ノ警告ヲ與ヘテ恐慌ノ蔓延ヲ防壁セント試ミシカ如何ニセシ當時各銀行カ保有セシ準備資金ハ借方ノ百分七ニ過キスシテ市況ノ輕微ナル動搖ニサヘ耐エ得サル程ナリシカハ今回ハ斷乎タル決心ヲ示シ夫レトナク將來ノ大戰ニ對スル準備開始ヲ暗示セシナリ

此會合ニ於ケルハ「ヴゲンシユタイン氏ノ訓示演說ハ固ヨリ堅ク秘密ニ附セラレ今日ト雖之レヲ知ルニ由ナキカ當時獨逸ノ新聞雜誌ハ何レモ同氏ノ勸說ハ政府ノ意志ニ出テシモノト信シ暗々裡ニ對戰準備ノ要ヲ切論セルモノアリキ其主タルモノ次ノ如シ

千九百十二年四月ノ「エステルライヒツシエル」フオルクスウイルト「誌ハ「ヴゲンシユタイン氏ノ銀行、取引所及諸金融取引ニ關スル宣言ナリト稱スルモノヲ掲載シ「吾人ハ獨逸政府カ銀行及金融制度ノ改正ニ付斷然タル決心ヲ有スルヲ知ル」ト論シ帝國銀行ノ重役「フカン、リユンム氏ハ獨逸銀行組合ノ機關雜誌タル「バンク、アルヒーヴ」ニ於テ「ヴゲンシユタイン氏ノ主張ヲ支持シ間接ニ氏ノ方策ヲ以テ政府ノ指令ニ出テシコト及此改革ノ實行ハ頗ル急速ヲ要スヘキ旨ヲ暗示シ次ノ如ク結論セリ「吾人ハ將來ノ戰爭ニ於テ資力ノ充實

カ猶兵備ノ完成ニ比スヘキ國防上至重ノ要件タルヲ忘ル可カラズ數十年ノ長キ間平和ノ情
 眠ヲ貪リシ我同胞ハ祖國ノ現勢ニ付毫モ危懼セサルモノノ如キモ千九百十一年ノ事件ハ國
 際戰爭ノ如何ニ急激ニ爆發スヘキヲ證シテ餘アルニアラスヤ國ヲ愛スルノ士ニシテ一度想
 ナ茲ニ走センカ誰カ金融上ノ對戰準備ノ一日モ忽ニスヘカラサルヲ覺ラサラン況ンヤ身自
 ラ財界ノ要局ニ立テル者ニ於テハ宜シク軍人カ軍事ニ盡スト同一ノ覺悟ヲ以テ我經濟改善
 ノ法ヲ講シ以テ國難ニ備フルノ決心ナカル可カラズ云々ト

千九百十二年三月ノ「テイー、バンク」誌ハ帝國銀行總裁ノ宣言ヲ評論シ次ニ當時屢風評セ
 ラレシ流説即チモロツコ問題ノ沸騰セシトキ獨逸皇帝陛下ハ諸大銀行家ヲ召シテ獨逸市場
 カ果シテ此大戦ニ耐ユヘキ資力アリヤト問ヒ給ヒシニ何レモ否ト奉答セシヨリ頗ル御不滿
 ノ體ニテ朕カ次回ニ此問ヲ發セン時ニハ必ス別様ノ返事ヲ期待スルナラント宣ヒシコトヲ
 揭ケ「帝國銀行總裁ノ努力ハ來ルヘキ皇帝ノ勅問ニ對シ諾ト奉答センカダメナリ」ト言ヘ
 リ

言論界ノ風潮右ノ如キノミナラス實際社會ノ趨勢モ頓ニ一變シ獨逸貨幣市場ノ獨立ヲ圖リ
 千九百十一年八月及九月ニ於テ嘗メ辛楚ヲ再ヒ繰返ササラントノ企圖ハ其後久シカラズ
 シテ獨逸上下ノ國論トナリ此熾烈ナル愛國心ハ金融業者等ヲシテ銳意外國資本ノ返濟ニ勗
 メシメ其效果甚々見ル可キモノアリ千九百十三年ノ割引組合ノ報告ニ據ルモ「諸大銀行業
 者等ハ外國資金ノ短期借入ヲ中止シ獨逸ハ外國資本ノ援助ナクシテハ其經濟及產業ヲ保持
 シ得サルヘシトノ諸外國ノ侮蔑ヲ事實上ニ反駁セリ」トノ一節アリ帝國銀行カ希望セシ外

資驅逐策ハ右ノ如クシテ殆ト豫期セル成功ヲ收メ得シナリ

第二ノ缺點即チ準備資金増加ノ問題ハ之レカ實行ニヨリ預金利用ノ範圍及取引額ノ甚々シ
 ク制限セラレテ其極遂ニ收利ヲ減退スルヲ以テ改革ノ進行思ハシカラス何レノ銀行モ獨リ
 先シテ之レヲ行ヒ忽チ大ナル損失ヲ蒙ルヘキヲ顧慮シテ狐疑逡巡決スル所ナク或ハ銀行間
 ニ一ノ「カーテル」ヲ組織シ共同シテ之ヲ斷行スヘシト説クモノモアリシカ柏林銀行ト地
 方銀行、個人銀行ト株式銀行トノ間ニ利害ノ衝突アリテ此計策モ水泡ニ歸シ曠日彌久何等
 改善ノ跡ヲ見サリシカハ「ハーヴェン」氏モ忿懣ノ餘リ法律ノ力ヲ借りテ之レヲ強
 制セント迄聲言シ獨逸政府及帝國議會ハ必スヤ總裁ノ提議ヲ容ルヘキ形勢ナリシヲ以テ銀
 行業者等モ大ニ狼狽シ寄り寄り之カ實行策ヲ研究セシモ千九百十二年九月ノ「ミュンヘン」
 銀行會議後迄ニハ何等具體的成案ナク唯右會議ニ於テ帝國議會急進社會黨領袖フリブル
 ヒ、エン、ブリスガウ教授及英露通名アルフオン、シエルツエ、ヂユヴェルニツク氏等
 ノ演說中ニ英佛協商カ佛國ノ復讐心ヲ刺戟セシ以來戰爭ノ危險ハ遽ニ加ハリ今ヤ民主社會
 黨サヘモ國難ノ近カラントト確認セルコト及大戦一度起ランカ帝國銀行ハ内ニ向ツテハ
 巨億ノ戰費ヲ調達シ且ツ戰時恐慌ヲ鎮定スヘキ責務アルト共ニ外ニ對シテハ貧困ナル同盟
 諸國ニ貸出ヲ爲ササル可カラサル立場ニアレハ其任務ノ重大ナル到底現狀ニテハ能クスヘ
 キニアラス乃チ帝國銀行總裁ノ訓示セシ財界刷新策ハ一日モ早ク之レカ實行ヲ圖ラサル可
 カラサルコト等ヲ縷述セシヲ傳フルノミ斯クシテ準備資金充實ノ企圖ハ今次大戦開始間際
 タル千九百十四年六月中旬迄何等實行ノ運ニ至ラザリキ

帝國銀行ノ金貨準備(一)

帝國銀行ハ諸銀行ニ對シテ準備資金充實ノ要ヲ勸奨スルト共ニ先ツ自ラ金貨準備ノ増加ヲ企畫シ紙幣發行ノ基礎ヲ鞏固ナラシメント期セリ
 由來佛國ノ如キ債權國ニ於テハ金貨ハ常ニ市場ニ盈溢シテ中央銀行ノ正貨吸收モ易々トシテ行ヒ得ルカ獨逸ノ如キ何レカト言ハハ國際勸定ノ仕拂上債權者タルヨリモ寧ロ債務者ノ側ニ立ツコト多キ國ニテハ紙幣發行銀行ノ正貨集中ニ障害少カラス故ニ千八百九十五年ヨリ千九百十年ニ至ル間ニ佛蘭西銀行ノ金貨準備カ十億法ノ増加ヲ爲セシニ拘ラス帝國銀行ノ正貨準備ハ寸毫モ増加セス而シテ千九百十三年中ノ如キ外國爲替相場ノ常ニ逆戻ナリシニモ拘ハラス帝國銀行ハ金ノ輸入ヲ強行シ三億二千四百萬麻克ノ準備額ヲ増加セシカ之レカタメ結局二十五萬麻克ノ損失ヲ蒙ルニ至リシト言フ(尙獨逸カ輸入セシ金貨ハ千九百十一年ニハ一億七千八百萬麻克、千九百十二年ニハ二億五千萬麻克、千九百十三年ニハ三億二千四百萬麻克ニシテ三年間ノ合計七億五千二百萬麻克ニ達セシ由ナリ)
 帝國銀行カ斯ル損失ヲモ顧スシテ金ノ吸收ヲ敢行セシコトニ就キ英國知名ノ銀行家サー、エドワード、エツチ、ホルデン氏ハ其意氣ヲ壯トシテ曰ク「正貨輸送點ノ一度モ現出セシコトナキ間ニ換言セハ經濟學ノ示ス總テノ法則カ金ノ輸入ヲ許ササルニモ拘ハラス斷乎トシテ之レヲ實行セシ獨逸ノ眞意ハ一旦緩急アルニ際シ戰費ノ支出上克ク巨億ノ紙幣ヲ増發シ得ンカタメニ必要ナル基本ヲ造ラントスルニ外ナラサルモノニテ固ヨリ平凡ナル財政家及銀行業者等ノ思ヒ及フ所ニ非サルナリ」云々ト

蓋シ帝國銀行ノ此方策ハ法制上保證準備ノ三倍額迄紙幣發行權ヲ附與セラレル關係アリ金ノ購入ニヨリ假令多少ノ損失ヲ蒙ルトモ之レニヨリ銀行ノ資力ヲ三倍以上スルモノナレハ多少ノ犧牲ノ如キ之ヲ忍ブモ敢テ不可ナキナリ

帝國銀行ノ金貨準備(二)

帝國銀行カ金貨準備ヲ増大セントスルヤ單ニ外國金貨ノ輸入ノミナリテ満足セス國內ニ流通セル正貨ニモ着眼シ財界ノ常調ヲ紊ササル程度ニテ之レカ聚集ヲ計ラント欲セリ
 當時市場ニ流通セシ麻克金貨ノ總額ハ二十億麻克乃至二十二億麻克ニシテ學者中ニハ奧洪國、亞爾然丁、英領印度等ノ事例ヲ引キテ此際寧ロ國內ノ取引ニハ一切紙幣ヲ用キ金貨ハ之レヲ中央銀行ノ庫中ニ收メ以テ事アルノ際ニ三倍額ノ資金急造ノ基源ヲラシム可シトサヘ論セシ者アリシカスカル過激ナル方策ノ固ヨリ急ニ實行セラル可キ筈モナク帝國銀行ハ二十麻克及五十麻克ノ紙幣ヲ發行シテ徐々トシテ之レカ引上ケテ行ハント決セリ
 抑千九百六年ニ至ル迄ノ獨逸法律ハ帝國銀行ニ對シ百麻克紙幣ノ發行ヲ認ムルノミナリシカ第一回モロツコ問題ノ起リシ際ヨリ政府ハ帝國銀行ニ對シ豫メ政府ノ許可ヲ經ヘキコト及三億麻克ヲ限度トナスコトノ二條件ノ下ニ二十麻克及五十麻克紙幣ノ發行ヲ認許シ巴爾幹戰爭中ノ如キ之レニヨリ獨逸ノ通貨ハ意外ノ屈伸力ヲ加ヘシナリ
 尙巴爾幹戰爭カ獨逸當局者ニ戰時經濟ノ禍害カ如何ニ恐ル可キカヲ感知セシメシコトハアガテイル問題ニモ超ユルモノアリ當時列強間ノ關係險惡トナルヤ貯財熱四方ニ起リ奧洪國市場ノ如キハ本來流通額ノ甚々僅少ナル金貨カ姿ヲ隱セシハ言フモ更ナリ銀貨及白銅サヘ

モ續々潛藏セラレテ千九百十四年ノ春ニ至ル迄正貨ノ影ヲ市場ニ見サリシ始末ニシテ獨逸ノ「パニツク」ハ之ニ比スレハ甚々微弱ナリシトハ言ヘ尙シユレシエンニテハ銀行ノ破産續出シ東部普魯西ニテハ貯蓄金庫ノ取附所々ニ起リテ帝國宰相ノ緩和的訓電モ何等ノ效果ナク銀行及貯蓄金庫ヨリ引出サレシ金額ハ五億麻克ニ達セル等其混雜名狀スヘカラサルモノアリキ

恐慌ノ火ノ手漸ク熾烈トナルヤ各銀行及諸金融機關ハ何レモ準備資金ノ増積ヲ怠リシ際トテ唯百方帝國銀行ニ哀訟シテ其救援ヲ受ケントスルノミニシテ帝國銀行ハ千九百十二年中ニ苦心シテ輸入ヲ圖リシニ億五千萬麻克ノ外國金貨ヲ戰爭突發前後ノ二箇月間ニ悉ク吐出スノ已ムナキニ會セシノミナラス保證準備額ハアワヤ法定最低額タル發行紙幣ノ三分一ニサヘ達セントシ形勢ハ刻々ニ險惡トナリ到底前年ノ比ニ非ス小額紙幣ノ制限(三億麻克)外發行ニヨリ纔ニ此逆勢ヲ喰止メ得タル有様ニテ之レニヨリ獨逸ノ識者等ニ將來大戰ノ爆發セシトキ中央銀行ノ市場救濟力如何ニ困難ニシテ金貨準備充積ノ要頗ル大ナルコト及外國ヨリ金ノ輸入ヲ圖ラサル可カラサルコト等ヲ痛切ニ感シ戰時貯財熱ノ意想外ニ虞ルヘキヲ目撃セシ獨逸當局者ハ更ニ一段ノ熱心ト努力トヲ以テ金融改革ノコトニ從ヒシナリ

千九百十三年一月ハ「ヴゲンシユタイン」氏ハ戰後財界整理ノタメ先ツ國內ニ在ル金貨ヲ蒐集セント圖リ帝國議會ヲシテ小額紙幣ノ發行制限ヲ撤去セシメ次ニ各種ノ方策及運動ヲ以テ愛國の見地ヨリ公衆ニ金貨ノ提供ヲ迫リ當時會々一世紀前ノ戰捷紀念祭等各所ニ行ハレシナ機トシテ盛ニ商工業者ヲ勸説シ其結果「ケルツプ」「テイツセン」ハ率先シテ貨銀ノ仕拂ニ

ハ小額紙幣ノミヲ使用スルコトヲ決シ各地ノ商業會議所ハ一般ノ工場及商店ニ對シテ「クレ」
「テイ」ニ社ニ模倣スヘキヲ勸奨シ「デュツセルドル」フ商業會議所ハ公然ト是獨逸軍裝(Kriegs-
rüstung)ノタメナリト叫ビ獨逸商工業者ノ有力者ヲ網羅セル獨逸商業會議(Deutscherhand-
elstags)及伯林ノ大商業者組合ハ銀行ノ仕拂ニハ得意先ノ特別意志表示ナキ限り紙幣ヲ用キ
シメンコトヲ勸告スル等舉國一致中央銀行ノ金貨集積ニ竭力ヲ始メタリ

民間ノ意氣込右ノ如クナルニ加ヘ政府モ千九百十三年一月ヨリ先ツ鐵道會計ニハ已ムヲ得
サル場合ノ外ハ一切紙幣ヲ使用スルコトトナシ同年四月ヨリ郵便局ノ仕拂ハ總テ紙幣及銀
貨ノミヲ用キルコトト定メ一般官吏ノ俸給モ亦金貨ニテ仕拂ハサルコトト決セシ故帝國銀
行ハ久シカラスシテ金貨準備ヲ充積スルヲ得三月ニハ早クモ「ハーヴゲンシユタイン」氏ヲシ
テ商工業者ノ努力ヲ感謝セシムルニ至リ千九百十三年十二月三十一日ニ於ケル帝國銀行ハ
金貨準備總額ハ前年末ニ比シ實ニ四億麻克ノ増加ヲ示シ隣國爲政家ヲシテ獨逸人ノ規律及
服從心ノ威力ニ驚嘆セシムルモノアラシメキ

正貨集中ニ關スル帝國政府ノ計策ハ右ニ掲ケシモノニ止マラスシテ更ニ一步ヲ進メテ戰爭
基金ノ増加ヲ企テ千九百十三年四月帝國議會ニ提出セシ大軍備擴張ニ伴フ十億麻克ノ非常
軍事稅ノ新課ト共ニ「シユパンダウ」戰争金庫ニ金銀貨各一億二千萬麻克ツツチ加フルコト
トシ獨逸ノ貨幣政策ハ明カニ軍事計畫ノ一部ナルヲ公示セシメタリ所謂獨逸ノ戰爭基金ナ
ルモノハ普魯西時代ヨリ學者ノ常ニ非難セシトコロニシテヒエームノ如キモ之ヲ以テ笑フ
可キ愚策ナリト迄嘲リシコトアリ今日更ニ此愚策ヲ復活セシムルカ如キハ甚々謂ナキニ似

マレトモ獨逸政府ノ意志ハ之ヲ以テ直接戰費ノ仕拂ニ使用セントスルモノニ非ス開戦ト共ニ帝國銀行ノ保證準備中ニ組入レ以テ三倍額ノ紙幣ヲ發行セシメントスルニアルヤ多言ノ要ナク而シテ銀行ノ金貨準備ハ恐慌ノ襲來スル度毎ニ減退スルヲ免レサルカ戰爭基金ハ平時ニ於テハ如何ナル理由アルモ之ヲ引出シ得サルモノナレハ對戰準備ノ基金トシテハ中央銀行ノ準備金ニ比スヘクモアラス獨逸當局カ戰爭基金制度ト近世銀行制度トヲ結合シテ古來無意味ナリト稱セラレシ「シユパンダウ」塔下ノ基金ヲシテ開戦ト共ニ七億二千萬麻克ノ紙幣ニ化セシメント企圖セシハ豈獨リ吾人ノ激賞ニノミ値スルモノナランヤ

戰時金融動員ニ關スル法規ノ制定

獨逸政府カ今次大戰開始ト共ニ公布セシ戰時財政及金融ニ關スル千九百十四年八月四日ノ諸法律ハ何レモ千九百十二年中ニ立案セラレシモノナルコトハ今ヨリ之レヲ推斷スルモ大ナル過誤ナキカ如シ

爰ニ吾人カ立案ト稱スルハ愈々政府ノ確定議トシテ法規ノ制定ニ著手セシコトヲ意味シ所謂草案トシテ官民ニヨリ研究討議セラレシヲ指スニ非ス即チ千九百七年ノ銀行家會議及千九百八年ノ銀行制度改正法案ノ議會委員會ニ於テモ已ニ此事ニ論及セシコトアリ又獨逸金融界ノ名士ニシテ「ハンザ、ブンド」ノ會長タルリツセル氏カ千九百九年ニ著セシ *Finanzielle Kriegsbereitschaft und Kriegsführung* ナル書ニハ詳細ニ獨逸ノ戰時財政及金融計畫ヲ論シ其所説悉ク實現セラレサルハナキ有様ナルカ此等ハ何レモ政府ノ成案トシテ討究セラレシニ非ラス政府カ愈々金融動員ヲ計畫シ始メシハモロツコ問題以後ナルコト次ノ事項ニ

ヨリテモ之レヲ知ルニ難カラサランカ

發行銀行頭取マウリス、フォン、ストレル氏カ千九百十一年バイエルン發行ノ「パンク、アルヒーズ」ニ論セシ所ニ曰ク「獨逸ニシテ千八百七十年ノ戰爭ノ如ク歐洲ノ一箇國ノミヲ相手トシテ戰フ時ハ戰期ハ頗ル短カル可ケレハ戰爭基金及帝國銀行ノ屈伸力ノミニヨリテ戰時財政ヲ支持セシメ得ヘク隨テ平時ノ銀行及金融事項ニ關スル制度ヲ其儘ニ存續シ中央銀行ノ兌換制度ノ如キ別段之レヲ停止スルニモ及ハサル可キモ若シ二箇國以上ノ敵ヲ受クルニ及ハンカ軍資ノ額及財界ノ動搖ハ眞ニ測知スヘカラサルモノ存スヘク獨逸ハ最後ノ一人及最終ノ一麻克ヲ盡ス迄戰フノ決心ヲ有セサル可カラサレハ戰時ノ財政及金融策トシテハ先ツ兌換ヲ停止シテ發行銀行ヨリ金ノ放出ヲ阻止セシメ帝國銀行ノ貸借對照表ノ公告ヲ中止シ三分一保證準備ノ制限ヲ撤廢シ(此ニ方法ハ實行スルニ至ラサリキ)銀行券、帝國金庫券及銀貨ニ強制通用力ヲ附與シ「シユリウス」塔下ノ戰爭基金ヲ帝國銀行ノ準備中ニ移シ貸附金庫ヲ設立シ以テ通貨ノ膨脹ヲ圖ラサル可カラス何トナレハ帝國政府ノ調査ニ據ルニ戰時市場カ必要トスル通貨ノ總額ハ平時ノ二倍ニシテ百億麻克乃至百二十億麻克ニ達ス可シト言ヘハナリ」云々ト氏ハ復戰爭開始ト共ニ小額紙幣發行ノ要ヲ説キモロツコ事件ノ經驗ハ我戰時財政及金融策ハ以上説述セシ所ノ外ニ出ツヘカラサルヲ示セリ」ト論シ今次ノ大戰開始後獨逸政府カ實施セシ諸法規ニ付明確且ツ精密ニ縷説シ吾人ヲシテ獨逸ノ對戰準備ナルモノカ此時始メテ具體的成案トナリシヲ信セシムルト共ニ其企劃カ決シテ一朝一夕ノ思着ニアラスシテ學者及實際家カ長キ苦心ノ末始メテ成リシモノナルヲ知ラシメタリ

要之ニ獨逸當局ノ施設セシ跡ヲ尋ヌルニ各種ノ方便形式ヲ以テ巨額ノ紙幣ヲ急造スルト共ニ「モラトリウム」法律ノ公布ヲ無用ナラシメ斯クシテ政府ノ戰費仕拂ニ便セシメ經濟社會ノ常態ヲ失ハサラシメ商業ノ停滯ヲ豫防シ預金銀行及貯蓄金庫ニ二百九十億麻克ノ預金ヲ供託セル公衆ヲ惑ハサラシメ中立諸國ニ對シ獨逸經濟ノ頗ル好況ナルヲ信セシメント圖レルモノニテ不換紙幣濫發ニ對スル古來ノ非難ヲ顧慮セスシテ銀行券及金庫券ノ增發ヲ斷行セシハ固ヨリ戰期ノ短カルヘキコトヲ豫想シ外國ニ於ケル獨逸紙幣ノ下落救濟ニ付テハ中央銀行ノ集中金貨ヲ機ニ應シテ送付スルコトトシ國內ニ於ケル通貨ノ膨脹ヲ阻止センカタメニハ適當ノ時期ニ戰時債ヲ發行シテ之レヲ吸收セント圖リシニ由ラスンハアラサルナリ

帝國銀行ノ對戰準備

獨逸政府ノ對戰準備ハ國內資力ノ本據ヲ帝國銀行ニ置キ飽迄之レカ根基ヲ強大ナラシメ其集中資力ニヨリテ克ク内外經濟ノ波瀾ヲ調節セントセシモノナルカ對戰準備ノ開始セラレシ千九百十一年末ト其凡ソ完結ニ近ソキシ千九百十三年末トニ付貸借對照表ヲ比較セハ此間ノ消息一層明白ナルモノアリ即チ千九百十三年十二月三十一日ノ金貨準備ハ千九百十一年末ニ比シ四億麻克ヲ增加シテ十四億四千六百萬麻克トナリ之レニ反シ紙幣ノ發行額ハ比較的増加セスシテ發行餘力ハ千九百十一年ノ八億麻克ニ對シ實ニ二十億麻克ニ達シ而シテ千九百十四年ニ入りテヨリ此情況ハ一層佳良トナリ七月二十三日ノ貸借對照表ニ據レハ保證準備十七億五千六百萬麻克中金貨ハ十六億九千百萬麻克ニシテ紙幣流通額ノ十八億九

千萬麻克ニ對比セハ實ニ三十三億五千八百萬麻克ノ發行餘力ヲ有シ帝國銀行設立以來未曾有ノ盛況ヲ呈シ萬人ノ期待ヲ超越セシモノアリキ

尙獨逸市場ハ他ノ諸市場ト等シク年末ニハ金融逼迫シテ發行銀行ノ金貨準備額減少シ紙幣發行額ハ増大スルモ六月頃ニハ金貨ノ集積額常ニ多クシテ紙幣ノ流通額甚々少ナキ際ナレハ前述ノ如キ好況モアナカチ驚異スルニ足ラサルナリ

帝國銀行貨幣政策ノ實効ハ戰機ノ切迫セシ七月二十三日ヨリ同三十一日迄ノ間ニ貯財ニ熱中スル者ニヨリ兌換ヲ請求セラレシ額二億五千萬麻克ニ達シ戰爭基金ノ移入ニヨリテ纒ニ戰前ノ準備額ヲ保持セシメ得タルニ見ルモ之ヲ知ル可ク世上往々獨逸ノ計策ニ付彼此非難スル者モ少ナカラサルカハ「ヴァーゲンシュタイン」氏等ニヨリ計策セラレシ金貨吸收策ヲ開戰以來眞ニ豫言者の權威ヲ有シ著々時局ノ難關ヲ救フハ吾人ノ苟モ閑却シ得サル所ナリ

千九百十四年

獨逸政府ノ戰爭計畫ハ千九百十三年中ニ概子結了シ千九百十四年ニ入りテハ何等新施設ノ認ムヘキモノナク唯々民間商工業者カ戰爭ノ徵候ヲ察知シ夫レトナク用意スルトコロアリシノミナリ左ニ之レニ關スル一二適例ヲ掲ケントス

漢堡ノ「ヤヌス」生命保險會社ハ一月ノ重役會議ニテ巴爾幹戰爭以來歐洲平和ノ攪亂セララルル危險一層加ハリシヲ以テ佛國ニ於ケル保險契約ヲ悉ク瑞西ノ保險會社ニ讓渡スルコトニ決セリトノ趣チ三月初旬巴里ノ被保險者ニ對シ回狀ヲ以テ通達セリ巴爾幹戰爭ノ終末ニヨリ歐洲ノ平和カ再ヒ保持セララルルニ至リシ際ニ斯カル通告ヲ發セシハ想フニ會社カ政府筋

ヨリ何等カ聞知スル所アリシニ由ランカ

次ニ銀行ノ準備資金ニ關シテハ先年「ハーヴェン」氏ノ訓示アリシニモ拘ハラスミ
ユンヘンノ會議ハ之ニ付何等議決スルニ至ラスシテ解散シ千九百十三年中ニハ銀行「カー
テル」ノ計畫サヘ傳ヘラレシカ是亦實行ニ至ラスシテ止ミ資金増加ノコトハ何時實現セラ
ルヘシトモ見エサリシカ千九百十四年ノ春ニ至リ伯林諸大銀行ノ準備資金ノ總額ハ借方ノ
百分五ニ過キササル有様トナリ最早一日モ猶豫スヘカラサル情態トナリシカハ六月十六日帝
國銀行總裁ハ再ヒ各銀行ノ頭取ヲ呼集シ準備資金ノ充實ニ關シ嚴命スル所アリキ

總裁ノ訓達ノ嚴ナル軍令ニモ比スヘキモノアリシハ當時各銀行カ今更ノ如ク態度ヲ改メシ
ニヨリテ之ヲ察スヘキカ訓示ノ内容ニ至ツテハ一切秘密ニ附セラレテ之ヲ知ル可カラス六
月十七日ノ北獨逸新報ハ右ハ向後二箇年内ニ準備資金ノ總額ヲ借方ノ百分十二迄増加スヘ
シトノ命令ナリト報セシカ必スシモ信憑ス可カラス又七月十五日ノ「バンクアルヒーヴ」ニ
於テリーセル氏カ本問題ニ關シ論セシ後「來ル可キ恐慌ノ危險 (Krisengefahr)」ヲ豫防セ
ンカタメ少額ノ損失ヲモ忍ンテ準備スルハ吾人ノ義務ナリ」ト云ヘルカ如キ當時世上ニハ
何等恐慌ノ來襲ヲ推知シ得ヘキ徵候ナク唯々六月二十八日墮國皇太子ノ暗殺セラレシコト
アリシノミナルハ何ソ恐慌ノ所謂戰時恐慌ナルヲ間接ニ暗示セシモノト言ハサルヲ得ンヤ

末尾

以上ハ外部ニ現ハレシ事實ヲ基礎トシテ獨逸ノ財政及金融上ニ關スル對戰準備ヲ略述セシ
モノナルカ固ト詳細明確ナル研究ハ戰後ニ及ヒテ始メテ試ムヘク今ヨリ之レヲ企圖ス可キ

ニ非ラス唯々之ニ依リテ今次大戰開始前ニ於ケル獨逸ノ努力カ如何ニ大ナルモノアリシヤ
ヲ世上ニ知ラシメ得ハ吾人ノ本懷之レニ過キササルナリ

第九 敵國人ノ特許權其他ニ關スル規則制定

(大正四年七月十一日著在和蘭帝
國特命全權公使幣原喜重郎電報)

獨國ニ於テハ七月一日聯邦議會令ヲ以テ敵國人ノ特許意匠商標ニ關スル規則ヲ又翌二日附
閣令ヲ以テ施行細則ヲ制定發布セリ該規則ニヨレハ敵國人ニ屬スル特許權意匠權及商標權
ハ行政處分ヲ以テ之レヲ制限シ又ハ消滅セシメ若クハ單ニ行使及利用ヲ許與スルコトヲ得
ヘク右行政處分ハ遡及力ヲ有スルコトアルヘシ尙本令ハ英、佛、露三國ニ對スル報復手
段トシテ右三國人ノミニ適用セララルヘキモ報復ノタメ必要アラハ其以外ノ國人ニモ適用セ
ラルヘシ又露國人ノ特許ハ本年三月十一日ヨリ消滅セルモノト見做スノ特別規定アリ法文
ハ郵送ス

第十 戰爭損害ノ届出ニ關スル件

(獨逸「ベルリナー、ロカール、アンツア」
イガール」千九百十五年四月十八日掲載)

現下戰爭ニ因リ生シタル損害ハ從來各關係者ヨリ諸官廳ニ届出テタルカ右損害事務ヲ統一
的ニ管理スル爲中央當局者ハ今回右損害届出ノ所管方ニ關シ左ノ如ク決定シタリ

(一) 敵國軍隊カ獨逸帝國內ニ侵入シ因テ生シタル損害ハ當該地方官ニ於テ之ヲ取扱フ

(二) 敵ノ戰爭行爲ニ因リ獨逸保護領内ニ生シタル損害ハ帝國殖民省ニ於テ之ヲ所管ス但
シ膠州保護領ノ關スル限リハ帝國海軍省ニ於テ之ヲ所管ス

(三) 敵國ニ於ケル獨逸個人カ敵國人民又ハ敵國官廳ノ暴行ニ因リ其財産又ハ生命身體ニ
加ヘラレタル損害ハ敵國ニ在ル獨逸個人ニ對スル暴行取調帝國委員會ニ於テ之ヲ處理
ス同委員ハ其事務所ヲ柏林西郵第三十五區ホツグマー、ストラーセ三十八番地第
三層ニ設ク敵國ニ於ケル獨逸人カ沒收、強制、清算等ノ如キ敵國政府ノ立法的命令ニ因
リ被リタル財産上ノ損害ニ付テモ亦同シ

(四) 獨逸海船又ハ海船上ニアル獨逸載貨ノ沒收又ハ抑留ニ關スル損害ハ帝國內務省第三
部ニ届出ツヘシ内地航海ニ關スル損害ハ第三項ニ掲ケタル帝國委員會ニ於テ之ヲ所管
ス

(五) 仕拂猶豫、仕拂禁止、沒收等ノ如キ敵國政府ノ立法的手段ニ因リ敵國ニ在ル獨逸人
ノ請求私權ニ生シタル損害ハ爾後届出ツルニ及ハス何トナレハ此種請求權ハ平和談判
ノ際有ユル法律的救濟手段ニヨリ完全ニ之ヲ復舊センコトヲ期スレハナリ敵國政府ノ
干渉ニ因リ獨逸人ノ敵國政府ニ對シテ有スル私法上ノ請求權、獨逸人ニ與ヘラレタル
各種讓與、竝ニ獨逸人ノ特許權及著作權等ニ生シタル權利損害ニ付テモ亦同シ

第一項ヨリ第四項ニ至ル種類ノ届出ニシテ已ニ届出テタルモノハ夫レ々々當該官廳ニ廻付
シタルヲ以テ再届出ニ及ハス爾今届出ツル分ハ事實ヲ簡明ニ記載シ可及的精密ニ損害ヲ申
立ツヘシ獨逸所有者カ其自由處分ヲ奪ハレ(殊ニ財産差押ニ因リ)タル物件又ハ同物件ノ殘
存ニ關シ何等知ル處ナキモノニアリテハ同物件ノ價格、殘存場所、竝ニ保管ヲ依頼シ置キ
タル人等ヲ詳記セル特別目錄ヲ提出スヘシ
總テ此等ノ記載ハ良心ニ從テ之ヲ爲スコトヲ要ス必要ノ場合ニハ關係者ハ宣誓ニ由リテ記
載ノ眞正ナルコトヲ確保スヘシ又可成記載事項ヲ自己ノ知識ニヨリ證明シ得ル證人ヲ舉ケ
其氏名及住所ヲ附記スヘシ

土耳其國法令

土耳其國法令

第一 海戦法規ノ適用ニ關スル件

- (一) 蘇士運河ヲ交戦區域トスルコトニ關シ土國ノ中立國ニ對スル通牒

(五月二十九日ロンドン、タイムス)

SUEZ CANAL, A "WAR ZONE."

TURKISH NOTE TO NEUTRAL POWERS.

Amsterdam, May 28.

According to a telegram from Constantinople received in Berlin, the Porte has addressed the following circular Note to friendly and neutral Powers:—

In view of the fact that the British Government has not respected the obligation undertaken towards neutral Powers by the Convention of 1888 to keep no warships in the waters of the Suez Canal, but has now fortified the Canal, while the French Government has landed troops in Egypt for hostile purposes

土耳其國法令

against the Ottoman Empire, the Imperial Ottoman Government by these acts finds itself compelled to take military measures for the protection of its Imperial territory of which Egypt forms a part and to extend hostilities to the Suez Canal.

The Note adds that if these measures prejudice neutral ships or goods, it is clear that the responsibility will lie with the French and British Governments.—
Reuter.

第二 交戰國領事官及臣民ニ對スル内閣ノ決議

DECISION DU CONSEIL DES MINISTRES CONCERNANT LES CONSULS ET LES SUJETS DES PUISSANCES EN ÉTAT DE GUERRE AVEC LA TURQUIE,

27 NOVEMBRE 1914.

1° En égard à la conduite contraire à toutes les règles du droit des gens du gouvernement russe envers les consuls et les sujets ottomans, non seulement en Russie, mais même en Perse, le gouvernement ottoman interdira le départ des consuls et sujets russes se trouvant en Turquie. Ils seront dirigés vers l'intérieur

du pays et ne seront autorisés à partir que lorsque tous les consuls ottomans se trouvant en Russie retourneront en Turquie. Pour chaque consul ottoman emprisonné en Russie, la Turquie fera emprisonner deux consuls russes de même rang.

2° Il sera défendu aux sujets anglais et français de quitter la Turquie. Excepté les suspects, qui seront obligés d'habiter l'endroit que le gouvernement leur assignera, tous les autres seront laissés libres.

Les consuls français et anglais arrivant de l'intérieur vers le littoral pour rejoindre leurs pays respectifs ne seront pas autorisés à partir tant que la Turquie n'est pas fixée sur la politique que la France et l'Angleterre suivront à l'égard de ses propres consuls. Les sujets belges seront libres de rester ou de partir suivant leur convenance.

3° Les mesures visant les Russes seront textuellement appliquées aux Serbes et aux Monténégrins.

第三 敵國ニ對スル郵便電信ノ停止及中立國外交官領 事官ノ通信取締ニ關スル件

DECISION DU CONSEIL DES MINISTRES AU SUJET DES COMMUNICATIONS POSTALES ET TÉLÉGRAPHIQUES AVEC LES ETATS ENNEMIS, 27 NOVEMBRE 1914.

- 1° Les communications postales et télégraphiques avec des pays des Etats ennemis sont suspendues. Il ne pourra par conséquent pas être expédié de ces pays des lettres et des dépêches à destination de la Turquie, et vice-versa. Sont également interdites les correspondances avec les pays ennemis par voie de transit.
- 2° Les lettres privées à échanger à l'intérieur et avec l'étranger devront être ouvertes.
- 3° Les ambassadeurs et ministres accrédités des pays neutres peuvent échanger des télégrammes chiffrés avec les ministères des affaires étrangères des Etats dont ils relèvent, ainsi qu'avec les ambassadeurs et ministres accrédités de leurs gouvernements auprès d'autres Etats neutres. Toutefois, ces télégrammes seront expédiés avec l'autorisation du ministre des affaires étrangères.
- 4° Les consuls ne peuvent pas adresser des correspondances chiffrées à leurs ambassadeurs et ministres accrédités, et vice-versa.
- 5° Les ambassadeurs pourront échanger leurs correspondances sous pli

cacheté avec les ministres des affaires étrangères de leurs gouvernements respectifs, ainsi qu'avec les représentants diplomatiques de leurs gouvernements auprès d'autre Etats neutres.

- 6° Les consuls aussi peuvent échanger des lettres fermées avec leurs ambassadeurs respectifs, sous certaines conditions.
- 7° Les correspondances doivent être libellées en turc, en arabe, en arménien, en grec, en hébreu, en allemand, en français, en américain ou en italien.
- 8° Les ambassadeurs et les consuls ne pourront échanger des lettres privées fermées avec aucune autorité, soit dans le pays, soit à l'étranger.

第四 土耳其政府ノ治外法權撤廢聲明

(大正三年九月十一日附報告)

土耳其政府ハ列強ニ對シ千九百十四年十月一日ヲ期シ從來存在セシ治外法權ヲ撤廢スル旨聲明シタルモノノ如ク其通告ノ要點大略左ノ如シ

土耳其政府ハ歐洲人ニ對シテ有スル友情的精神ニ基キ通商ノ爲メ近東ニ來レル外國人ノ服従スヘキ規則ヲ定メ之ヲ列國ニ通告シタリ而シテ土耳其政府ノ意思ニヨリ採定シタル該規則ハ爾來特權ト解釋セラレ特種ノ形式ノ下ニ擴張ヲ見現今ニ至ル迄治外法權 (Capitulations)

土耳其國法令

pitulations)ナル名稱ノ下ニ繼續セラレタリ

該特權ハ近代ノ法律觀念並ニ國家主權ニ全然反對スルモノニシテ土耳其ノ進歩發達ヲ妨ケ且ツ列國トノ關係ノ誤解ヲ生セシメ國交ノ親密ヲ害セリ

土耳其政府ハ種々ノ障害ヲ排シ千八百三十九年詔勅發布以來更新改革ノ途ニツキ爾來之ヲ繼續シ歐洲文明團體中ニ適當ナル地位ヲ占ムル爲メ近代司法制度ノ基礎ヲ採用セリ

然レトモ治外法權ノ結果司法實施ニ外國人ノ參加又或ル法律カ外國人ニ適用セラレサルヨリ生スル立法權ノ制限並ニ國家安寧ニ危害ヲ及ホスヘキ犯罪モ其犯罪者カ單ニ外國人ナルニヨリ之レヲ追訴シ得サルノ事實ハ土耳其司法制度發達上非常ナル障害ヲ及ホセリ又治外法權ノ結果土耳其内ノ外國人ハ租稅免除ノ利益ヲ享有セリ該事實ハ改革實行上必要ナル財源ノ發見ヲ妨ケ國家經常費ノ充實スラ起債ニ待ツノ外ナカラシメタリ且ツ間接稅增加ノ不可能ナルヨリ土耳其政府ハ直接稅ニノミヨラサル可カラサルノ結果土耳其納稅者ヲ壓迫スルノ已ムナキニ至レリ

外國人ノ租稅免除ハ之ヲ認容シ得サル不公平ノ點アルノミナラス國家ノ獨立政府ノ威信ニ背クモノト云ハサル可ラス

之等ノ障害アルヲ以テ土耳其政府ハ改革ヲ實行スルニ決シタレトモ目下一般戰爭ハ國家財政ノ困難ヲ一層大ナラシメ決定セル改革モ遂ニ其效果ヲ見ハサスシテ終ルヤモ計リ難キ危險ヲ生セシメタリ

土耳其政府ハ國家發展唯一ノ方法ハ可成速カニ改革ヲ實施スルニアリト思フノミナラス

列國モ亦該方針ヲ獎勵セラルヘキヲ確信ス

此確信ニ基キ土耳其政府ハ從來國家發達ノ妨害タル治外法權並ニ前後總テノ免除特權ヲ千九百十四年十月一日ヲ期シテ廢止シ列國トノ關係ハ國際法ノ原則ニ遵據スヘキヲ決定シタリ

土耳其政府カ突如今回ノ聲明ヲ爲シタル真相ヲ知得スル事ハ頗ル至難ナリ今次戰局ノ開始以來中立ヲ宣言シタルニ拘ラス土耳其政府ノ態度ハ何時中立ヲ脫シ獨塊側ニ加擔シ戰爭ニ加入スヘキヤ頗ル疑ハシク其動員命令並ニタラットベイノアカレスト、ソフィア訪問及希臘トノ交渉等ハ土耳其ト獨逸トノ深厚ナル關係ニ鑑ミ益々其疑懼ヲ深カラシメタリ而シテ土耳其ノ態度ハ頗ル鮮明ヲ缺キ若シ戰爭ニ加入スルトセハ獨塊ニ加擔シ英露佛ニ對スルモノナルカ又或ハ單ニ希臘ニ對スルモノナルカ或ハ又雙方ニ對スルモノナルカ不明ニシテ國論モ一定セサルノ觀アリ特ニ最近ニ至リ若シ土耳其カ希臘ニ對シ宣戰シタル場合ニ於テハブルガリア國ハ土軍ノ自國領土通過ヲ認可セサルヤノ報アリ隨テ土耳其ノ戰爭ニ加入スルトスルモ何レノ方面ニ對シ宣戰スルヤニ關シテハ其真相ヲ知ルコト難キノミナラス又稍躊躇ノ色アルカ如シ此期ニ當リ土耳其政府カ突然治外法權ノ撤廢ヲ列強ニ聲明シタルヨリ觀レハ若シ土耳其ニシテ眞ニ戰爭ニ加入スルノ意思ナラシニハ治外法權撤廢ノ如キ戰爭ノ結果如何ニヨリ決定セラルル問題ニシテ今回ノ聲明ハ其意ヲ解シ難ク又若シ土耳其ニシテ飽迄中立ヲ嚴守スルノ意ナランニハ治外法權撤廢ノ聲明ハ其手段頗ル激烈ニシテ列強ノ容易ニ承諾セサルヘキハ勿論ナルヘキモ僥倖ヲ萬一二期シ得ラレストモ限ラス

北米合衆國法令

第一 中立態度ニ關スル件

(一) 海上ニ於ケル中立者ノ貿易阻礙ニ關スル英米兩國政府ノ交渉

(イ) 敵國商業制限ノ結果中立國商業ニ及ホスヘキ不便ヲ緩和スルコトニ關シ英國政府ノ取リタル態度ニ關スル六月十七日附覺書

(六月二十五日 ニューヨーク、ヘラレモ)

MEMORANDUM DEFENDING ACTS UNDER THE GERMAN BLOCKADE ORDER DECLARES SETTLEMENT OVER SEIZED CARGOES HAS BEEN EXPEDITED AS RAPIDLY AS POSSIBLE.

TEXT OF MEMORANDUM.

Following is the text of the memorandum as transmitted by Mr. Walter H. Page, American Ambassador:—

“The American Ambassador at London to the Secretary of State, *ad interim*:—

北米合衆國法令

五五三